

+

和文紀要号別目次

- 立命館學叢（1929年創刊）
- 法と經濟（1934年創刊）
- 立命館大學論叢（1942年創刊）
- 法と經濟（1947年復刊）
- 立命館法學（1952年創刊）

+

+

+

立命館學叢

第一卷 第一号 (1929年9月)

発刊の辞	田島学長	1
宗教論理	野々村梅所	3
法学入門(一)	板木郁郎	22
歳事研究	江馬務	45
独逸に於ける高等商業教育	串本友三郎	65
トマス・ハアデイの生涯と作品に就て	藤井啓一	75
地蔵説話の研究(一)	真鍋広濟	92
英国法提綱(一)	末包留三良	107

第一卷 第二号 (1929年10月)

俠客の研究(上)	江馬務	1
ウィレットの危険論	近藤文二	16
仮字の発達について	田中健三	25
レーニングの「国家」(一)	磯崎辰五郎	45
語原辞書と訓精要鈔に就て	岡田希雄	81
我国の外国貿易の現勢	井上次郎	98
トマス・ハーデイの生涯と作品に就て	藤井啓一	110
ジョン・スチュアート・ミルの経済原論に就て	井上巖次郎	119
米国に於ける殺人犯と死刑	横田精二郎	125

第一卷 第三号 (1929年11月)

金価変動に就ての考察	瀧澤喜子雄	1
漢字典改修私議	鷹取岳陽	31
レーニングの「国家」(二)	磯崎辰五郎	41
俠客の研究(中)	江馬務	67

我国の外国貿易の現勢(承前)	井上 次郎	81
法律学入門(第二時間)	板木 郁郎	105
地蔵説話の研究(二)	真鍋 広濟	134

第一巻 第四号(1929年12月)

語原辞書和訓精要鈔に就いて	岡田 希雄	1
レーニングの「国家」(三)	磯崎 辰五郎	18
漢字典改修私議	鷹取 岳陽	39
俠客の研究(下)	江馬 務	59
トマス・ハアデイの生涯と作品に就いて	藤井 啓一	69
英国法提綱(二)	末包 留三良	87

第一巻 第五号(1930年1月)

論語に見はれたる節儉と云ふ語に就て	田島 錦治	1
莊子の人生觀	本田 成之	8
レーニングの「国家」(四・完)	磯崎 辰五郎	24
語原辞書和訓精要鈔に就いて	岡田 希雄	52
経営経済学の発達(上)	串本 友三郎	62
地蔵説話の研究(三)	真鍋 広濟	86
都市財政に於ける受益者負担金制度の研究	広瀬 龜之祐	106

第一巻 第六号(1930年2月)

オグルヴィーの土地改革論	黒正 巖	1
柳宗元伝記	橋本 循	17
支那古代に於ける祭祀に就て(一)	茶谷 忠治	30
法律学入門(三)	板木 郁郎	49
経営経済学の発達(中)	串本 友三郎	70
地蔵説話の研究(四)	真鍋 広濟	88

第一卷 第七号 (1930年3月)

柳宗元伝記(承前)	橋本 循	1
国民性と経済(上)	菊田 太郎	18
金槐集攷(二)	大井 広	27
法律学入門(四)	板木 郁郎	39
トマス・ハアデイの生涯と作品について	藤井 啓一	56
都市財政に於ける受益者負担金制度の研究(承前)	広瀬 亀之祐	64
比較言語学汎論	一井 修	82

第一卷 第八号 (1930年4月)

語原辞書和訓精要鈔に就て(承前)	岡田 希雄	1
支那古代に於ける祭祀に就て(二)	茶谷 忠治	28
国民性と経済(中)	菊田 太郎	43
トマス・ハアデイの生涯と作品に就て	藤井 啓一	50
法律学入門(五)	板木 郁郎	61
地蔵説話の研究(五)	真鍋 広濟	95
金槐集攷(三)	大井 広	107

第一卷 第九号 (1930年5月)

永遠の羅馬	木戸 堅次	1
水錯行厨録(一)	心淵 子稿	9
遊廓と遊女の研究(その一)	江馬 務	13
経営経済学の発達(下)	串本 友三郎	27
支那古代に於ける祭祀に就いて(三)	茶谷 忠治	49
国民性と経済(下)	菊田 太郎	63
地蔵説話の研究(六)	真鍋 広濟	70
法律学入門(六)	板木 郁郎	97

第一巻 第十号 (1930年6月)

返還請求権の譲渡による所有権の移転(一)	田島 順	1
水錯行厨録(二)	心淵子稿	31
永遠の羅馬	木戸堅次	39
金槐集抄(四)	大井 広	53
トマス・ハーデイの生涯	藤井啓一	60
大阪市に於ける信託業の発達(一)	土井一徳	73

第二巻 第一号 (1930年9月)

水錯行厨録(三)	心淵子稿	1
遊女と遊廓との研究(その二)	江馬 務	11
永遠のローマ	木戸堅次	26
大阪市に於ける信託業の発達(二)	土井一徳	40
ゲロンシアスの夢	カーディナルニューマン作 内館忠蔵訳	65
トマス・ハアデイの生涯	藤井啓一	79
法律学入門(七)	板木郁郎	95

第二巻 第二号 (1930年10月)

独逸発券銀行の経営経済的研究(一)	串本友三郎	1
返還請求権の譲渡による所有権の移転(二)	田島 順	30
遊廓と遊女の研究(三)	江馬 務	59
ゲロンシアスの夢	カーディナルニューマン作 内館忠蔵訳	76
地蔵説話の研究(七)	真鍋広濟	101

第二巻 第三号 (1930年11月)

鴨長明発心集の著者に関する疑問(一)	岡田希雄	1
法の国家性について	磯崎辰五郎	29
プラトンの天才	内館忠蔵	65

トマス・ハアデイの生涯 藤井啓一 91

第二卷 第四号 (1930年12月)

遊廓と遊女の研究(四)	江馬 務	1
鴨長明発心集の著者に関する疑問(二)	岡田 希雄	20
独逸発券銀行の経営經濟的研究(二)	串本友三郎	50
法律学入門(八)	板木 郁郎	73
我国の外国貿易の現勢	井上 次郎	94
トマス・ハアデイの生涯	藤井 啓一	113

第二卷 第五号 (1931年1月)

支那語原説	高畑彦次郎	1
水錯行厨録(四)	心淵子稿	17
菊池氏の禅と楠氏の禅	野々村梅所	30
訴訟誠実の原則	小橋 寿夫	55
支那文学と隱遁思想	橋本 循	79
チューネンの生産立地理論について(一)	菊田 太郎	97
英国法提綱(三)	末包留三良	117

第二卷 第六号 (1931年2月)

租税價格理論と其の批判	大谷 政敬	1
鴨長明発心集の著者に関する疑問(三)	岡田 希雄	20
法律学入門(九)	板木 郁郎	48
トマス・ハアデイの生涯	藤井 啓一	72
遊廓と遊女の研究(五)	江馬 務	100

第二卷 第七号 (1931年3月)

水錯行厨録(五)	心淵子稿	1
鴨長明発心集の著者に関する疑問(四)	岡田 希雄	13

チューネンの生産立地理論について(二)	菊田太郎	44
独逸発券銀行の経営経済的研究(三)	串本友三郎	65
プラトンの運動論	内館忠蔵	87
トマス・ハアデイの生涯	藤井啓一	110
詩観に上る薔薇(一)	西尾宵星	122

第二巻 第八号(1931年4月)

論語に見はれたる経済思想に就て	田島錦治	1
人形劇について	加藤順三	17
鴨長明発心集の著者に関する疑問(五・完)	岡田希雄	38
チューネンの生産立地理論について(三)	菊田太郎	57
プラトンの弁証法	内館忠蔵	77
トマス・ハアデイの生涯	藤井啓一	101
詩観に上る薔薇(二)	西尾宵星	114

第二巻 第九号(1931年5月)

独逸発券銀行の経営経済的研究(四)	串本友三郎	1
ヨハンネス・スコツス・エリゲナとその哲学	長澤信寿	21
佐々木惣一博士「日本憲法要論」を読む	磯崎辰五郎	42
トマス・ハアデイの生涯	藤井啓一	59
法律学入門(十)	板木郁郎	81

第二巻 第十号(1931年6月)

水錯行厨録(六)	心淵子稿	1
独逸発券銀行の経営経済的研究(五)	串本友三郎	12
法律学入門(十一)	板木郁郎	42
プラトンの国家論	内館忠蔵	67
トマスハアデイの生涯	藤井啓一	103

第二卷 第十一号(第三卷 第一号)(1931年9月)

敬礼の変遷(上)	江馬務	1
十訓抄と白楽天	田中健三	13
科学と経済学説	大谷政敬	29
キャナンのスミス価値論批評	井上巖次郎	41
法律学入門(十二)	板木郁郎	54
清水宗治論	鷹取岳陽	81
トマス・ハアデイの生涯	藤井啓一	85

第三卷 第二号(1931年10月)

経営分析の認識目標(一)	小管敏郎	1
盗品遺失物と Hand wahre Hand(一)	田島順	16
プラトンと静止論	内館忠蔵	56
民訴草紙	小橋寿夫	82

第三卷 第三号(1931年11月)

抵当證券法	小橋寿夫	1
カール・メンガーの社会科学 特に政治経済学の方法に関する研究(一)	太田義夫	43
トマス・ハアデイの生涯	藤井啓一	69
財政学文献の諸主要方向	大谷政敬	98
十訓抄の教授に関して	田中健三	123

第三卷 第四号(1931年12月)

敬礼の変遷(下)	江馬務	1
国語撥音の標記史的考察	岡田希雄	14
盗品遺失物と Hand wahre Hand(二)	田島順	51
経営分析の認識目標(二)	小菅敏郎	85

トマス・ハアデイの生涯	藤井啓一	95
イエヒト氏の財政の場所(一)	大谷政敬	119

第三巻 第五号(1932年1月)

カール・メンガーの社会科学 特に政治経済学の方法に関する研究(二)	太田義夫	1
和名類聚抄中の撥音的地名	岡田希雄	37
フランク『責任概念の構成』	竹田直平	70

第三巻 第六号(1932年2月)

水錯行厨録(七)	心淵子稿	1
江戸時代に於ける京都の警吏	江馬務	20
フランク「責任概念の構成」に対する批評及びフランクの改説	竹田直平	35
独逸発券銀行の経営経済的研究(六)	串本友三郎	59
ラードブルフの民事訴訟主義概説	小橋寿夫	80
ラケダイモン	ウォルター・ペーター作 内館忠蔵訳	92

第三巻 第七号(1932年3月)

支那文学と類廃思想	橋本循	1
カールメンガーの社会科学 特に政治経済学の方法に関する研究(三)	太田義夫	25
犯罪徴表説に就て(一)	竹田直平	37
和名抄・本草和名・新撰字鏡等の撥音	岡田希雄	70
イエヒト氏の財政の場所(二)	大谷政敬	94

第三巻 第八号(1932年4月)

水錯行厨録(八)	心淵子稿	1
日本書紀の綺戸辺の訓み方に就て	岡田希雄	17
犯罪徴表説に就て(二)	竹田直平	48

我が国年中行事の発生とその特異性 中 永 義 弘 81

第三卷 第九号(1932年5月)

上代結婚の種々相	江 馬 務	1
独逸発券銀行の経営經濟的研究(七)	串 本 友 三 郎	22
犯罪徴表説に就て(三)	竹 田 直 平	50
ユーリピデイズ作「バカス信者」	ウォルター・ペーター作 内 館 忠 蔵 訳	86
民事判例研究	末 川 博	119

第三卷 第十号(1932年6月)

動産物権の移転に対する引渡の意味(一)	田 島 順	1
イエヒト氏の財政の意味(一)	大 谷 政 敬	33
我国の外国貿易の現勢	井 上 次 郎	54
民事判例研究	末 川 博	79
第十一世紀の哲学	エチエンヌ・チルソン 長 澤 信 寿 訳	100
上代婚姻の種々相(第二回)	江 馬 務	133

第四卷 第一号(1932年9月)

和名抄の信太と摂津風土記の久牟知山	岡 田 希 雄	1
動産物権の移転に対する引渡の意味(二)	田 島 順	37
イエヒト氏の財政の意味(二)	大 谷 政 敬	55
金本位制の進展	末 次 仁	81
民事訴訟判例研究	小 橋 寿 夫	109
被害法益と連続犯の判例について	古 賀 才 次 郎	119
米国新聞史論(一)	原 田 棟 一 郎	136
民事判例研究	末 川 博	163

第四卷 第二号(1932年10月)

清少納言素描 清 水 泰 1

米国新聞史論(二)	原田 棟一郎	35
動産物権の移転に対する引渡の意味(三)	田 島 順	55
イエヒト氏の財政の意味(三)	大 谷 政 敬	89
隠れたるヒポリタス(ユーリピディーズの研究)	ウォルター・ペーター 内 館 忠 蔵 訳	99
民事判例研究	伊東・片山・斎藤・後藤	113

第四巻 第三号(1932年11月)

習作時代に於けるギシングの作品	藤 井 啓 一	1
現行刑法に於ける責任と非難(一)	竹 田 直 平	15
米国新聞史論(三)	原 田 棟 一 郎	45
金本位制の進展	末 次 仁	63
隠れたるヒポリタス	ウォルター・ペーター 内 館 忠 蔵 訳	91

第四巻 第四号(1932年12月)

半挿語史攷	岡 田 希 雄	1
イエヒト氏の財政型態論(一)	大 谷 政 敬	29
米国新聞史論(四)	原 田 棟 一 郎	61
現行刑法に於ける責任と非難(二)	竹 田 直 平	81
カール・メンガーの社会科学 特に政治経済学の方法に関する 研究(四)	太 田 義 夫	95
民事判例研究	田中・大隅・近藤・伊東	107

第四巻 第五号(1933年1月)

善意の本質(一)	田 島 順	1
デイミーター女神とパーセファニィ女神との神話(一)	内 館 忠 蔵	27
張横渠の学説	本 田 成 之	43
米国新聞史論(五)	原 田 棟 一 郎	58
民事判例研究		
請負契約の解除	於 保 不 二 雄	87
代理人選任の委任	石 本 雅 男	92

手形の裏書と要素の錯誤 大森忠夫 96

第四卷 第六号 (1933年2月)

キツプリング雑考	藤井啓一	1
善意の本質(二)	田島順	23
イエヒト氏の財政型態論(二)	大谷政敬	65
小男のさうし	清水泰	89
デイミーター女神とパーセファニィ女神との神話(二)	内館忠蔵	105
民事判例研究		
抵当権の侵害に因る損害賠償額算定の標準時期	片山謙二	127
限定承認と相続債務の支払を命ずる判決	谷口知平	134
著作権法第十五条二所謂第三者，取締役の職務上ノ行為ト賠償責任	三木正雄	140

第四卷 第七号 (1933年3月)

感傷歌人大伴家持	小泉荃三	1
米国新聞史論(六)	原田棟一郎	21
社会科学に対するその補助科学としての，統計学の意義及び特殊 方法学としての統計学の提唱	杉栄	45
民事判例研究		
手附の性質	田島順	101
転付命令に因る手形債権の取得と手形の裏書	中田淳一	106
家屋明渡請求事件	張厚永	112

第四卷 第八号 (1933年4月)

イエヒト氏の財政型態論(三)	大谷政敬	1
感傷歌人大伴家持	小泉荃三	31
間接正犯(一)	竹田直平	53
米国新聞史論(七)	原田棟一郎	77
民事判例研究		
株式の譲渡と譲受人の株金払込義務	大隅健一郎	103

法人の保険金支払請求	松本正一	110
記名株式の質入と其の対抗要件	大森忠夫	116

第四卷 第九号 (1933年5月)

物名歌の字音撥音尾標記	岡田希雄	1
独逸発券銀行の経営經濟的研究(八)	串本友三郎	31
エドモンド・パーク(EDMUND BURKE)「崇高と美」(抄訳)	山本経	63
次田氏の国文学史新講を読む	岡田希雄	89
民事判例研究		
営業自由制限の特約	後藤清	99
連帯債務者の免責行為の競合	中川一郎	106
和解契約上の債権と消滅時効	浦谷清	114

第四卷 第十号 (1933年6月)

企業金融論	小島昌太郎	1
清涼殿の研究(上)	江馬務	19
間接正犯(二)	竹田直平	37
米国新聞史論(八)	原田棟一郎	61
民事判例研究		
胎児の損害賠償請求権と胎児の為としたる和解の効力	近藤栄吉	83
戸籍の不実の記載と私生子認知	福島四郎	91
危険予防設備請求事件	浅井清信	99

第五卷 第一号 (1933年9月)

独逸発券銀行の経営經濟的研究(九)	串本友三郎	1
再び古語拾遺の掃守の訓み方に就いて	岡田希雄	23
米国新聞史論(九)	原田棟一郎	67
民事判例研究		
着色を限定せざる登録商標の効力	斎藤武生	91
民事訴訟法第五七〇条第一項第三号の「劣役者」の意義	吉川大二郎	95

求償金請求事件(自紙委任状附株式譲受人の責任) 西本 穎 100

第五卷 第二号(1933年10年)

公債国家論	大谷政敬	1
オッペンハイムの国際法の基本概念	大淵仁右衛門	27
清涼殿の研究(下)	江馬務	57
土地収用に於ける事業の認定の性質	磯崎辰五郎	75
間接正犯(三)	竹田直平	87

第五卷 第三号(1933年11月)

近代国際法学者に現はれたる自然法思想の色彩に就て	大淵仁右衛門	1
所謂『Unechte Dumping』に就いて	高橋良三	19
北隣の日本廬山	鷹取岳陽	42
デイミーター女神とパーセファニイ女神	ウォルター・ベーター作 内館忠蔵訳	67
ジョウジ・ギシング評伝	藤井啓一	91

第五卷 第四号(1933年12月)

企業予算制度の成立に就いて	山本安次郎	1
英国地方制度の近代的発達	磯崎辰五郎	34
デイミーター女神とパーセファニイ女神	ウォルター・ベーター作 内館忠蔵訳	75
ジョウジ・ギシング小論	藤井啓一	99

法 と 經 濟

第一卷 第一号(1934年1月)

[論説]		
經濟と道德との合致(一)	田島錦治	1

行政機関の自由裁量	佐々木 惣一	20
企業金融より見たる通貨の三態様	小島 昌太郎	37
代理占有論(一)	末川 博	67
質権の成立と引渡	田島 順	92
我国当座取引の実相と其学的認識	串本 友三郎	124
財務費と施政費	大谷 政敬	142
〔資料〕		
シエイエス「特権論」(一)	大岩 誠	180
一九三三年に於ける国際政治の動向	田中直吉 大淵仁右衛門	201
〔判例研究〕		
民事判例研究	大隅健一郎・大森忠夫・谷口知平 片山謙二・於保不二雄・吉川大二郎	214
〔典籍往来〕		
Arthur Bondi; Neue Wege des Aktienrechtes	大森 忠夫	256
邦訳「カントの法律哲学」を読みて	加古 祐二郎	264
林癸未夫氏の国家社会主義原理	太田 義夫	272
瀧川幸辰氏著「刑法史の或る断層面」	竹田 直平	280
〔学界消息〕		
ベーリンクの学問的遺産	佐伯 千仍	285
公法研究会, 民法座談会, 法理学研究会, 京大訣別記念法学論文 集出版記念会		292

第一巻 第二号 (1934年2月)

〔論説〕

大学精神に関する私見	田村 徳治	1
多元主義と総体国家(一)	黒田 覚	31
合衆国に於ける製靴工業の所在地論	柏木 憲治	48
経済と道徳との合致(二)	田島 錦治	78
〔資料〕		
ナチスの民法改正意見	後藤 清	100
連盟改組案の経過及び予想	田中直吉 大淵仁右衛門	128
〔判例研究〕		
民事判例研究	於保不二雄・松本正一 中川一郎・大隅健一郎	137

〔典籍往来〕

末川博氏著「不法行為並に権利濫用の研究」	石 本 雅 男	160
吉田秀夫氏著「マルサス批判の発展」	井 上 巖 次 郎	170
〔学界消息〕		
公法研究会，民法座談会，経商研究会		180

第一卷 第三号（1934年3月）

〔論 説〕

制度の本質について	恒 藤 恭	1
経済と道德との合致(三)	田 島 錦 治	18
代理占有論(二)	末 川 博	43

〔資 料〕

所謂数理統計学に於ける統計学的理論構成の批判(一)	杉 栄	61
組織問題としての企業の指導	山 本 安 次 郎	81
シエイエス「特権論」(二・完)	大 岩 誠	101

〔判例研究〕

民事判例研究	浅井清信・板木郁郎 大隅健一郎・浦谷 清	119
--------	-------------------------	-----

〔典籍往来〕

林信雄氏著「判例を中心としたる債権法論」	浅 井 清 信	141
ソヴェトの東洋に於ける経済政策	田 中 直 吉	143
〔学界消息〕		
公法研究会，法理学研究会，経商研究会，民法座談会，刑法の会合		151

第一卷 第四号（1934年4月）

〔論 説〕

議会政治に対する悲観主義と楽観主義(一)	森 口 繁 治	1
我国財政の非常時性	大 谷 政 敬	15
扶助義務の法律上の性質	平 田 慶 吉	43
多元主義と総体国家(二・完)	黒 田 覚	63
代理占有論(三・完)	末 川 博	81

〔資料〕

所謂数理統計学に於ける統計学的理論構成の批判(二・完) 杉 栄 107

〔判例研究〕

刑事判例研究 瀧川幸辰 140

民事判例研究 末川博・石本雅男 151
吉川大二郎・後藤清

〔典籍往来〕

H. Rittershausen, Der Neubau des deutschen Kreditsystems. 1932. 串本友三郎 176

谷口博士著「百貨店連鎖店小売店問題」 山本安次郎 178

ジャン・シャバス氏「民事責任に於ける被害者の過失に就て」 片山謙二 182

〔学界消息〕

法理学研究会, 公法研究会, 刑法の会合, 民法座談会, 経商研究会 190

第一巻 第五号(1934年5月)

〔論説〕

近代法の形態性に就て 加古祐二郎 1

協定(Vereinbarung)概念に関する一考察(一) 八木清信 29

経済と道德との合致(四完結) 田島錦治 48

議会政治に対する悲観主義と楽観主義(二) 森口繁治 75

〔資料〕

ポリチス氏「個人の国際法上の地位」に就て 大淵仁右衛門 89

〔判例研究〕

刑事判例研究 瀧川幸辰 103

民事判例研究 八木清信・福島四郎 120
吉川大二郎

〔典籍往来〕

酒卷芳男氏著「皇室制度講話」 磯崎辰五郎 134

Werner Sombart: Die Zukunft des Kapitalismus. (1932) 高橋良三 139

田畑忍氏「帝国憲法逐条要義」 大石義雄 146

〔学界消息〕

法政研究会, 公法研究会, 経商研究会, 雑報 151

第一卷 第六号 (1934年6月)

〔論 説〕

闘争の論理と法理	田 村 徳 治	1
国民經濟の本質に関する一考察	太 田 義 夫	51
協定 (Vereinbarung) 概念に関する一考察(二・完)	八 木 清 信	63

〔資 料〕

対世権と対人權の差別の一般的意味	末 包 留 三 良	74
産業復興法のもとに於ける労働	井 上 巖 次 郎	86
中世武家法より見たる農民	清 水 三 男	99

〔判例研究〕

刑事判例研究	瀧 川 幸 辰	109
民事判例研究	末川 博・板木郁郎 石本雅男	118

〔典籍往来〕

立教授還暦祝賀 國際法・外交史論文集	田 中 直 吉 大淵仁右衛門	139
小菅敏郎氏著「貸借対照表分析論」を読む	山 本 安 次 郎	146

〔学界消息〕

北アメリカ政治学界消息一斑	大 岩 誠	151
公法研究会, 法政研究会, 刑法研究会, 経商研究会, 立命館大学 夏季講座		153

第二卷 第一号 (1934年7月)

〔論 説〕

法律解釈の本質(一)	栗 生 武 夫	1
「明認方法」に関する一考察	板 木 郁 郎	13
所謂個別經濟学論の一主張に就て	山 本 安 次 郎	40
労働協約の当事者(一)	後 藤 清	59

〔資 料〕

米國に於ける食料品製造業の配給構造	井 上 次 郎	78
ドイツの新国家組織	森 順 次	99
極東の形勢と歐洲の危機	國際問題研究会	118

〔判例研究〕

公法判例解評	佐々木 惣一	138
刑事判例研究	瀧川 幸辰	143
民事判例研究	八木 清信 石本 雅男	154
〔典籍往来〕		
織田萬「日本行政法原理」	磯崎 辰五郎	166
土方成美「国民経済読本」	太田 義夫	171
〔学界消息〕		
法理学研究会，公法研究会，経商研究会，刑法研究会，法政研究会，民事判例研究会		175

第二卷 第二号（1934年8月）

〔論説〕

フォエルバツハとその時代	瀧川 幸辰	1
独逸ライヒスバンクの戦時金融政策(上)	串本 友三郎	34
法律解釈の本質(二・完)	栗生 武夫	51
〔資料〕		
婚姻契約とこれに関する諸問題	平田 慶吉	65
文久元年露艦ボサドニックの対馬占拠に就いて(一)	禰津 正志	73

〔判例研究〕

公法判例解評	佐々木 惣一	91
刑事判例研究	瀧川 幸辰	97
民事判例研究	末川 博・浅井清信 吉川大二郎	110
〔典籍往来〕		
景气理論の方法的前提	祭原 光太郎	126
小島昌太郎「金融機構論」	山本 安次郎	133
荒木秀一「最近世界的景気動向の実体」	山本 安次郎	137
橋本文雄「社会法と市民法」	加古 祐二郎	139
〔学界消息〕		
海外経済学界点描，公法研究会，法政研究会，民事判例研究会，経商研究会，法理学研究会		147

第二卷 第三号 (1934年9月)

〔論 説〕

法の一般原則(一)	横 田 喜 三 郎	1
市制第二十八条・町村制第二十五条の解釈	磯 崎 辰 五 郎	34
国家と財政の連関(上)	大 谷 政 敬	53
労働協約の当事者(二・完)	後 藤 清	69

〔資 料〕

外国貿易理論に於ける連鎖論法の認識価値	高 橋 良 三	88
文久元年露艦ボサドニツクの対馬占拠に就いて(二)	禰 津 正 志	106

〔判例研究〕

公法判例解評	佐 々 木 惣 一	113
刑事判例研究	磯 崎 辰 五 郎	120
民事判例研究	瀧 川 幸 辰	120
	板 木 郁 郎	130
	谷 口 知 平	130

〔典籍往来〕

A. Forstmann, H. Nicklish, O. Fischer らの近著	串 本 友 三 郎	142
谷口吉彦「貿易統制論」	井 上 次 郎	144

〔学界消息〕

独逸経済学界, 民事判例研究会, 夏期講座記事		150
-------------------------	--	-----

第二卷 第四号 (1934年10月)

〔論 説〕

代議政治に於ける能率の問題(一)	森 口 繁 治	1
「政治的刑法科学」の任務と限界	安 平 政 吉	15
露西亞の満洲侵略	田 中 直 吉	44
ドイツ・ライヒスバンクの戦時金融政策(下・完)	串 本 友 三 郎	77

〔資 料〕

大量観察法の基本的的方法論的特殊性について(一)	杉 栄	93
文久元年露艦ボサドニツクの対馬占拠に就いて(三・完)	禰 津 正 志	107

〔判例研究〕

公法判例解評	原 龍 之 助	137
	中 谷 敬 寿	137

刑事判例研究	瀧川幸辰	143
民事判例研究	末川博・板木郁郎	152
〔典籍往来〕	福島四郎	
Kelsen の平和機構論を読む	大淵仁右衛門	168
鈴木安蔵「日本憲法学の生誕と発生」	田畑忍	177

第二巻 第五号 (1934年11月)

〔論説〕

法の技術的理念と国際法社会	恒藤恭	1
行為概念と行為性の限界(一)	竹田直平	26
法の一般原則(二・完)	横田喜三郎	44
国家と財政との連関(下・完)	大谷政敬	61

〔資料〕

大量観察法の基本的的方法論的特殊性について(二・完)	杉栄	107
----------------------------	----	-----

〔判例研究〕

公法判例解評	大石義雄	124
刑事判例研究	瀧川幸辰	128
民事判例研究	末川博・後藤清	142
〔典籍往来〕	吉川大二郎	
罪刑法定主義と応報刑	瀧川幸辰	159
スチムソン「欧羅巴に於ける民主主義と民族主義」	田中直吉	165
ジンツハイマアの「法律淵源論と労働法」	後藤清	170

〔学界消息〕

法政研究会, 経商研究会, 公法研究会, 民事判例研究会		175
------------------------------	--	-----

第二巻 第六号 (1934年12月)

〔論説〕

国民経済学の再建	作田荘一	1
英契約法に於ける undue influence の素描	末包留三良	24
統制経済と取引所	今西庄次郎	51
行為概念と行為性の限界(二・完)	竹田直平	79

〔資料〕

1861年より1919年に至る貸借対照表学説史 熊本吉郎 99

〔判例研究〕

公法判例解評 原龍之助 122

刑事法判例研究 瀧川幸辰 125

民事法判例研究 石本雅男・浅井清信 139
谷口知平

〔典籍往来〕

独逸労働秩序法における解約告知 浅井清信 156

クント「世界大戦後に於ける北アメリカの国際法学」 大淵仁右衛門 162

グスタフ・キューネル「行政学要論」 吉富重夫 165

〔学界消息〕

法理学研究会，法政研究会，公法研究会，民事判例研究会 175

第三巻 第一号（1935年1月）

〔論説〕

行政法の綱目に就いて 織田萬 1

最惠国約款と輸入割当制との抵触 谷口吉彦 15

判例に現れたる仮処分（一） 吉川大二郎 37

実践科学としての経営学論 山本安次郎 71

〔資料〕

梅田雲浜外三名囚獄日記 中川小十郎 97

日蘇満関係の一断面 国際問題研究会 148

〔判例研究〕

公法判例解評 佐々木惣一・磯崎辰五郎 169
大石義雄

刑事法判例研究 瀧川幸辰 176

民事法判例研究 片山謙二・板木郁郎 190
福島四郎

〔典籍往来〕

正木亮「監獄法概論」 竹田直平 206

八木(浅井)清信「労働契約の研究」 石本雅男 211

〔学界消息〕

法政研究会，民事判例研究会，公法研究会，法理学研究会，経商研究会 218

第三卷 第二号 (1935年2月)

〔論説〕

行政主義と行政社会	田村徳治	1
ビスマルクの外交政策史論序説	田中直吉	30
羅馬法に於ける Societas の概念とその機能(一)	石本雅男	51

〔資料〕

景気概念	祭原光太郎	75
支那に於ける日本の経済的地位	高橋良三	88

〔判例研究〕

公法判例解評	磯崎辰五郎・中谷敬寿 原龍之助	111
刑事法判例研究	瀧川幸辰	122
民事法判例研究	末川博・後藤清 石本雅男	134

〔典籍往来〕

ベルチコーネ「国家と政党」	大岩誠	150
美濃部達吉「日本憲法の基本主義」	田畑忍	155

〔学界消息〕

「公法雑誌」の発刊, 法政研究会, 経商研究会, 公法研究会, 民事判例研究会, 法理学研究会		164
---	--	-----

第三卷 第三号 (1935年3月)

〔論説〕

犯罪類型と犯人類型	瀧川幸辰	1
判例に現れたる仮処分(二・完)	吉川大二郎	13
羅馬法に於ける Societas の概念とその機能(二・完)	石本雅男	39

〔資料〕

中央銀行のインフレーション対策(上)	串本友三郎	67
一九三三年のドイツ新カルテル法	井上巖次郎	81

〔判例研究〕

公法判例解評	佐々木惣一・磯崎辰五郎 中谷敬寿・原龍之助	89
刑事法判例研究	瀧川幸辰	99

民事法判例研究	片山謙二・板木郁郎 吉川大二郎	109
〔典籍往来〕		
コローヴィン「成層圏の征服と国際法」	大淵仁右衛門	130
アルベルト・ヘッセ「統計学」	杉 栄	132
プリングスハイム「羅馬法律学の爛熟と終末」	淵 定	136
〔学界消息〕		
海外学界消息, 法政研究会, 経商研究会, 公法研究会, 民事判例研究会		142

第三卷 第四号 (1935年4月)

〔論 説〕

農村工業化について	八木芳之助	1
いはゆる使用者の賠償責任に関する一考察(一)	浅井清信	25
国際法典の編纂に就て	大淵仁右衛門	41

〔資 料〕

フランスに於ける国家改造論の諸相	大岩 誠	57
社会科学に対する数の意義	杉 栄	91

〔典籍往来〕

ジーゲルト「刑罰目的の責任及量刑への影響」	竹田直平	113
イー・エム・バタースン「動的世界に於ける固定的経済」	高橋良三	118
国際連盟と世界平和	大淵仁右衛門	122

〔判例研究〕

公法判例解評	佐々木惣一・磯崎辰五郎 大石義雄	126
刑事法判例研究	瀧川幸辰	133
民事法判例研究	浅井清信・後藤清博 福島四郎・末川博	148

〔学界消息〕

海外学界消息, 法政研究会, 公法研究会, 法理学研究会, 民事判例研究会		169
---------------------------------------	--	-----

第三卷 第五号 (1935年5月)

〔論説〕

社会政策学上の若干の根本問題	田村徳治	1
経営形態についての一考察	山本安次郎	27
社会法における政治的要素	後藤清	57
いはゆる使用者の賠償責任に関する一考察(二・完)	浅井清信	76

〔資料〕

中央銀行のインフレーション対策(下)	串本友三郎	92
--------------------	-------	----

〔判例研究〕

公法判例解評	依原静夫	100
刑事法判例研究	龍之助	105
民事法判例研究	瀧川幸辰	117
	末川博・石本雅男	
	片山謙二	

〔典籍往来〕

ハイルブロン「フォイエルバッハとイエナ」	瀧川幸辰	134
オッペルマン「労働法におけるドイツ的思想」	加古祐二郎	139
ヘーン「指導者が国家人か」	森順次	145
エイチ・ジェー・ウェルヒ「貨幣、外国貿易及び為替」	高橋良三	150

〔学界消息〕

海外学界消息, 法政研究会, 公法研究会, 法理学研究会, 民事判例研究会		155
---------------------------------------	--	-----

第三卷 第六号 (1935年6月)

〔論説〕

記名証券の有価証券的性質	竹田省	1
会計学の問題	蜷川虎三	10
英法に於ける親子関係の一考察	末包留三良	26
犯罪概念に於ける違法要素と責任要素	竹田直平	46

〔資料〕

養蚕業に於ける特約取引	柏木憲治	76
-------------	------	----

〔判例研究〕

公法判例解評	磯崎辰五郎・田畑 忍	90
刑事法判例研究	原 龍之助 瀧川 幸辰	96
民事法判例研究	吉川大二郎・板木郁郎 後藤 清	107

〔典籍往来〕

法律問題としてのデフレーション	浅井清信	123
フォアマン「新国際主義」	井上 次郎	127
経済事情が債務法に及ぼす影響	片山 謙二	132

〔学界消息〕

海外学界消息，法政研究会，経商研究会，経商座談会，公法研究会，民事判例研究会		142
--	--	-----

第四卷 第一号（1935年7月）

〔論 説〕

自主権と自主法	磯崎辰五郎	1
日本財政の動向	大谷政敬	21
近代法体系の多元的構造に就て(一)	加古祐二郎	45

〔資 料〕

商品の包装	金井治郎	71
計算価格の意義とその名称	熊本吉郎	86
ヒットラー・ドイツの現段階	国際問題研究会	103

〔判例研究〕

公法判例解評	中谷敬寿・依 静夫 原 龍之助	128
刑事法判例研究	瀧川 幸辰	133
民事法判例研究	石本雅男・浅井清信 福島四郎	144

〔典籍往来〕

田島錦治「東洋経済学史」	太田 義夫	161
フランスの政治を動かすもの	大岩 誠	165
ハンス・ペーター「統計的方法と帰納法」	杉 栄	170

〔学界消息〕

海外学界消息，法政研究会，公法研究会，法理学研究会，経商研究会，民事判例研究会		176
---	--	-----

第四卷 第二号 (1935年8月)

〔論説〕

資本の廻転と資金の流通	小島昌太郎	1
法的人格者の原始的型態(一)	恒藤恭	21
ビスマルクの保障政策史論(上)	田中直吉	39
近代法体系の多元的構造に就て(二・完)	加古祐二郎	58

〔資料〕

北米合衆国に於ける技術的失業の問題	井上巖次郎	83
-------------------	-------	----

〔判例研究〕

公法判例解評	磯崎辰五郎・中谷敬寿 大石義雄	94
刑事法判例研究	瀧川幸辰	103
民事法判例研究	後藤清・吉川大二郎 末川博	113

〔典籍往来〕

近代の英国衡平法の動向	末包留三良	134
瀧川幸辰「最近の大審院刑事判例研究」	竹田直平	138
オットー・ドンナー「株式市場に於ける相場構成」	石田興平	143

〔学界消息〕

海外学界消息, 法政研究会, 法理学研究会, 公法研究会, 民事判例研究会		147
---------------------------------------	--	-----

第四卷 第三号 (1935年9月)

〔論説〕

名誉毀損罪の一問題	瀧川幸辰	1
大量観察方法論の手續論的性格について	杉栄	16
Collegium における法人格の研究	石本雅男	39
法的人格者の原始的型態(二・完)	恒藤恭	67

〔資料〕

太平洋岸の鮭の漁獲と缶詰類の製造	井上次郎	85
------------------	------	----

〔判例研究〕

公法判例解評	佐々木惣一・中谷敬寿 原龍之助・田畑忍	105
--------	------------------------	-----

刑事法判例研究	瀧川幸辰	117
民事法判例研究	浅井清信・片山謙二 板木郁郎	130
〔典籍往来〕		
エル・ネール・フォン・デア・ナーメル「国民経済的信用基本」	串本友三郎	151
ナチス立法鳥瞰書	後藤清	154
キュスター「小協商国の国際法上の地位」	大淵仁右衛門	160
チムマル「正犯・共犯・加担」	竹田直平	163
〔学界消息〕		
海外学界消息，民事判例研究会，法理学研究会，夏期講座記事		169

第四卷 第四号（1935年10月）

〔論説〕

会計方法の理論（一）	蜷川虎三	1
N・R・Aの行方（上）	太田義夫	18
慰労休暇請求権（一）	後藤清	57
ビスマルクの保障政策史論（下）	田中直吉	73

〔判例研究〕

公法判例解評	高橋貞三・磯崎辰五郎・中谷敬寿 大石義雄・森順次	98
刑事法判例研究	瀧川幸辰	107
民事法判例研究	後藤清・吉川大二郎 板木郁郎	122

〔典籍往来〕

堀部浅著「取締法規違反実例集」，潮道佐編著「註釈刑事記録」	瀧川幸辰	143
レプケ「独逸商業政策」	高橋良三	146
〔学界消息〕		
海外学界消息，民事判例研究会		152

第四卷 第五号（1935年11月）

〔論説〕

行政方針に関する原理	田村徳治	1
会計方法の理論（二・完）	蜷川虎三	24
N・R・Aの行方（下・完）	太田義夫	38

慰労休暇請求権(二・完)	後藤清	58
〔資料〕		
非財産的損害賠償理論(一)	片山謙二	81
〔判例研究〕		
公法判例解評	佐々木惣一・高橋貞三・磯崎辰五郎 中谷敬寿・田畑忍	96
刑事法判例研究	瀧川幸辰	108
民法判例研究	福島四郎・石本雅男 浅井清信	117
〔典籍往来〕		
フィッシャー「生産量と貨幣量」	井上巖次郎	131
フェアドロツス「取消し得べき条約と無効なる条約」	大淵仁右衛門	134
マクス・ヴント「独逸観念論における大学の意義」	吉富重夫	137
〔学界消息〕		
法政研究会, 公法研究会, 法理学研究会, 経商研究会, 民事判例研究会		145

第四卷 第六号(1935年12月)

〔論説〕		
公法人と公法人の行為	佐々木惣一	1
経費膨脹と生産性及不生産性の問題	大谷政敬	14
仮差押の効力	吉川大二郎	36
ヘーゲル及びマルクスに於ける経済と政治との連関	高橋良三	59
〔資料〕		
非財産的損害賠償理論(二・完)	片山謙二	82
〔判例研究〕		
公法判例解評	磯崎辰五郎・中谷敬寿 森順次	105
刑事法判例研究	瀧川幸辰	115
民法判例研究	片山謙二・板木郁郎 末川博	125
〔典籍往来〕		
ドイツの改正株式法に於ける準備金について	熊本吉郎	144
アルフレッド・ヤコブス「代表統計学の領域」	杉栄	150
カロルス・フェルド「法律解釈学に対する法制史的研究の意義」	石本雅男	154

〔学界消息〕

海外学界消息，法政研究会，公法研究会，記念論文集の発刊，立命館大学法経学会記事，第四巻総目次	160
--	-----

第五巻 第一号（1936年1月）

〔論 説〕

法令の文章字句	織 田 萬 1
ライヒスバンクの外資政策批判	串 本 友 三 郎 16
罪数と責任	竹 田 直 平 30

〔資 料〕

北支自治問題	国際問題研究会 54
フランス経営学に就て(上)	山 本 安 次 郎 80

〔判例研究〕

公法判例解評	高橋貞三・中谷敬寿 野村治一 105
刑事法判例研究	瀧 川 幸 辰 114
民事法判例研究	吉川大二郎・後藤 清 板木郁郎 124

〔典籍往来〕

吉川大二郎編著「民事訴訟記録」	瀧 川 幸 辰 142
江家義男訳「ソヴィエツ刑法・刑事訴訟法・改善労働法」	瀧 川 幸 辰 142
小島昌太郎著「金融動態論」	石 田 興 平 147

〔学界消息〕

海外学界消息，公法研究会，法政研究会，経商研究会，法理学研究会，民事判例研究会	153
---	-----

第五巻 第二号（1936年2月）

〔論 説〕

フォエルバッハとサヴィニー	瀧 川 幸 辰 1
詐害行為の若干問題(一)	板 木 郁 郎 16
物的二勘定系統説に於ける損益勘定に就て	熊 本 吉 郎 34

〔資 料〕

英法に於ける弁護士と依頼人の関係	末 包 留 三 良 58
------------------	--------------

フランス経営学に就て(下)	山本安次郎	80
〔判例研究〕		
公法判例解評	高橋貞三 磯崎辰五郎	105
刑事法判例研究	瀧川幸辰	111
民事法判例研究	浅井清信・福島四郎 石本雅男	121
〔典籍往来〕		
ドイツ国労働裁判所の判例に現れたナチスの思想	浅井清信	137
ヘルマン・レーダー「道徳と法との連関」	加古祐二郎	142
Wagemann, Zwischenbilanz der Krisenpolitik	串本友三郎	149
ドルパーレン「株主の誠実義務」	長岡富三	153
〔学界消息〕		
公法研究会, 法政研究会, 経商研究会, 法理学研究会, 民事判例研究会		159

第五卷 第三号 (1936年3月)

〔論説〕		
道徳的人格と法的人格(一)	恒藤恭	1
統計の方法の対象に就て(一)	杉栄	18
詐害行為の若干問題(二・完)	板木郁郎	37
〔資料〕		
ドイツ第二国家機構とその崩壊	森順次	56
恐慌の企業金融に及ぼす作用とこれが対策	祭原光太郎	80
〔判例研究〕		
公法判例解評	高橋貞三 磯崎辰五郎	99
刑事法判例研究	瀧川幸辰	103
民事法判例研究	吉川大二郎・後藤清 板木郁郎	112
〔典籍往来〕		
関口泰「選挙読本」	磯崎辰五郎	128
ウェーバー「一時的執行停止決定の取消と損害賠償」	吉川大二郎	130
神戸博士「増税及整稅論」	大谷政敬	133
〔学界消息〕		
海外学界消息, 経商研究会, 民事判例研究会		137

第五卷 第四号 (1936年4月)

〔論 説〕

売買における危険負担	浅井清信	1
租税の生成発展と機構(一)	大谷政敬	27
独立権と干渉	大淵仁右衛門	40
道徳的人格と法的人格(二・完)	恒藤恭	59
統計的方法の対象に就て(二・完)	杉 荣	78

〔資 料〕

マーレック・ブライトの金融市場理論	串本友三郎	98
-------------------	-------	----

〔判例研究〕

公法判例解評	磯崎辰五郎 森 順次	118
刑事法判例研究	瀧川幸辰	122
民事法判例研究	浅井清信・片山謙二 石本雅男	133

〔典籍往来〕

May, L.-P., L'ancien régime devant le mur d'argent	大岩 誠	150
朱其華「中国社会的經濟結構」	高橋良三	155
Sobei Mogi & H.V. Redman; The Problem of the Far East	田中直吉	160
小島昌太郎「経営学論」	山本安次郎	165

〔学界消息〕

海外学界消息, 法政研究会, 経商研究会, 公法研究会, 民事判例研究会		170
--------------------------------------	--	-----

第五卷 第五号 (1936年5月)

〔論 説〕

契約における形式	末川 博	1
最近の協調組合主義思潮	大岩 誠	16
短期清算取引に於ける繰延料の機能とその決定	石田 興平	38
不法行為論に於ける過失主義と無過失主義	石本 雅男	52
サニエーの法律学について(一)	淵 定	81

〔資料〕

時事経済資料	太田義夫	95
〔判例研究〕		
公法判例解評	高橋貞三・中谷敬寿 野村治一	114
刑事法判例研究	瀧川幸辰	120
民事法判例研究	福島四郎・吉川大二郎 浅井清信	131
〔典籍往来〕		
フリッツ・シュルツ「ローマ法原理」	浅井清信	150
Verdroß: Der Grundsatz "Pacta sunt servanda"	大淵仁右衛門	155
ルツツ 景気の現実的説明	祭原光太郎	159
ナチス学者の観た所有権概念の変遷	後藤清	162
〔学界消息〕		
法理学研究会, 民事判例研究会		169

第五卷 第六号 (1936年6月)

〔論説〕

資金の需要供給と金融の緩慢逼迫	小島昌太郎	1
リカドオ自由貿易論の社会的意義	井上次郎	12
正犯概念の拡張と共犯概念の拡張	竹田直平	29
サニエーの法律学について(二・完)	淵定	58
〔資料〕		
資本会社の組織変更促進のためのナチス立法	長岡富三	72
〔判例研究〕		
公法判例解評	高橋貞三・磯崎辰五郎 田畑忍	94
刑事法判例研究	瀧川幸辰	98
民事法判例研究	後藤清・片山謙二 板木郁郎	106
〔典籍往来〕		
レビー・ウルマン 英法の伝統	末包留三良	125
マックス・ホルン 企業の決算貸借対照表に於ける評価問題について	熊本吉郎	129
ポルンハック「憲法の系譜」	森順次	134
アウラー「有機的経営経済」	祭原光太郎	140

〔学界消息〕

海外学界消息, 法政研究会, 経商研究会, 民事判例研究会, 公法研究会, 第五巻総目次	145
--	-----

第六巻 第一号 (1936年7月)

〔論説・資料〕

行政機構の改革目標(一)	田村徳治	1
仮処分の執行期間について	吉川大二郎	27
規範的経営学説の批判(一)	山本安次郎	46
租税の生成発展と機構(二・完)	大谷政敬	59
独逸合邦問題	国際問題研究会	89

〔時論〕

日濠通商異変	太田義夫	113
--------	------	-----

〔判例研究〕

公法判例解評	佐々木惣一・磯崎辰五郎 大石義雄	119
刑事法判例研究	瀧川幸辰	124
民事法判例研究	浅井清信・石本雅男 吉川大二郎	133

〔典籍往来〕

オスカー・アンデルソン『数理統計学入門』	杉 栄	150
安平政吉『刑法改正の基本理論』	竹田直平	154

第六巻 第二号 (1936年8月)

〔論説・資料〕

独逸接近と三帝協商	田中直吉	1
会計学的資本概念についての一考察	熊本吉郎	28
統治組織の分立の原理(一)	吉富重夫	51
行政機構の改革目標(二・完)	田村徳治	67
規範的経営学説の批判(二・完)	山本安次郎	86

〔時論〕

退職積立金及退職手当法批判	浅井清信	101
増税案批判	大谷政敬	109

〔判例研究〕

公法判例解評	磯崎辰五郎・田畑 忍 大石義雄	117
刑事法判例研究	瀧川 幸 辰	122
民事法判例研究	板木郁郎・浅井清信 福島四郎	131
〔典籍往来〕		
ポップ Die Politik der Deutschen Reichsbank seit der Stabilisierung	串 本 友 三 郎	151
阿部源一，シュパン社会経済学説体系	太 田 義 夫	154

第六卷 第三号（1936年9月）

〔論説・資料〕

帝国憲法に於ける法律	佐々木 惣 一	1
即時取得と不当利得	板 木 郁 郎	22
経済と芸術との交渉	高 橋 良 三	35
国際法の拘束力の基礎に関する諸学説に就て	大淵仁右衛門	57
本邦輸出貿易品の動向	柏 木 憲 治	75
統治組織の分立の原理(二・完)	吉 富 重 夫	100

〔判例研究〕

公法判例解評	佐々木惣一・磯崎辰五郎 大石義雄	115
刑事法判例研究	瀧川 幸 辰	121
民事法判例研究	後藤 清・片山謙二 吉川大二郎	132
〔典籍往来〕		
シュマルツ「原価と公正価格」	山 本 安 次 郎	149
ニッペルダイ「ナチス新労働法の体系」	石 本 雅 男	154

第六卷 第四号（1936年10月）

〔論説・資料〕

土地収用法に於ける収用権者	磯 崎 辰 五 郎	1
統計的総体の統計学的性質について	杉 栄	15
登記請求権について	浅 井 清 信	38
中小商工業金融に於ける債務保証及損失補償制度に就て	井 上 巖 次 郎	61

中世末期の独逸に於ける団体理論(一)	石 本 雅 男	76
国際通商關係に於ける双互主義	井 上 次 郎	88
〔時 論〕		
具体的国策決定の基本的条件に就て	太 田 義 夫	106
退職積立金法の現在と将来	後 藤 清	113
〔判例研究〕		
公法判例解評	磯崎辰五郎・中谷敬寿 田畑 忍	125
刑事法判例研究	瀧 川 幸 辰	134
民事法判例研究	石本雅男・浅井清信 吉川大二郎	143
〔典籍往来〕		
フィッシャー「株式法改正とコンツェルン制度」	長 岡 富 三	161

第六卷 第五号(1936年11月)

〔論説・資料〕

詐欺罪の若干問題	瀧 川 幸 辰	1
金融恐慌以来のライヒスバンク政策(一)	串 本 友 三 郎	16
仮差押手續に於ける保証(一)	吉 川 大 二 郎	32
税制改革	大 谷 政 敬	50
中世末期の独逸に於ける団体理論(二・完)	石 本 雅 男	82
〔時 論〕		
金ブロックの全面的崩潰とその対策	太 田 義 夫	107
〔判例研究〕		
公法判例解評	高 橋 貞 三 森 順 次	114
刑事法判例研究	瀧 川 幸 辰	118
民事法判例研究	福島四郎・板木郁郎 後藤 清	125
〔典籍往来〕		
D・F・ホワイト「ソヴェトの戦争哲学」	高 橋 良 三	143
田村徳治「国際社会の将来と新国際主義」	吉 富 重 夫	148

第六卷 第六号 (1936年12月)

〔論説・資料〕

国防経済の必然性	太田義夫	1
指導者主義行政の概観	森順次	20
トムスに於ける経営管理の概念に就て	山本安次郎	38
仮差押手続に於ける保証(二・完)	吉川大二郎	64
金融恐慌以来のライヒスバンク政策(二・完)	串本友三郎	93

〔時論〕

日支抗争の新局面	田中直吉	110
----------	------	-----

〔判例研究〕

公法判例解評	磯崎辰五郎 大石義雄	118
刑事法判例研究	瀧川幸辰	120
民事法判例研究	末川博・板木郁郎 浅井清信	132

〔典籍往来〕

ヘックの利益法学とナチスの法律革新	浅井清信	150
アブラート 租税貸借対照表の訂正と変改	熊本吉郎	156

第七卷 第一号 (1937年1月)

〔論説・資料〕

共犯と責任	竹田直平	1
社会過程における戦争	高橋良三	31
更正登記について	浅井清信	54
固定資本と景気変動	石田興平	71

〔時論〕

昭和十二年度予算	大谷政敬	98
アメリカ中立問題	国際問題研究会	109

〔判例研究〕

公法判例解評	区画整理補償金決定	田畑忍	126
	選挙争訟と補充当選者	森順次	127
刑事法判例研究	収受と要求との関係	瀧川幸辰	130

	利害關係の誘導	瀧川幸辰	134
	共謀に因る共同正犯	竹田直平	136
民事法判例研究	不当利得の範圍	石本雅男	141
	借地権の存続と買取請求	後藤清	146
	贈与と遺留分害意	福島四郎	156
〔典籍往来〕			
	マカロフ「ソヴェート・ロシアに於ける国際法学」	大淵仁右衛門	161
	堀江邑一訳「統計学と弁証法」	杉 栄	164

第七卷 第二号 (1937年2月)

〔論説・資料〕

	異議を留めざる承諾の効力	板木郁郎	1
	三国同盟論(一)	田中直吉	25
	利益概念統一に関する一研究	熊本吉郎	47
	旧幕時代の農民の土地所有権序説	淵 定	71
	カーヴァの労働時間短縮の理論	井上巖次郎	89

〔時 論〕

	世界景気恢復の意味	高橋良三	104
--	-----------	------	-----

〔判例研究〕

公法判例解評	無封印の動産差押	磯崎辰五郎	111
	差押解除と不服の理由消滅	大石義雄	113
刑事法判例研究	謂ゆる共謀共同正犯	瀧川幸辰	114
	従犯の従犯	竹田直平	119
	職務に密接の行為	瀧川幸辰	124
民事法判例研究	条件付所有権の仮登記	板木郁郎	128
	先順位抵当権の一部拋棄	浅井清信	134
	会社設立無効と商法罰則	片山謙二	140

〔典籍往来〕

	ドイツ銀行統制に関する若干の批判	串本友三郎	144
	クローゼ「法律哲学的觀念論と国民社会主義的世界觀」	石本雅男	148
	カアル・レスレ「ニクリッシュと規範的經營学」	山本安次郎	155

第七卷 第三号 (1937年3月)

〔論説・資料〕

市制二八条・町村制二五条の解釈再論	磯崎辰五郎	1
蜷川博士のフォン・マイヤー批判の批判	杉 栄	15
シャム王国憲法	森 順次	44
スウィーニーの購買力資本維持会計	小田垣成夫	65
三国同盟論(二・完)	田中直吉	94

〔判例研究〕

公法判例解評	市会議員選挙の問題	原 龍之助	118
	戸数割賦課の当否	森 順次	120
刑事法判例研究	従犯の幫助	瀧川幸辰	123
	共犯と偽証罪の成立	瀧川幸辰	126
	小作争議抗争中の恐喝	竹田直平	128
民事法判例研究	仮登記付請求権の効力	浅井清信	134
	連帯債務と混同の効果	石本雅男	139
	株金払込催告と仮処分	吉川大二郎	144

〔典籍往来〕

ドロスト「国際法の基礎」	大淵仁右衛門	149
古林喜楽「経営労務論」	山本安次郎	153
ドレクスラー「北米合衆国法における株主の地位」	長岡富三	155
栗栖起夫「工業金融」	井上巖次郎	163

第七卷 第四号 (1937年4月)

〔論説・資料〕

共犯の若干問題	瀧川幸辰	1
請負契約の本質について	浅井清信	20
自由貿易運動に対するマルクスの態度	井上次郎	46
連盟主義と国際社会の方向	大淵仁右衛門	63
本邦綿業の国際収支上の意義	柏木憲治	80

〔時 論〕

「愛国航空債券」に就て 太 田 義 夫 103

〔判例研究〕

公法判例解評	待遇職員の退職給与金	磯 崎 辰 五 郎	111
刑事法判例研究	未決勾留と刑の執行	瀧 川 幸 辰	114
	自己の為の偽証教唆	竹 田 直 平	116
	選挙法の不知と刑の減輕	瀧 川 幸 辰	124
民事法判例研究	手数料の控除と消費貸借	板 木 郁 郎	127
	民法七一五条の被用者	後 藤 清	131
	出生届と養子縁組	福 島 四 郎	137

〔典籍往来〕

アムモンの社会政策的營業報告の主張	串 本 友 三 郎	143
ナチス刑法草案と労働力保護	後 藤 清	147
粟生武夫「法の変動」について	淵 定	152

第七卷 第五号(1937年5月)

〔論説・資料〕

行政作用機構に関する原理	田 村 徳 治	1
保全処分の競合(一)	吉 川 大 二 郎	25
地方税制機構	大 谷 政 敬	45
違法の判断(一)	竹 田 直 平	74
販売の季節的動揺とその対策	祭 原 光 太 郎	93

〔判例研究〕

公法判例解評	選挙の違法と課税の性質	高 橋 貞 三	111
	拳証の責任	大 石 義 雄	112
	路線認定処分と出訴権	森 順 次	113
刑事法判例研究	北海道の保安林窃盗	瀧 川 幸 辰	116
	賄賂要求罪の成立要件	竹 田 直 平	119
民事法判例研究	仮登記原因の取消と和解	浅 井 清 信	126
	補償料給与と通知と期待権	片 山 謙 二	131
	家屋所有権移転と敷金	石 本 雅 男	136

〔典籍往来〕

ダイヤモンド「行政学の課題」	吉 富 重 夫 142
フレデリクスン「一七八九年仏国憲法議会の部会」	森 義 宣 148
堀新一「百貨店問題の研究」	山 本 安 次 郎 153
目崎憲司「計画経済」	太 田 義 夫 156

第七卷 第六号(1937年6月)

〔論説・資料〕

信用統制批判	串 本 友 三 郎 1
損益中和点について	山 本 安 次 郎 18
行政組織の集中と統合	吉 富 重 夫 46
保全処分の競合(二・完)	吉 川 大 二 郎 69
違法の判断(二)	竹 田 直 平 88

〔時 論〕

現下の財政経済政策批判	大 谷 政 敬 100
企画庁と計画経済	太 田 義 夫 109

〔判例研究〕

公法判例解評	町村制一四〇条	高 橋 貞 三 116
	所謂一身上に関する事件	磯 崎 辰 五 郎 118
刑事法判例研究	連続犯とその表示方法	瀧 川 幸 辰 121
	外国為替管理法と予備罪	瀧 川 幸 辰 123
	選挙法と所謂打撃の錯誤	竹 田 直 平 125
民事法判例研究	即時取得と占有の改定	末 川 博 131
	民法九〇八条と親族会員	福 島 四 郎 137
	詐害行為取消権と仮処分	吉 川 大 二 郎 142

〔典籍往来〕

何幹之「中国社会性質問題論戦」	高 橋 良 三 148
シェーファー編纂「経営経済的市場研究文献目録」	祭 原 光 太 郎 154
スペインにおける欧洲戦争	田 中 直 吉 158
後藤清「退職積立金及退職手当法論」	浅 井 清 信 163

第八卷 第一号 (1937年7月)

〔論説・資料〕

物權行為と其の原因	末 川 博	1
經濟性の表現としての利益について	熊 本 吉 郎	14
ビスマルクの協商政策(一)	田 中 直 吉	39
支那社会經濟論序稿	高 橋 良 三	61
独逸新株式会社法概観(一)	長 岡 富 三	80

〔時 論〕

予審判事の証人資格	瀧 川 幸 辰	101
-----------	---------	-----

〔判例研究〕

公法判例解評	家屋税と敷地造作	大 石 義 雄	109
	家屋賃借価格の算定	森 順 次	112
刑事法判例研究	選挙法——二条五の「目的」	瀧 川 幸 辰	116
	間接教唆の幫助	瀧 川 幸 辰	118
	中止犯と傷害未遂	竹 田 直 平	123
民事法判例研究	親権喪失原因の消滅	福 島 四 郎	128
	買主の果実収取権	浅 井 清 信	132
	継続的契約と同時履行抗弁	後 藤 清	140

〔典籍往来〕

フランク・ジイジェーク「非代表的統計的部分調査」	杉 栄	145
瀧川幸辰「刑事法判決批評第一巻」、草野豹一郎「刑事判例研究第三巻」	竹 田 直 平	150
中田先生還暦祝賀法制史論集	淵 定	152
国防經濟の二論著	串 本 友 三 郎	154

第八卷 第二号 (1937年8月)

〔論説・資料〕

現金論	小 島 昌 太 郎	1
信用統制の一問題	串 本 友 三 郎	18
独逸市町村制に於ける自治監督	磯 崎 辰 五 郎	34

行政と行政法		吉 富 重 夫	50
保険証券担保貸付に就て		西 藤 雅 夫	78
〔判例研究〕			
公法判例解評	署名なき差押調書	中 谷 敬 寿	93
	認定前の権利取得申込	森 順 次	97
刑事法判例研究	刑法六五条一項と選挙法	瀧 川 幸 辰	99
	親族保管の他人の物と窃盗	瀧 川 幸 辰	102
	要塞地帯法と過失犯	竹 田 直 平	103
民事法判例研究	会社解散と職務停止仮処分	吉 川 大 二 郎	110
	地役権と報酬支払の特約	板 木 郁 郎	117
	商号と財産権の性質	片 山 謙 二	123
〔典籍往来〕			
バランドン「連盟改造案に就て」		大 淵 仁 右 衛 門	130
マルチン・ローマン「経営経済学」		山 本 安 次 郎	134
薛暮橋「封建・半封建和資本主義」		高 橋 良 三	140
瀧川幸辰「刑法雑筆」		竹 田 直 平	147

第八卷 第三号（1937年9月）

〔論説・資料〕

正義の本質に就いて(一)		恒 藤 恭	1
不況対策としての輸入割当制		井 上 次 郎	13
判例に現れた債権者危険負担		浅 井 清 信	39
株式相場構成の機構		石 田 興 平	61
独逸新株式会社法概観(二・完)		長 岡 富 三	85
〔判例研究〕			
公法判例解評	東京市特別税の徴収	高 橋 貞 三	115
	恩給請求者の進達拒絶	磯 崎 辰 五 郎	117
刑事法判例研究	取締規則違反と過失犯	瀧 川 幸 辰	119
	麻雀競技と賭博罪	竹 田 直 平	124
民事法判例研究	無権利者の占有の妨害	石 本 雅 男	130
	商・工組合法と統制	後 藤 清	135

〔典籍往来〕

エルンスト・ヴァーゲマン「統計は愚弄する鏡」	杉	栄	144
銭俊瑞「中国国防経済建設」	高	橋 良 三	149
具島兼三郎「ナチス準戦時国家体制」	田	中 直 吉	155

第八卷 第四号（1937年10月）

〔論説・資料〕

特別事情に基く仮処分の取消（一）	吉	川 大 二 郎	1
構造的統計系列の理論（一）	杉	栄	21
ポーランド新選挙法	森	順 次	42
支那貿易の国際的意義	柏	木 憲 治	65
正義の本質について（二・完）	恒	藤 恭	90

〔時 論〕

改正工業組合法	井	上 巖 次 郎	101
---------	---	---------	-----

〔判例研究〕

公法判例解評	家屋の賃貸価格の修正	磯	崎 辰 五 郎	111
	自転車使用者と自転車税	森	順 次	113
刑事法判例研究	賄賂の要求と交付收受	瀧	川 幸 辰	115
	事務長の書面承諾の範囲	瀧	川 幸 辰	118
	賄賂金額の返還と追徴	竹	田 直 平	120
民事法判例研究	不法行為と過失相殺	板	木 郁 郎	127
	所有権冒認の保存登記	浅	井 清 信	134
	商業組合の統制違反	後	藤 清	140

〔典籍往来〕

ホルツァー「簿記及貸借対照表理論の公理化」	小	田 垣 成 夫	145
ガーナー「一九三七年のアメリカ中立法」	大	淵 仁 右 衛 門	150

第八卷 第五号（1937年11月）

〔論説・資料〕

国家機関の遵法精神	佐	々 木 惣 一	1
国防経済の課題	太	田 義 夫	15

英国破産法における否認権(一)	板木郁郎	40
リカアドウの価値論と貨幣論との矛盾(一)	武藤守一	62
特別事情に基く仮処分の取消(二・完)	吉川大二郎	74
構造的統計系列の理論(二・完)	杉 栄	103
〔判例研究〕		
公法判例解評 議員総辞職と繰上当選	磯崎辰五郎	123
妻の専用物件と所有権	大石義雄	126
刑事法判例研究 結果防止依頼と中止未遂	瀧川幸辰	136
施行期の前後に跨る犯罪	瀧川幸辰	140
教唆と罪数	竹田直平	143
民事法判例研究 身分上の法律行為と仮処分	吉川大二郎	149
法定地上権の対抗力	板木郁郎	155
親族会員の資格喪失	福島四郎	159
〔典籍往来〕		
ボイク「評価原則並に評価実例」	熊本吉郎	163
Joltan Mágyary「強力なる行政府」	森 順次	168

第八卷 第六号(1937年12月)

〔論説・資料〕

構成要件と違法の判断	竹田直平	1
国家収入調達に就て	大谷政敬	32
政府の変更と国家の同一性	大淵仁右衛門	66
英国破産法における否認権(二・完)	板木郁郎	81
リカアドウの価値論と貨幣論との矛盾(二・完)	武藤守一	101
〔判例研究〕		
公法判例解評 地租納期とその附加税	高橋貞三	115
住所の認定	磯崎辰五郎	118
刑事法判例研究 詐欺罪の成立	瀧川幸辰	121
個々面接罪	瀧川幸辰	124
絵画の偽作と偽造罪	竹田直平	126
民事法判例研究 仮処分執行の解除と異議	吉川大二郎	135
仮装行為の所有権移転登記	浅井清信	139

民法第三九五条の意義

石 本 雅 男 145

〔典籍往来〕

ベンノク「法律と主権」

吉 富 重 夫 150

リゾウスキ「形態思考としての販売思考」

山 本 安 次 郎 157

第九卷 第一号（1938年1月）

〔論説・資料〕

法の精神

織 田 萬 1

経営中止点について

山 本 安 次 郎 13

民法における違法概念の構造

石 本 雅 男 37

サニニーにおける自由と必然

淵 定 71

現行アメリカ国民投票制度の概説（一）

大 石 義 雄 87

〔時 論〕

一九三七年の国際政治の回顧

田 中 直 吉 95

〔判例研究〕

公法判例解説 府囑託の為す負担金減免

磯 崎 辰 五 郎 107

機船底曳網漁業許否の標準

森 順 次 109

刑事法判例研究 未遂犯と中止未遂

瀧 川 幸 辰 115

退職年金証書による詐欺

瀧 川 幸 辰 118

刑法第二〇七条の適用

竹 田 直 平 120

民事法判例研究 電気料金債権の消滅時効

浅 井 清 信 125

不当利得返還義務の範囲

谷 口 知 平 130

第三者に対する仮処分

吉 川 大 二 郎 136

〔典籍往来〕

ギュルケ「国際法要綱」

大 淵 仁 右 衛 門 143

生島廣治郎「山西省の工業発展」

柏 木 憲 治 147

瀧川幸辰「刑事法判決批評第二巻」

竹 田 直 平 149

第九卷 第二号（1938年2月）

〔論説・資料〕

種類売買における危険負担（一）

浅 井 清 信 1

純益と分配可能性	熊本吉郎	23
再保険条約とバルカン協商(一)	田中直吉	46
支那社会経済論序稿の二	高橋良三	70
現行アメリカ国民投票制度の概説(二)	大石義雄	91
〔時論〕		
現政府の政策要綱	大谷政敬	110
〔判例研究〕		
公法判例解評 利益配当の時期	磯崎辰五郎	118
北海道土功組合法	森順次	121
刑事法判例研究 消極的身分と共犯	竹田直平	126
民事法判例研究 質入債権の時効中断	板木郁郎	134
契約解除約款の解釈	後藤清	140
〔典籍往来〕		
ヨセフ・リンハルト「ライヒスバンク発達史」	串本友三郎	145
ユール・ケンダル「統計理論入門」	杉栄	150
峯村光郎「戦時国家の経済法」	後藤清	155

第九卷 第三号(1938年3月)

〔論説・資料〕

公物に関する若干の考察	磯崎辰五郎	1
生産力拡充金融と証券取引所	石田興平	24
移動季節変動指数について	杉栄	52
種類売買における危険負担(二・完)	浅井清信	82
再保険条約とバルカン協商(二・完)	田中直吉	109
〔判例研究〕		
公法判例解評 他事記入の意義	高橋貞三	129
投票の効力	磯崎辰五郎	130
刑事法判例研究 害悪の通告と恐喝罪の成立	竹田直平	134
鉄道機関手の注意義務	竹田直平	139
民事法判例研究 建物の抹消回復登記	浅井清信	144
嫡出子の推定と否認権者	福島四郎	150
商号と不正競争	片山謙二	157

〔典籍往来〕

ヘーン「指導者国家と議会主義的共和国」	森 順 次	163
湯良禮「中国之新社会組織」	高 橋 良 三	169
井関孝雄「中小商工金融論」	井 上 巖 次 郎	174

第九卷 第四号 (1938年4月)

〔論説・資料〕

収支の均衡と不均衡	大 谷 政 敬	1
違法阻却と違法の判断(一)	竹 田 直 平	30
生命保険事業と投資	西 藤 雅 夫	51
行政の一般的存在性格と国家行政の特異性(一)	吉 富 重 夫	76

〔判例研究〕

公法判例解評 財産区の破産適格	磯 崎 辰 五 郎	97
投票の効力	森 順 次	99
刑事法判例研究 公然の意義	竹 田 直 平	103
民事法判例研究 無権者の登記と第三者	浅 井 清 信	109
父の庶子出生届と認知	福 島 四 郎	114

〔典籍往来〕

シャッフスタイン「新刑法体系の構成に於ける違法と責任」	竹 田 直 平	121
ツオル「経済理論に於ける費用問題」	山 本 安 次 郎	126
ラレンツ「法律学と法律哲学」	淵 定	132
フェルヤンチック「複記式計算原理」	熊 本 吉 郎	137

第九卷 第五号 (1938年5月)

〔論説・資料〕

一八八八・九年の欧洲国際政治(一)	田 中 直 吉	1
予算制度の本質とその形態(一)	山 本 安 次 郎	23
シュミットの評価論に関する一考察	小 田 垣 成 夫	44
違法阻却と違法の判断(二・完)	竹 田 直 平	62
行政の一般的存在性格と国家行政の特異性(二・完)	吉 富 重 夫	84

〔判例研究〕

公法判例解評	鹿児島藩に於ける賦米 句点の記入及び慣例の打点	磯崎辰五郎 98 森 順 次 99
刑事法判例研究	取引所法第三二条の六	瀧川幸辰 102
民事法判例研究	仮処分異議と債務者の抗弁 身元保証人の責任範囲	吉川大二郎 108 石本雅雄 113

〔典籍往来〕

ホウィトルスィー「関税に代るものとしての消費税」	井上 次 郎 121
クリュックマン「統一売買法草案と危険負担」	浅井清信 126
モーブレー「保険学」	西藤雅夫 130

第九卷 第六号（1938年6月）

〔論説・資料〕

連盟規約と中立概念	大淵仁右衛門 1
不況時に於ける企業の価格政策	祭原光太郎 16
一八八八・九年の欧洲国際政治(二・完)	田中直吉 38
予算制度の本質とその形態(二・完)	山本安次郎 59
鉄鋼業に於ける銑鉄とスクラップの代替性	柏木憲治 79

〔判例研究〕

公法判例解評	漁業取締規則の効力の範囲	磯崎辰五郎 104
刑事法判例研究	学校教授への謝礼と収賄罪	竹田直平 107
民事法判例研究	不正登記と其の抹消請求権 借地権譲受人と競落人との関係	浅井清信 114 板木郁郎 120

〔典籍往来〕

ビンダー「法律哲学体系」	吉富重夫 126
自治制発布五十周年記念論文集	磯崎辰五郎 133
フォーゲル「新時代の資金調達論」	串本友三郎 135

第十卷 第一号（1938年7月）

〔論説・資料〕

中央銀行の機能と組織	小島昌太郎 1
------------	---------

詐害行為取消の範圍	板 木 郁 郎	28
一九三三年以来のライヒスバンク政策	串 本 友 三 郎	45
登記の効力(一)	浅 井 清 信	62
「アジア式生産様式」論の課題(一)	高 橋 良 三	85
〔判例研究〕		
公法判例解評 選挙委員と労務者との兼任	磯 崎 辰 五 郎	106
耕地整理と使用区域の指定	森 順 次	110
刑事法判例研究 徴発規避罪の成立時期	竹 田 直 平	115
造言飛語の相手方	竹 田 直 平	118
民事法判例研究 根抵当と被担保債権の範圍	坂 義 彦	121
仮処分中の建物と其修理改造	吉 川 大 二 郎	123
〔典籍往来〕		
チャクスローカン「英国に於ける地主小作人制度」	末 包 留 三 良	128
ホラピン「帝国の地図」	田 中 直 吉	131
ゲオルク・ハルム「貨幣、信用及び銀行」	石 田 興 平	137

第十卷 第二号(1938年8月)

〔論説・資料〕		
世界經濟の構造	太 田 義 夫	1
保全訴訟における被保全権利の審理	吉 川 大 二 郎	23
登記の効力(二・完)	浅 井 清 信	42
「アジア式生産様式」論の課題(二・完)	高 橋 良 三	64
ドイツ国民投票制度の概説(一)	大 石 義 雄	87
〔時 論〕		
綿業統制の意義とその使命	西 藤 雅 夫	102
〔判例研究〕		
公法判例解評 賃貸価格審査決定と出訴権	森 順 次	112
刑事法判例研究 特殊の直接利害関係の誘導	竹 田 直 平	117
民事法判例研究 法定推定家督相続人の分家	谷 口 知 平	125
請負契約の解除と賃貸借	浅 井 清 信	130
〔典籍往来〕		
フェアドロッセ「法の一般原則」	大 淵 仁 右 衛 門	135

カーター「何故東洋に干渉するか？」	宇都宮 巖 138
瀧川幸辰「犯罪論序説」	竹田直平 144

第十卷 第三号（1938年9月）

〔論説・資料〕

我民法に於ける留置権の移転性	坂 義 彦 1
亜米利加合衆国における砂糖の統制	井 上 次 郎 15
経費の体系(一)	大 谷 政 敬 39
動的貸借対照表の特質について	熊 本 吉 郎 61
ドイツ国民投票制度の概説(二・完)	大 石 義 雄 85

〔判例研究〕

公法判例解評 県会議員費用弁償規程と所得税	佐々木 惣一 106
刑事法判例研究 実行開始後の加担	竹田直平 113
民事法判例研究 株式に対する質権と配当金	板木 郁 郎 120
婚姻予約と第三者の妨害	福 島 四 郎 127
特別事情による仮処分取消	吉 川 大 二 郎 133

〔典籍往来〕

独逸銀行協会編纂「独逸経済生活の諸問題」	串本友三郎 139
ローゼン「近代個人主義の史的反省」	森 義 宣 144

第十卷 第四号（1938年10月）

〔論説・資料〕

ベルリン会議後のバルカン問題(一)	田 中 直 吉 1
規範的意思支配の可能性と教育可能性(一)	竹 田 直 平 20
経費の体系(二・完)	大 谷 政 敬 44
東京都制案要綱について	磯 崎 辰 五 郎 59
本邦繊維産業の国際収支関係	柏 木 憲 治 80

〔判例研究〕

公法判例解評 租税滞納処分中に於ける被選挙権	磯 崎 辰 五 郎 100
町村制七条一項三号の意義	森 順 次 103
刑事法判例研究 殺人罪と死体遺棄罪	竹 田 直 平 106

民法法判例研究 仮処分と民訴七四三条の準用	吉川大二郎 114
無効登記の流用と禁反言	浅井清信 120
〔典籍往来〕	
ナチス労働契約法草案について	浅井清信 127
ワルター・ワイグマン「近代工場簿記」	祭原光太郎 133

第十卷 第五号(1938年11月)

〔論説・資料〕

生活秩序としての法の認識(一)	恒藤 恭 1
創造信用と固定投資	石田 興平 16
大戦後のブルガリア憲法	森 順次 36
保険の本質に関する一考察	西藤 雅夫 59
規範的意思支配の可能性と教育可能性(二・完)	竹田 直平 80

〔判例研究〕

公法判例解評 予納金不納と行政訴訟	森 順次 105
刑事法判例研究 親告罪と非親告罪との牽連犯	竹田 直平 108
民法法判例研究 再築と法定地上権	板木 郁郎 115
申請人に給付を命ずる仮処分	吉川大二郎 121

〔典籍往来〕

ワイルド「国際法の悩み」	大淵仁右衛門 128
トルンブラー「株式会社の年次決算」	熊本 吉郎 132
「中国経済研究」その他	高橋 良三 136

第十卷 第六号(1938年12月)

〔論説・資料〕

独逸の金融統制機構	串本友三郎 1
行政と政治との交渉	吉富重夫 14
生活秩序としての法の認識(二・完)	恒藤 恭 36
ベルリン会議後のバルカン問題(二・完)	田中直吉 49
統一勘定組織案について	祭原光太郎 72

〔時 論〕

労働関係の勅令案について 井上 巖 次 郎 97

〔判例研究〕

公法判例解評 漁業権の存続期間更新免許 磯 崎 辰 五 郎 104
 刑事法判例研究 因果関係中断の主張の性質 竹 田 直 平 108
 民事法判例研究 商号貸貸人の責任 片 山 謙 二 117
 地上建物改修の特約違反解除権 板 木 郁 郎 121

〔典籍往来〕

V・F・ワグナー「信用理論史」 石 田 興 平 128
 オグデン「ルソーにおける自然と人為」 森 義 宣 133
 リーゲル・ローマン「保険の原理と実際」 西 藤 雅 夫 138
 佐々木博士還暦記念論文集 森 順 次 144

第十一卷 第一号 (1939年1月)

〔論説・資料〕

詐害行為取消の効果(一) 板 木 郁 郎 1
 貸借対照表に於ける財産計算について 熊 本 吉 郎 19
 国際法淵源の諸問題 大 淵 仁 右 衛 門 42
 世界経済の基礎構造 高 橋 良 三 60

〔時 論〕

長期建設下の経済統制の方向 太 田 義 夫 85

〔判例研究〕

公法判例解評 戸数割と資産状況の調査 森 順 次 101
 刑事法判例研究 贓物の寄託と横領罪 竹 田 直 平 105
 民事法判例研究 登記の欠缺を主張し得る第三者 浅 井 清 信 111
 離婚請求と夫婦間の状態 福 島 四 郎 117
 処分禁止仮処分と民法五六八条 吉 川 大 二 郎 122

〔典籍往来〕

G・オーブスト「貨幣・銀行・取引所論」第三十版, A・ウエー 串 本 友 三 郎 127
 パー「英独銀行比較論」第四版
 フォスター・ベイン「極東の鉱産業」 柏 木 憲 治 130
 安平政吉「日本刑事訴訟法」 竹 田 直 平 134

第十一卷 第二号 (1939年2月)

〔論説・資料〕

新国際主義の意義及び価値	田村徳治	1
操業及び操業度概念について(一)	山本安次郎	15
英法における給付不能論の一瞥(一)	浅井清信	33
エルヴェシウスの政治思想について	森義宣	48
米国に於ける比較生産費を繞る一論争	大嶋祥光	69

〔判例研究〕

公法判例解評 投票の効力	森順次	79
刑事法判例研究 烏合の衆の行為	竹田直平	85
民事法判例研究 家督相続回復請求権の抛棄 借地人の不当利得	谷口知平 板木郁郎	92 97

〔典籍往来〕

ハンブリー、近代の英法体系に於ける「衡平法の箴言」の地位	末包留三良	103
ブルックハウス「原価計算カルテル」	祭原光太郎	106
ミッチェル、ビスマルクの対仏和協政策	田中直吉	111
正木亮「刑事政策汎論」	竹田直平	113

第十一卷 第三号 (1939年3月)

〔論説・資料〕

我国農業の機械化に就いて	八木芳之助	1
実践の世界としての行政と政治	吉富重夫	18
英法における給付不能論の一瞥(二・完)	浅井清信	48
操業及び操業度概念について(二・完)	山本安次郎	68
東京都長官選論について	磯崎辰五郎	86

〔判例研究〕

公法判例解評 市制・都市計画法	森順次	103
刑事法判例研究 医師の調剤上に於ける監督義務	竹田直平	105
民事法判例研究 相続人廃除と執行猶予 清算人選任登記の申請と解散登記	福島四郎 坂義彦	112 117

〔典籍往来〕

ゴット「国民社会主義国際法理論」	大淵仁右衛門 133
寿勉成・鄭厚博「中国合作運動史」	高橋良三 138
篠田七郎「庶民金融概説」	井上巖次郎 143
安平政吉「人格主義の刑法理論」	竹田直平 146

第十一卷 第四号（1939年4月）

〔論説・資料〕

財政の種類と国民経済(一)	大谷政敬 1
英法に於ける用益及信託の起源	末包留三良 14
生糸の国際性について	柏木憲治 36
保険機構と危険	西藤雅夫 58
詐害行為取消の効果(二・完)	板木郁郎 81

〔判例研究〕

公法判例解評 町村囑託と滞納処分執行	磯崎辰五郎 106
刑事法判例研究 強盗殺人後の強取行為への幫助	竹田直平 111
民事法判例研究 民訴七四条と処分禁止仮処分	吉川大二郎 119
抵当建物除却契約	浅井清信 124
差押と債権者の責任	石本雅男 129

〔典籍往来〕

リンネマン「準備金の概念」	熊本吉郎 139
シェンフェルト「独逸民族生活秩序の自由と人格」	吉富重夫 144
ジョエル・ディーン「費用の統計的決定」	山本安次郎 151
レヴィス「中世政治思想の有機体的団体説」	森義宣 157

第十一卷 第五号（1939年5月）

〔論説・資料〕

抵当権の実行と仮処分(一)	吉川大二郎 1
独逸ライヒスバンクの堅実性(一)	串本友三郎 15
責任と刑罰(一)	竹田直平 37
大戦前後欧米諸国の国民投票制度	大石義雄 61

〔時 論〕

工業組合法の改正 井上巖次郎 91

〔判例研究〕

公法判例解評 共同鉱業権者の各別継続出願 磯崎辰五郎 99

刑事法判例研究 数個の攻撃と包括一罪 竹田直平 103

民事法判例研究 離婚後生れたる嫡出子推定 谷口知平 110

連帯債務と求償額の確定時期 板木郁郎 116

根抵当と民法三七四条 浅井清信 123

〔典籍往来〕

メアース「工業立地と軍略」 井上次郎 129

レーマー「保険と価格抑制」 西藤雅夫 133

大西芳雄「常設委員会制度」 森順次 139

第十一卷 第六号 (1939年6月)

〔論説・資料〕

法と意思活用 磯崎辰五郎 1

景気上昇過程の金融 祭原光太郎 19

抵当権の実行と仮処分(二・完) 吉川大二郎 44

責任と刑罰(二・完) 竹田直平 63

独逸ライヒスバンクの堅実性(二・完) 串本友三郎 92

〔時 論〕

長期建設下における経済統制の進展 太田義夫 110

〔判例研究〕

公法判例解評 牧師館と不動産取得税 森順次 125

刑事法判例研究 省令の施行力と官報の到達 竹田直平 132

民事法判例研究 時効完成後の減額申出と時効中断 板木郁郎 139

会社組織変更の無効 坂義彦 145

〔典籍往来〕

ハンブリー「英法に於ける衡平法上の原理の危険」 末包留三良 155

プリンク「内部牽制」 小田垣成夫 161

第十二卷 第一号 (1939年7月)

〔論説・資料〕

経営組織論に於ける一基本問題	山本安次郎	1
国際政治の本質とその史的発展(一)	田中直吉	21
「非統計的方法」一般に関する諸見解とその批判	杉 栄	37
慣習法の性質と所謂慣行説及び国家承認説	森 順次	63
債務の弁済と破産法第七十二条第一号(一)	板木郁郎	87

〔判例研究〕

公法判例解評 水利組合会議員の被選挙権	磯崎辰五郎	97
刑事法判例研究 統制規則施行前の契約に基く引渡	竹田直平	101
民法法判例研究 建物の譲渡と敷地の不法占有	浅井清信	109
私生子認知の遡及効と民法八五四条の取消権	谷口知平	115
譲渡禁止仮処分と競売手続	吉川大二郎	120

〔典籍往来〕

イギリス法の方法論とドイツ法律革新	浅井清信	126
エツアルド・ルカス「貨幣の任務」	串本友三郎	135
田畑忍「加藤弘之の国家思想」	磯崎辰五郎	138
ポール・アインツヒ「次の大戦に於ける経済上の諸問題」	太田義夫	141

第十二卷 第二号 (1939年8月)

〔論説・資料〕

近世末期に於ける灘酒造業の発展(一)	柚木重三	1
英法における給付不能に関する一考察	浅井清信	25
工場就業時間制限令の施行に就て	井上巖次郎	46
戦争の性質に関する若干問題	大淵仁右衛門	61
紡績事業の経営と大陸進出の問題	西藤雅夫	76

〔判例研究〕

公法判例解評 町村会の決定の効力	森 順次	101
刑事法判例研究 火葬後の金歯屑の所有と横領罪	竹田直平	104
民法法判例研究 営業開始前に於ける商標権の譲渡	坂 義彦	113

賃借人の賃料不払と保証契約	後 藤 清	119
履行拒絶と仮差押の必要	吉 川 大 二 郎	124

〔典籍往来〕

ヘロ・メラー「銀行の國民經濟的機能」	祭 原 光 太 郎	130
佐波宣平「再保険の發展」	西 藤 雅 夫	138
田村徳治「日本と新國際主義」	森 義 宣	142

第十二卷 第三号 (1939年9月)

〔論説・資料〕

合資会社に於ける業務執行社員について	坂 義 彦	1
リカードと比較生産費説と貿易の利益	井 上 次 郎	13
貸借対照表と純損益計算	熊 本 吉 郎	37
近世並に現代に於ける財政の發展	大 谷 政 敬	54
國際政治の本質とその史的發展(二・完)	田 中 直 吉	77

〔判例研究〕

公法判例解評 退隠料受給権抛棄の適否	磯 崎 辰 五 郎	88
刑事法判例研究 他人の所説の紹介と造言飛語罪の犯意	竹 田 直 平	92
民事法判例研究 所有権移転登記の便宜的方法	浅 井 清 信	99
立木伐採禁止仮処分と特別事情	吉 川 大 二 郎	105
学校経営者と校長との関係	後 藤 清	110

〔典籍往来〕

トリエベル「私人の外交」	大 淵 仁 右 衛 門	118
磯部喜一「中小商工業の組合運動」	井 上 巖 次 郎	121
執行法の領域における最近の収獲	吉 川 大 二 郎	125

第十二卷 第四号 (1939年10月)

〔論説・資料〕

ライヒスバンクの復興過程と戦時能力(一)	串 本 友 三 郎	1
官吏の秘密を守る義務	磯 崎 辰 五 郎	17
金融事業としての保険事業	西 藤 雅 夫	35
債務の弁済と破産法第七十二条第一号(二・完)	板 木 郁 郎	58

〔判例研究〕

公法判例解評	実用新案の実施権侵害	磯崎辰五郎	82
刑事法判例研究	猥褻の形象を隠蔽せる図画	竹田直平	86
民事法判例研究	合併仮契約書作成の効力	坂義彦	93
	親族会における意見陳述の代理	福島四郎	99

〔典籍往来〕

ギリシヤ債権法草案と売買における危険負担	浅井清信	105
ヴェルネル・マール「大数法則の一考察」	杉栄	110
フェレロ「マキアベリーとマキアベリー主義」	森義宣	112

第十二巻 第五号(1939年11月)

〔論説・資料〕

司法と司法機関	佐々木惣一	1
所有者危険負担主義とその発展(一)	浅井清信	21
可罰価値評価の理論(一)	竹田直平	37
ライヒスバンクの復興過程と戦時能力(二・完)	串本友三郎	64
近世末期に於ける灘酒造業の発展(二・完)	柚木重三	83

〔時論〕

価格等統制令と保険料	西藤雅夫	109
------------	------	-----

〔判例研究〕

公法判例解評	不動産取得税免除と買得家屋	森順次	121
刑事法判例研究	狩猟行為の補助の依頼と教唆	竹田直平	124
民事法判例研究	仮処分異議と被保全権利の審理	吉川大二郎	134
	地役権の時効取得と登記	浅井清信	138
	養親死亡後の縁組届出	福島四郎	143

〔典籍往来〕

ヴァルツ「世界戦争後の国際法の膨脹」	大淵仁右衛門	150
水野武夫「日本食糧経済論」	井上次郎	154

第十二卷 第六号 (1939年12月)

〔論説・資料〕

「統計的方法の諸代用法」の一般統計学的性質	杉 栄	1
行政機構の改革	吉 富 重 夫	27
金融循環論	祭 原 光 太 郎	63
所有者危険負担主義とその発展(二・完)	浅 井 清 信	92
可罰価値評価の理論(二・完)	竹 田 直 平	111

〔判例研究〕

公法判例解評 北海道築港事務所長と国家代表権	磯 崎 辰 五 郎	145
民事法判例研究 非取引員の売買取引と商人性	片 山 謙 二	151
契約解除と買取請求権	後 藤 清	156

〔典籍往来〕

クラーレン「株主の誠実義務」	長 岡 富 三	167
----------------	---------	-----

第十三卷 第一号 (1940年1月)

〔論説・資料〕

社会問題の解決と知識階層の将来	田 村 德 治	1
否認に関する基礎理念と破産法第七二条(一)	板 木 郁 郎	20
続金融循環論	祭 原 光 太 郎	35
内閣総理大臣の権限の強化	森 順 次	65

〔時 論〕

物価対策批判	太 田 義 夫	90
--------	---------	----

〔判例研究〕

公法 小運送業法附則の届出に対する認証	磯 崎 辰 五 郎	107
刑事法 詐欺罪と任務違反	竹 田 直 平	110
民事法 商法第一百五十条とその対抗要件	坂 義 彦	118
否認の訴と親子関係不在確認の訴	谷 口 知 平	123
株式申込の無効と株主権の行使	長 岡 富 三	129

〔典籍往来〕

ロールバック「保険共同体」	西 藤 雅 夫	138
---------------	---------	-----

ハーゼナック「減価償却と経済の保全」	小田垣成夫 142
チムマーン「近代の政治論」	森 義 宣 148

第十三卷 第二号 (1940年2月)

〔論説・資料〕

支那の小作契約に就いて	八木芳之助 1
行政と経済との交渉	吉富重夫 35
江戸時代後半期に於ける幕府の酒税政策(一)	柚木重三 52
西洋政治思想史における統一性原理(一)	森 義 宣 78
否認に関する基礎理念と破産法第七二条(二・完)	板木郁郎 99

〔判例研究〕

公法 土地調書の違法と裁決に及ぼす影響	森 順 次 120
刑事法 恐喝罪と対価の支払	竹田直平 125
民事法 第三者の所有物の競売と不当利得	板木郁郎 130
特別事情による仮処分取消と損害立証困難	吉川大二郎 136
虚偽の出生届による親子関係と不存在確認	福島四郎 143

〔典籍往来〕

ジーベルト「独逸経済に於ける新進路」	串本友三郎 148
瀧川幸辰「刑法と社会」	竹田直平 152
白杉庄一郎「国民経済学研究」	和田三良 156

第十三卷 第三号 (1940年3月)

〔論説・資料〕

監査役制度について(一)	坂 義 彦 1
独逸国策事業融資の通貨政策的問題(一)	串本友三郎 28
仮処分手続における当事者適格(一)	吉川大二郎 47
江戸時代後半期に於ける幕府の酒税政策(二・完)	柚木重三 59
西洋政治思想史における統一性原理(二・完)	森 義 宣 92

〔判例研究〕

公法 寺院子弟の無料寄宿舎供用家屋と家屋税	磯崎辰五郎 111
刑事法 住居侵入罪と違法目的	竹田直平 115

民法法	本人欺罔の虚偽行為たる代理行為	末川博	123
	限定承認と相続開始後の抵当権設定登記請求	浅井清信	128
	友禅業者の株式投機の為の債務の商行為性	片山謙二	133
	〔典籍往来〕		
	ケルロイター「日本と新秩序」	森順次	139
	グロスマン「株式会社の年次決算」	小田垣成夫	145

第十三卷 第四号（1940年4月）

〔論説・資料〕

民法上の組合の本質	末川博	1
中小工業に於ける労働保護	井上巖次郎	16
国民社会主義ドイツの信教の自由に就いて	大石義雄	38
ハウクの貸借対照表論について	小田垣成夫	61
監査役制度について(二・完)	坂義彦	76
仮処分手続における当事者適格(二・完)	吉川大二郎	105

〔判例研究〕

公法	在職中の租税滞納処分と町村会議員	森順次	121
刑事法	忌避理由の判断	竹田直平	127
民法法	相手方代理人と通じて為したる心裡留保	板木郁郎	132
	消滅時効の援用と時効期間の明示	坂義彦	138
	商業組合員に対する条件付除名決議の効力	後藤清	145

〔典籍往来〕

カアップ「経済規制と経済計画」	井上次郎	152
末高信「生命保険経営論」	西藤雅夫	157

第十三卷 第五号（1940年5月）

〔論説・資料〕

種類債務の特定と危険移転の時期(一)	浅井清信	1
保険に於ける費用の概念(一)	西藤雅夫	25
内閣制度の改革(一)	吉富重夫	49
独逸国策事業融資の通貨政策的問題(二・完)	串本友三郎	78

〔判例研究〕

公法	製錬場設置の認可処分と出訴権	磯崎辰五郎	99
刑事法	違法慣行に依る行為と法の不知	竹田直平	103
民事法	法定地上権と地上建物の所有権保存登記 不動産に対する賃貸借禁止仮処分の登記 清算未終了と発起人の賠償義務	浅井清信 吉川大二郎 長岡富三	111 116 122

〔典籍往来〕

ブルークス「会社金融」とラウテンシュトラウヒ「企業の経済学」	祭原光太郎	130
ラムプレヒツ「ホップス及ホップズム」	森義宣	134
神川彦松「世界大戦原因論」	田中直吉	141

第十三卷 第六号（1940年6月）

〔論説・資料〕

法の規範的性格	恒藤恭	1
国民貯蓄の目標に就いて	太田義夫	15
種類債務の特定と危険移転の時期(二・完)	浅井清信	36
保険に於ける費用の概念(二・完)	西藤雅夫	59
内閣制度の改革(二・完)	吉富重夫	82

〔時論〕

中華民族主義批判	大谷政敬	101
----------	------	-----

〔判例研究〕

公法	土地収用法に所謂通常受くべき損失	森順次	106
刑事法	統制規則違反罪に於ける犯意の判示	竹田直平	112
民事法	地上建物収去の契約と法定地上権の消滅 (旧)商法第二七三条の保証が商行為なる時の意 仮処分による代行取締役の報酬	浅井清信 坂義彦 吉川大二郎	118 123 127

〔典籍往来〕

ヘルマン・クラウゼ「戦時経済法」	長岡富三	131
鈴木保良「卸商経営論」	栗田眞造	138

第十四卷 第一号 (1940年7月)

〔論説・資料〕

社会の発達について(一)	田村徳治	1
経営に於ける金融の問題	祭原光太郎	39
未遂犯に於ける危険性と責任性(一)	竹田直平	68
欧洲古代の経営事情(一)	栗田眞造	93

〔判例研究〕

公法 選挙立会人の意見陳述と投票の調査	磯崎辰五郎	112
刑事法 法律の錯誤	竹田直平	116
民事法 代表権限なき取締役の手形裏書	坂義彦	123
手形引受人と所持人の支払場所変更の合意	長岡富三	129
無資力による金銭債権侵害	谷口知平	138

〔典籍往来〕

パーラス「貨幣及金の今日の問題」	串本友三郎	144
菊井維大「保全訴訟」	吉川大二郎	150
余捷琼「中国的新貨幣政策」	大谷政敬	154
江家義男「刑法講義総則」	竹田直平	157

第十四卷 第二号 (1940年8月)

〔論説・資料〕

ケネー経済理論の一考察(一)	太田義夫	1
社会の発達について(二・完)	田村徳治	19
未遂犯に於ける危険性と責任性(二・完)	竹田直平	57
欧洲古代の経営事情(二・完)	栗田眞造	79

〔判例研究〕

公法 水害予防組合の不法寄附金と組合費	森順次	98
刑事法 刑法第一五六条と間接正犯	竹田直平	102
民事法 仮差押中の債権と取立命令	吉川大二郎	109
登記済権利証の交付なき場合の登記方法	浅井清信	114
母の財産管理辞任後の売買	福島四郎	120

〔典籍往来〕

レオン「プラトン」	森 義 宣 125
美濃部達吉「日本行政法上巻・下巻」	磯 崎 辰 五 郎 130
山城章「価格統制の研究」	上 野 久 哉 133

第十四卷 第三号 (1940年9月)

〔論説・資料〕

一時的執行停止命令と仮処分	吉 川 大 二 郎 1
経営組織原理について	上 野 久 哉 22
市町村制度改革の問題(一)	吉 富 重 夫 41
民族法学に於ける法の本質観の一例	大 石 義 雄 71
ケネー経済理論の一考察(二・完)	太 田 義 夫 92

〔判例研究〕

公法 流会と閉会の別及び訓示規定違反の決定	森 順 次 111
刑事法 予備的行為を以てする従犯	竹 田 直 平 118
民事法 破産者の債権に対する転付命令の否認	板 木 郁 郎 125
数人の清算人と株金払込の催告	坂 義 彦 132
商法第五百一条の不動産と鉱業権	長 岡 富 三 138

〔典籍往来〕

ヴィルヘルム・ブウラント「戦時経済の組織」	長 岡 富 三 145
大河内一男「社会政策の基本問題」	井 上 巖 次 郎 149
近藤文二「保険学総論」	西 藤 雅 夫 154

第十四卷 第四号 (1940年10月)

〔論説・資料〕

多数決及び所謂衆議統裁と帝国憲法	佐 々 木 惣 一 1
戦時下における我国の貿易政策の発展(一)	井 上 次 郎 12
株主の誠実義務(一)	長 岡 富 三 31
貨幣に就いて	丸 谷 秀 一 55
市町村制度改革の問題(二・完)	吉 富 重 夫 75

〔判例研究〕

公法	作成者の捺印欠缺と差押調書の効力	磯崎辰五郎	104
刑事法	狩猟と捕獲・仔狸の没収	竹田直平	107
民事法	民法四二三条の訴提起と時効中断	板木郁郎	113
	発起人の賠償責任と過失相殺	坂義彦	119
	離婚事件と不動産処分禁止仮処分	吉川大二郎	127

〔典籍往来〕

ヘルマン・ザイツァー	「企業の計算制度に於ける予算の地位」	祭原光太郎	133
レヴィ	「プロタゴラスの倫理・社会思想」	森義宣	136

第十四卷 第五号 (1940年11月)

〔論説・資料〕

双務契約の本質と債務者危険負担主義 (一)	浅井清信	1
紡績事業に於ける操業短縮の発展とその問題 (一)	西藤雅夫	22
フーバーに於ける総合的国家科学 (一)	森順次	48
戦時下における我国の貿易政策の発展 (二・完)	井上次郎	71
株主の誠実義務 (二・完)	長岡富三	86

〔判例研究〕

公法	町村吏員の町村税滞納処分と不法行為	磯崎辰五郎	113
刑事法	腸チフス罹患者の死亡率と因果関係	竹田直平	118
民事法	賃貸借の期間満了による終了と転貸借	板木郁郎	128
	建物保護法第一条と登記名義	浅井清信	134
	債権準占有者に対する強制弁済の効力	谷口知平	139

〔典籍往来〕

宇賀田順三	「自治制度改革と特別市制問題」	磯崎辰五郎	146
酒井正三郎	「国民経済の構造」	太田義夫	149

第十四卷 第六号 (1940年12月)

〔論説・資料〕

広域経済に於ける金	串本友三郎	1
不作為と否認	板木郁郎	20

双務契約の本質と債務者危険負担主観(二・完)	浅井清信	41
紡績事業に於ける操業短縮の発展とその問題(二・完)	西藤雅夫	65
フーバーに於ける総合的国家科学(二・完)	森順次	90
〔判例研究〕		
公法 町村会の会議時間満了と再開の方法	磯崎辰五郎	108
刑事法 取引所法に所謂売買取引の取扱を為す場所	竹田直平	112
民事法 所有権移転登記を為さざる旨の合意	浅井清信	121
荷為替手形割引債務の保証責任	坂義彦	127
無限責任社員の責任と職務執行停止仮処分	吉川大二郎	135
〔典籍往来〕		
ライト「中立の現状」	大淵仁右衛門	139
納富義光「手形法に於ける基本理論」	長岡富三	143

第十五卷 第一号(1941年1月)

〔論説・資料〕

東洋の新文化建設問題	田村徳治	1
会計学に於ける総合経済的観点	小田垣成夫	24
マキアヴェリの君主論について(一)	森義宣	43
企業に於ける価値運動の構造	祭原光太郎	63
〔判例研究〕		
公法 組合費賦課期日の変更と其手続	森順次	85
刑事法 受附日印の誤捺と上訴権回復	竹田直平	89
民事法 法律事務取扱の取締違反行為と法人の目的	板木郁郎	93
有婦男と知つての事実婚と損害賠償	福島四郎	98
推定的商行為と相手方の企図したる目的	長岡富三	104
〔典籍往来〕		
カウラ「国家、階層、公正価格」とシャハトシャーベル「公正価格論」	栗田眞造	111
安平政吉「刑事政策の新動向」	竹田直平	116

第十五卷 第二号 (1941年2月)

〔論説・資料〕

帝国議会の性質	磯崎辰五郎	1
保全命令申請の効果	吉川大二郎	27
同職組合の経営学的理解(一)	栗田眞造	52
マキアヴェリの君主論について(二・完)	森 義 宣	70

〔時 論〕

経済新体制の問題	太 田 義 夫	96
----------	---------	----

〔判例研究〕

公法 資力算定と申請なき所得控除の違法	磯崎辰五郎	106
刑事法 専用軌道を有する電車運転手の注意義務	竹 田 直 平	112
民事法 小切手金の支払と民法一一〇条	坂 義 彦	120
吏員の退職料の仮差押	吉川大二郎	129
取立債務と言語上の提供	浅 井 清 信	135

〔典籍往来〕

ウォレンエースィーバー「カルドゾー判事と不法行為」	末 包 留 三 良	141
ラムベ「一般国防経済学」	串 本 友 三 郎	145
クルパ「実証主義並びに自然法に対するギールケの闘争」	淵 定	149

第十五卷 第三号 (1941年3月)

〔論説・資料〕

小商人に関する規定について	坂 義 彦	1
経営経済と国民経済	池 内 信 行	29
無防守都市の意義	大淵仁右衛門	61
日本統制経済の変質過程(一)	大 谷 政 敬	74
同職組合の経営学的理解(二・完)	栗 田 眞 造	86

〔判例研究〕

公法 県外居住者に対する租税滞納処分	森 順 次	106
刑事法 墮胎罪の幫助と其の手段	竹 田 直 平	113
民事法 偽造承諾書によりて為された仮登記の効力	浅 井 清 信	119

手形裏書の連続性と同姓異名	坂 義 彦 124
白地手形補充権撤回後の補充	長 岡 富 三 129
〔典籍往来〕	
ケストナー「経営経済的標準数の任務，本質及び体系」	小 田 垣 成 夫 138
尾上正男「満洲国基本法大綱」	森 順 次 142
小島昌太郎「支那に於ける特殊通貨の研究」	武 藤 守 一 145

第十五卷 第四号（1941年4月）

〔論説・資料〕

全体主義原理と責任(一)	竹 田 直 平 1
配給費の分析に関する一研究	上 野 久 哉 25
独逸新株式会社法における株主の誠実義務	長 岡 富 三 46
日本統制経済の変質過程(二・完)	大 谷 政 敬 78

〔判例研究〕

公法 町村会の再開招集と会議事件の告知	森 順 次 99
刑事法 少年法第八条第一項の意義	竹 田 直 平 102
民事法 被害船の航行規則違反と過失相殺	板 木 郁 郎 106
賃借物の譲渡と賃借権保全の仮処分	吉 川 大 二 郎 112
実家の家格引上のための縁組の効力	谷 口 知 平 117

〔典籍往来〕

パウル・ウィール「戦争と経済」	串 本 友 三 郎 123
ユリウス・フォン・ギールケ「損害賠償法改革の基本問題」	浅 井 清 信 127
佐々木惣一「憲法・行政法演習第一巻」	磯 崎 辰 五 郎 132

第十五卷 第五号（1941年5月）

〔論説・資料〕

政治機構の改革(一)	吉 富 重 夫 1
好景気と不景気	丸 谷 秀 一 18
臨時租税措置法に依る減価償却	西 村 民 之 助 42
全体主義原理と責任(二・完)	竹 田 直 平 50

〔判例研究〕

公法	戸数割賦課処分不服と差押	磯崎辰五郎	72
刑事法	不穩文書臨時取締法に定むる不穩文書の意義	竹田直平	77
民事法	継続的不法行為と消滅時効の起算点	板木郁郎	84
	船舶差押禁止より除外さるべき債権	坂義彦	90
	競合仮処分の効力	吉川大二郎	100

〔典籍往来〕

ポルンハク「ワイマール憲法と指導者国家」	森順次	107
レヴィス「購買論」	祭原光太郎	114
小牧実繁「日本地政学宣言」	元川房三	117

第十五卷 第六号 (1941年6月)

〔論説・資料〕

危険負担の法的構造	浅井清信	1
保険に於ける危険概念の吟味	西藤雅夫	29
ドイツ人の経済生活に現れたる国防的態度	串本友三郎	56
政治機構の改革(二・完)	吉富重夫	78

〔判例研究〕

公法	差押後の国税徴収法一二条の適用	磯崎辰五郎	114
刑事法	通信事務員と窃盗罪の成立	竹田直平	118
民事法	間貸と賃貸借の解約権の濫用	浅井清信	123
	仮処分による賠償債権と時効の起算点	吉川大二郎	129
	手形所持人と人的抗弁	長岡富三	136

〔典籍往来〕

統計学に於ける杉栄君の業績	蜷川虎三	143
宮田喜代蔵「貨幣の生活理論」	丸谷秀一	147

第十六卷 第一号 (1941年7月)

〔論説・資料〕

「引渡証券に因る債権」に対する執行	吉川大二郎	1
利潤統制の発展	小田垣忠成	21

官吏と服務紀律	磯崎辰五郎	42
企業会計の根本問題(一)	祭原光太郎	49
〔判例研究〕		
公法 差押調書及其謄本作成費用と滞納処分費	森 順次	76
刑事法 府告示日附後其の公報発行前の行為	竹田直平	82
民事法 土地の買主と買戻権の信託譲受人との関係	板木郁郎	87
自己株式質入禁止の違反と民法第七百八条	坂 義彦	92
保全処分異議訴訟に於ける審理の程度	吉川大二郎	97
〔典籍往来〕		
バイツケ「許可主義・準則主義・自由設立主義」	長岡富三	102
リユール「商業の技術的生産性」	上野久哉	108
フリッツ「古代ギリシアにおける保守的反動と独裁政治」	森 義宣	112

立命館大學論叢

第三輯法政篇 第一号(1942年4月)

社会の変遷態勢と変遷機構	田村徳治	1
官吏の服従義務について	磯崎辰五郎	39
刑罰目的と刑の量定	竹田直平	69
国際法に於ける調停と裁判	大淵仁右衛門	99
国防国家の本質的性格	吉富重夫	123
満洲を繞る国際政治史	田中直吉	153

第七輯法政篇 第二号(1942年6月)

破産内に於ける相殺	板木郁郎	1
帰責事由に関する一考察	浅井清信	57
意思表示の瑕疵について	末包留三良	103
企業形態としての株式会社と営団	長岡富三	123

破産法上の保全処分 吉川大二郎 169

第十一輯法政篇 第三号 (1943年2月)

上杉鷹山と法制	磯崎辰五郎	1
仲裁々判と司法裁判	大淵仁右衛門	29
立憲主義に関する一覚書	森順次	49
国家結合の形態と東亜新秩序の政治構造	吉富重夫	93
国家理念と遵法義務	竹田直平	133
イギリス革命史	森義宣	169
近代国際政治史の史的概要	田中直吉	207

第十六輯法政篇 第四号 (1943年10月)

労務統制立法の課題	特に雇用契約と国民徴用とを中心として	浅井清信	1
英契約法に於ける「陥棄取引」の概念		末包留三良	50
株式会社形態の特質と株主権の本義		長岡富三	76

第十九・二十合輯法政篇 第五号 (1945年7月)

皇国勤労観と国民協力制度	浅井清信	1
欧米の東亜植民地統治政策の批判	吉富重夫	25

第二十八輯法政篇 第九号 (1946年11月)

農村民主化の問題	阿部矢二	1
アメリカの最低賃金法	平田隆夫	30

法 と 経 済

第 94 号 (1947年 4 月)

復刊にあたって	末 川 博	
労働契約の本質と労働基準法	浅 井 清 信	1
住宅争議の現状 借家法第一条ノ二の正当事由を中心として	吉 川 大 二 郎	24
「資本論」第一章の「商品」に就て	武 藤 守 一	32
最近法令一覧(一)		55
学界消息		59
立命館研究所記事		59
故長岡教授の略歴と業績		63

第 95 号 (1947年 5 月)

国際裁判の特色	大 淵 仁 右 衛 門	1
イギリス憲政論序説	森 義 宣	16
アメリカ会計学の動態論的考察	津 ノ 国 長 四 郎	35
最近法令一覧(二)		56
学界消息		63
立命館研究所記事		63

第 96 号 (1947年 6 月)

近代の世祿論 封建社会の存続是非に関する重要な根本課題として の	大 山 敷 太 郎	1
価値と労働の二重性	阿 部 矢 二	26
合衆国普通法上に於ける反トラスト法理(一)	豊 岡 勇	46
資料(失業保険法案と失業手当法案)		58
最近法令一覧(三)		60

学界消息	63
立命館研究所記事	63

第 97 号 (1947年 8 月)

ワグナー労働法の修正 輪郭	Labor-Management Relations Act, 1947. の	平 田 隆 夫	1
米法における株式会社の資本構成		小 橋 一 郎	23
C. G. v. Wächter について て	自由主義刑法のフラグメントとし	宮 内 裕	42
最近法令一覧(四)			61
学界消息			64
立命館研究所記事			64

第 98 号 (1947年 9 月)

戦争防止の消極的努力と積極的努力		大 淵 仁 右 衛 門	1
農業と資本主義の経済法則		阿 部 矢 二	17
合衆国普通法上に於ける反トラスト法理(二)		豊 岡 勇	31
最近法令一覧(五)			54
学界消息			64
立命館研究所記事			64

第 99 号 (1947年10月)

民間貿易の再開と我国経済		井 上 次 郎	1
貿易再開とインフレーション		武 藤 守 一	21
経済に於ける民主主義の実現 論理	ホモ・エコノミクスの倫理と	高 橋 良 三	42
最近法令一覧(六)			58
立命館研究所記事			64

第99号(Ⅱ)(1947年11月)

労働禁止命令の研究(一)	平田隆夫	1
日本国憲法と財産制	大石義雄	22
行政命令の授權	松本米治	38
最近法令一覧(七)		53
学界消息		64
立命館研究所記事		64

第99号(Ⅲ)(1947年12月)

〔改正民法特輯〕

民法の改正をつらぬく理念	末川博	1
家事審判法における若干の問題	吉川大二郎	13
民法の一部を改正する法律条文		20
民法親族相続編新旧対照索引		52
家事審判法条文		55
家事審判法施行法条文		60

第100号(1948年4月)

オストラキスモス(陶片追放制)素描	古代の追放制の比較法制的考察・第一部	田中周友	1
経済の意味理解についての試論		丸谷秀一	27
財産目録の二類型(一)	会計学方法論上の一基本問題として	津ノ国長四郎	52
最近法令一覧(八)			62
学界消息			64
立命館大学人文科学研究所記事			64

第101号(1948年5月)

労働協約と労働基準法	浅井清信	1
------------	------	---

近代の夫役論	大 山 敷 太 郎	18
公安委員会について(一) 附警察法	松 本 米 治	44

第 102 号 (1948年 7 月)

労働賃銀と物価との間の基本的関係	阿 部 矢 二	1
公安委員会について(二)	松 本 米 治	21
財産目録の二類型(二) 会計方法論上の一基本問題として	津ノ国長四郎	31
資料：欧文労働法文献	平 田 隆 夫	45
最近法令一覽(九)		57
立命館大学人文科学研究所記事		59

第 103 号 (1948年 8 月)

労働禁止命令の研究(二)	平 田 隆 夫	1
英米文学にあらわれた裁判	奥 村 三 舟	22
所有と経営の分離と米国連邦法	小 橋 一 郎	43
立命館大学人文科学研究所記事		62

第 104 号 (1948年10月)

労働禁止命令の研究(三)	平 田 隆 夫	1
明和安永の幣制改革	田 谷 博 吉	24
被害者の同意(一) その問題史的展望	宮 内 裕	44
資料：電産争議をめぐる法律問題	浅 井 清 信	58

第 105 号 (1948年11月)

カール・ピュッヘル <small>の</small> 森林経済論	淡 川 康 一	1
知識社会学の諸問題(一) 知識の存在的基礎	細 野 武 男	30
被害者の同意(二) その問題史的展望	宮 内 裕	51
立命館大学人文科学研究所記事		62

第106・107号(1949年7月)

〔論説・資料〕

身分行為における意思	末川博	1
知識社会学の諸問題(二) 上層の範囲	細野武男	13
平和のための世界会議(1949年) 誰がために平和はあるべきか	前芝確三	30
新政治協商会議の構成と性格	田中忠夫	46
ホームズ判事の横顔	奥村三舟	63

〔判例研究〕

死刑と日本国憲法	盛秀雄	82
衆議院議員選挙法第一一二条第一項第一号の金銭供与罪又はその申込罪の成立	松本米治	86
土地家屋の譲渡契約に附された譲受人の帰郷居住等を内容とする停止条件の適法性	西村信雄	92
手形の授受と担保の推定担保手形と請求順序担保手形と財産申告	小橋一郎	98
特別事情による仮処分取消の申立と審理範囲	吉川大二郎	103

〔演習〕

労働法(一)	浅井清信	107
商法	小橋一郎	114

〔批評と紹介〕

佐々木博士著「日本国憲法論」を読む	盛秀雄	134
西欧民主主義論の分析(一)	清水慶三	148
人文科学研究所記事		163

第108・109号(1949年9月)

〔論説〕

価値論の復位をめぐつての若干の私見	丸谷秀一	1
リカードオと経済政策	井上次郎	20
敗戦直後のインフレーションの分析	武藤守一	42
商業の地理的基礎	淡川康一	73
時価減価償却計算の一方法とその会計思想	津ノ国長四郎	93

労働賃銀と物価との間の基本的関係(続・完)	阿 部 矢 二	114
〔時 論〕		
中小企業の組織化 中小企業等協同組合法を中心として	井 上 巖 次 郎	133

第 110 号 (1949年12月)

〔論 説〕		
労働禁止命令の研究(四)	平 田 隆 夫	1
幕末に於ける開国当初の貨幣問題	田 谷 博 吉	29
氏姓時代における階級社会	足 立 政 男	48
〔雑 録〕		
京都維新読本(その一)	大 山 敷 太 郎	77
Money Market Primer, 1948, New York. A Study of the Institution and Operation of the New York Money Market. by John T. Madden, and the other writers.	小 牧 聖 徳	90
経商研究会記事		97
立命館大学人文科学研究所記事		98

第 111 号 (1950年7月)

〔論 説〕		
経済学に於る本質理解の二つの立場	丸 谷 秀 一	1
経費の性格について	箕 浦 格 良	24
アダム・スミスの分業論	関 弥 三 郎	42
〔雑 録〕		
京都維新読本(その二)	大 山 敷 太 郎	68
立命館大学人文科学研究所記事		80

第 112 号 (1950年8月)

〔論説・資料〕		
行政上の共助 行政機関の「実力による応援」	園 部 敏	1
エメリー・リーヴス「平和の解剖」(Emery Reves, "The	前 芝 確 三	13

Anatomy of Peace”) の解剖

民主主義と独裁 〔判例研究〕	薦田久規	26
刑の執行を猶予しない判決と憲法第一四条	盛秀雄	38
衆議院議員選挙法第一一五条第二号にいわゆる「演説妨害」の意義 〔演習〕	松本米治	42
労働法(二) 〔批評と紹介〕	浅井清信	48
西欧民主主義論の分析(二)	清水慶三	56
ジョン・スタインベックの民主主義抗戦文学	山本保	66
法政研究会記事		81

第113号(1950年10月)

〔論説・資料〕		
家政及消費に関する一学説	淡川康一	1
我国産業革命の一考察(一) 〔雑録〕	足立政男	28
岡山県児島郡藤田村小記	阿部矢二	49
京都維新読本(その三)	大山敷太郎	63
経商研究会記事		80

第114号(1951年4月)

〔論説・資料〕		
資本主義の成立過程における農家の自然経済	阿部矢二	1
統計学の本質 社会統計学批判	関弥三郎	21
我国産業革命の一考察(二) 〔雑録〕	足立政男	44
EDMUND BURKE の(The Reflections on the French Revolution に現はれたる)政治思想	山本経	73
経商研究会記事		87

第 115 号 (1951年10月)

〔論説・資料〕

カントにおける「法と道徳」	天 野 和 夫	1
国家形態分類についての一考察 特に独裁概念を中心としての 検討	清 水 慶 三	21
民族に関する若干の考察(一) 民族の規定についての検討	岡 崎 長 一 郎	49
選挙と選挙権	松 本 米 治	83

第 116 号 (1951年12月)

〔論 説〕

休業と賃金請求権	浅 井 清 信	1
七四〇年における藤原広嗣の反乱 日本古代国家成立史のための断 章その二	北 山 茂 夫	30
国際平和と知識人の立場 三〇年代英国文壇の平和論争	奥 村 三 舟	51
〔判例研究〕		
地方議会の議員に対する懲戒	園 部 敏	73
虚偽の出生届と親子関係不存在の主張	板 木 郁 郎	79
〔書 評〕		
ルース・ベネディクト「菊と刀」	阿 部 敬 吾	86

第 117・118 号 (1951年12月)

〔論 説〕

終刊して新たな発展へ	末 川 博	1
わが国塩業労働における封建制と近代性との交錯(上) 特に、 塩業における親方制度の推移に関連しての一試論	大 山 敷 太 郎	3
財務諸表の分析比率とその利用方法 所謂外部的者に依る経営成 績判断の一手段として、特に比較表の要望	津 ノ 国 長 四 郎	32
〔資料及研究ノート〕		
環境と交易に関する一考察	淡 川 康 一	54

附加価値税の概要	箕浦格良	70
カール・メンガーの貨幣理論	小牧聖徳	88
株式の額面超過金とその経理	寺島平	99
京都維新読本(その四)	大山敷太郎	116

立命館法學

創刊号 (1952年3月)

特輯 講和前後

発刊を祝う	末川博	1
発刊の辞	浅井清信	3
〔論説〕		
「日本国との平和条約」の国際政治的意義	前芝確三	5
国家緊急権の問題	大西芳雄	33
再軍備をめぐる憲法上の諸問題	黒田了一	64
公法上の特別権力関係の限界 この関係に於ける基本権	園部敏	96
講和条約を機とする労働法改正の基本問題	浅井清信	124
日米経済協力と経済立法	富山康吉	147
家族法の民主化とその逆行的傾向(一) 「家」の問題を中心として	西村信雄	170
法律政治年表(1945-1951)		199
〔雑報〕		

第2号 (1952年10年)

〔論説〕		
天平末葉における橘奈良麻呂の変 日本古代政治史のための断章	北山茂夫	1
家族法の民主化とその逆行的傾向(二) 「家」の問題を中心として	西村信雄	55

ヘーゲル「小論理学」の邦訳 〔資料〕	三島泰治	77
「法哲学」の限界性と法の理論 序説	天野和夫	87
戦後ドイツに於ける犯罪現象の展望 〔判例研究〕	布井要太郎	98
旅券発給拒否事件の問題	大西芳雄	108
民法第七六一条と夫婦相互の法定代理権の有無	板木郁郎	116
民訴第七五〇条第四項後段と仮処分	吉川大二郎	124
法律政治年表(1949-1951)		129

第3号(1953年6月)

〔論説〕

家族法の民主化とその逆行的傾向(三) 「家」の問題を中心として	西村信雄	1
アメリカのプレッシャー・グループスの意義及びその変質について 特に政党との関係より見た	清水慶三	27
天皇制と日清戦争 明治中期における国家主義の展開 〔資料〕	前島省三	47
英米法律用語の語源	奥村三舟	90
チエコスロヴァキアの国家機構 1948年憲法を中心として 〔判例研究〕	岡崎長一郎	104
旅券発給請求事件	大西芳雄	125
行政処分の申請	園部敏	131
財産分与請求権の相続	乾昭三	137
法律政治年表(1951-1952)		143

第4・5号(1953年11月)

末川博士還暦記念

〔論説〕

悪法論(一)	天野和夫	1
日本国憲法における矛盾	大西芳雄	14

国家承認論における学説の対立とその思想的背景	ケルゼンの国	山手治之	35
家承認論研究のための序説			
離婚の際の財産分与の性質について		板木郁郎	65
ドイツ法における氏の変更		西村信雄	91
プロイセン一般国法における監護教育権		乾昭三	111
イギリス中世の引受訴訟	Slade's case に至る系譜	中川淳	127
法人と信託についての一考察		富山康吉	144
労働協約の問題点		浅井清信	160
刑事訴訟における立証責任		斎藤朔郎	177
国民主権とルソーの社会契約論		紀篤太郎	196
権力分立理論について	その歴史の変遷の素描	岡崎長一郎	211
行政権拡大についての若干の考察	イギリス少数内閣制を中心として	清水慶三	231
て			
中立あるいは中立主義排撃論批判		前芝確三	244
道鏡をめぐる諸問題	日本古代政治史のための断章	北山茂夫	264
原内閣の歴史的位置	ブルジョア・デモクラシーの変質	前島省三	304
アメリカ的科学としての社会学	アメリカ社会学史ノート	細野武男	322
危機との対決としての詩劇	Christopher Fry ; A Sleep of Prisoners	奥村三舟	347
について			
都市に於ける昆虫の棲息数の消長	特に樹生ゴール昆虫の一	菊池立身	365
場合			

第6号(1954年2月)

〔論説〕

行政処分の無効確認訴訟		園部敏	1
福沢諭吉におけるナショナリズムの発展		前島省三	15
家族法の民主化とその逆行的傾向(四)	「家」の問題を中心として	西村信雄	39
て			

〔資料〕

「法の新しい途」Roscoe Pound, The New Paths of the Law, 1950		細野武男	61
--	--	------	----

〔判例研究〕

火焰瓶は「爆発物」か	宮内裕	84
無資格者の代諾による養子縁組の追認	板木郁郎	90
幼児の引渡	乾昭三	98
法律政治年表(1952)		108

第7号(1954年6月)

〔論説〕

不作為を命じる仮処分	吉川大二郎	1
「教育二法案」と日本の国際的立場	前芝確三	15

〔資料〕

日米相互防衛援助協定交渉経過録 附 日米相互防衛援助協定全文	山手治之編	37
判例国家賠償法(一)	乾昭三	76

〔判例研究〕

内閣総理大臣の異議	大西芳雄	88
法人の手形行為の方式	富山康吉	98

第8号(1954年9月)

〔論説〕

七・八世紀における「公民」の歴史的性格 日本古代政治史のた めの断章	北山茂夫	1
---------------------------------------	------	---

欧洲統合運動と各国の立場(一) イギリス	細野武男	22
----------------------	------	----

悪法論(二)	天野和夫	41
--------	------	----

法廷技術とシェイクスピア	奥村三舟	50
--------------	------	----

〔資料と紹介〕

ロイド「英法における権利能力なき社団」D. Lloyd, the Law relating to Unincorporated Associations. 1937.	富山康吉	70
--	------	----

マッカーシズムに関するマンズリー・レビュー誌の二・三の論説	清水慶三	79
-------------------------------	------	----

判例国家賠償法(二)	乾昭三	101
------------	-----	-----

〔判例研究〕

地方議会の議員の非行と懲罰	園部敏	127
---------------	-----	-----

賃借権に基く妨害排除請求 中 川 淳 132

第9号(1954年12月)

〔論 説〕

行政事件訴訟の給付判決 大 西 芳 雄 1

アメリカ会社法における既得権理論の変遷 株式会社構造変革と 富 山 康 吉 31
会社法発展史の一側面

憲法第九条と国際警察軍 山 手 治 之 70

〔資料と紹介〕

判例にあらわれた民法第一条(一) 改正以後の主要な適用を中心と 中 川 淳 137
して

判例国家賠償法(三) 乾 昭 三 152

〔判例研究〕

仮処分決定に対する異議申立事件の審理範囲と申立拡張の許否 吉 川 大 二 郎 170

第10号(1955年5月)

〔論 説〕

学校の利用関係 とくに学校の内部規律と懲戒 園 部 敏 1

婚姻の破綻と離婚原因についての所感 中 川 淳 27

原子兵器と国際政治, 序説 前 芝 確 三 41

〔資料と紹介〕

ヘルマン・クレンナーの「合法性の諸形態とその意義」 天 野 和 夫 61

市議会の一般調査(上) 岡 崎 長 一 郎 99

〔判例研究〕

寄宿舎で生活している学生の選挙権 大 西 芳 雄 125

寄託動産の保管者と民法第一七八条 乾 昭 三 132

〔報 告〕

The Trend of the Revival of the Family System in Japan Nobuo Nishimura 1

第11号(1955年6月)

〔論説〕

Corpus delicti について	佐伯千仍	1
労働市場における法的な人格(上)　ヘーゲル『法の哲学』に批判的に 関連して	梯明秀	33
帝人事件とその後景　日本ファシズムの議会主義的特質をめぐつ て	前島省三	85

〔資料と紹介〕

「婚姻法通俗講解材料」	西村信雄 池田誠	118
市議会の一般調査(下)	岡崎長一郎	157

〔判例研究〕

土地の現状不変更を条件とする仮処分違反する建築と代替執行	吉川大二郎	180
------------------------------	-------	-----

第12号(1955年8月)

〔論説〕

原子兵器と軍縮　「原子力と国際政治」の一節	前芝確三	1
超然内閣から護憲内閣へ　いわゆる大正デモクラシーの史的 考察	前島省三	51
労働市場における法的な人格(中)　ヘーゲル『法の哲学』に批判的に 関連して	梯明秀	87

〔資料と紹介〕

西独における労働者の経営参加	松岡正美	176
〔判例研究〕		
買戻契約と再売買の予約との相違	乾昭三	193

第13号(1955年10月)

〔論説〕

原子力平和利用と原爆外交　「原子力と国際政治」の一節	前芝確三	1
中国人民革命と土地政策(一)	池田誠	54

労働市場における法的な人格(下の一)　ヘーゲル『法の哲学』に批判的に関連して 〔資料と紹介〕	梯　　明　秀	85
E. Schmidhäuser ; Willkürlichkeit und Finalität als Unrechtsmerkmal im Strafrechtssystem, 1954	井戸田　侃	167
Protokoll der philosophischen Konferenz über Fragen der Logik in Jena, 1951 〔判例研究〕	阿　部　敬　吾	178
夫婦共同縁組の離縁	中　川　　淳	189

第 14 号 (1955年12月)

〔論　説〕

法律解釈学の科学性(一)	大　西　芳　雄	1
原子力と平和的共存　「原子力と国際政治」の一節	前　芝　確　三	17
中国人民革命と土地政策(二・完)	池　田　　誠	76
〔資料と紹介〕		
田畑茂二郎「国際法」(下巻)	山　手　治　之	117
〔判例研究〕		
妻の過失と夫の債務不履行上の責任	板　木　郁　郎	153

第 15 号 (1956年3月)

〔論　説〕

ペーリンクといわゆる構成要件の理論(一)	佐　伯　千　仞	1
法律解釈学の科学性(二・完)	大　西　芳　雄	24
株主の新株引受権の性質	富　山　康　吉	45
刑事訴訟手続と憲法第三一条	井戸田　侃	65
Die Entwicklung des Verwaltungsrechts und der Verwaltungsrechtsprechung in Japan 〔資料と紹介〕	Satoshi Sonobe	1
ブローズニッツ「商事契約の定型化」	塩　田　親　文	105

〔判例研究〕

賃貸借の不成立と権利金の返還請求 中川 淳 117

第16号(1956年7月)

〔論説〕

国民主権について(一) 大西 芳雄 1

二つのマス・メディア 前 芝 確 三 17

米国交渉単位制度の本質 成立過程の分析 光岡 正博 37

〔資料と紹介〕

戒能通孝「民法学概論」 乾 昭 三 71

太田武男「離婚原因の研究 判例の変遷を中心として」 中川 淳 79

〔判例研究〕

賃貸借の規定が適用されない貸店契約の一事例 ケース貸 末川 博 84

高層建築の工事禁止仮処分と解放金額 吉川 大二郎 89

第17号(1956年12月)

〔論説〕

十七世紀イギリスの独立教会派 渡 辺 一 1

経営参加と会社法 労働法と商法の一接点 松岡 正美 29

〔資料と紹介〕

オーストリア行政処罰法(訳) 中川 祐夫 68

熊倉 武「労働法と刑法の交錯」 井戸田 侃 85

〔判例研究〕

恩給証書の返還と民法五〇四条 乾 昭 三 93

内縁の配偶者の一方が殺害せられたときの他方の慰籍料請求権 中川 淳 96

第18号(1957年3月)

〔論説〕

ベーリンクといわゆる構成要件の理論(二) 佐伯 千 仍 1

第二次桂内閣の外交政策 前 島 省 三 30

米国会社法における議決権信託	菱田政宏	70
〔資料〕		
レクシャス「行為論」(一)	天野和夫監修 レクシャス研究会訳	105

第19号(1957年5月)

〔論説〕		
取締役の解任をめぐる若干の問題(一)	塩田親文	1
持統天皇論(一) 日本古代政治史のための断章	北山茂夫	19
〔資料〕		
争議権論争の一齣 ドイツ連邦労働裁判所の一判例の紹介	浅井清信	49
レクシャス「行為論」(二)	天野和夫監修 レクシャス研究会訳	62
〔判例研究〕		
離婚の許否と財産分与の性質	中川淳	82

第20号(1957年7月)

〔論説〕		
故意の地位 目的的行為論体系についての一考察	井戸田侃	1
第二次桂内閣の経済政策と政党的基盤(一)	前島省三	30
〔紹介〕		
ダニエル・J・ブラスティン「アメリカ政治の精神」	渡辺一	61
〔判例研究〕		
占有の交互侵奪	乾昭三	87

第21号(1957年9月)

〔論説〕		
W・ザウアー法理論の一考察 三側面論をめぐって	大橋智之輔	1
第二次桂内閣の経済政策と政党的基盤(二・完)	前島省三	23
〔資料〕		
ドイツの「刑法改正資料」(一) 刑法学者の意見集	刑法読書会編 佐伯千仞	55

〔判例研究〕

罹災都市借地借家臨時処理法第一〇条
法学会記事 中 川 淳 100

第22号(1957年11月)

〔論 説〕

国際政治の発展における合法則性について 前 芝 確 三 1
取締役の解任をめぐる若干の問題(二・完) 塩 田 親 文 33

〔資 料〕

「飯田事件(明治十七年)裁判記録」 後 藤 靖 49

〔判例研究〕

妻の共同不法占拠 乾 昭 三 119

第23号(1958年1月)

〔論 説〕

仮処分命令における解放金 判例の総合的研究 吉 川 大 二 郎 1
持統天皇論(二) 日本古代政治史のための断章 北 山 茂 夫 19

〔資 料〕

ドイツの「刑法改正資料」(二) 「刑法学者の意見集」 刑 法 読 書 会 編 33
佐 伯 千 仞

〔判例研究〕

株主総会決議により解任された清算人(取締役)の当該決議取消訴
訟における原告適格 松 岡 正 美 59
法学会記事

第24号(1958年3月)

〔論 説〕

大衆と階級(一) 政治的指導と被指導をめぐる 清 水 慶 三 1
ワイマール共和国における議会主義政治体制(一) その構造的な 山 口 定 14
安定性に関する序論的考察

〔資料〕

レクシャス「行為論」(三)

天野和夫監修
レクシャス研究会訳 68

第25号(1958年6月)

〔論説〕

平和的共存の理論と現実

前芝確三 1

大陸法に於ける行政裁判権の独立

山下健次 43

ワイマル共和国における議会主義政治体制(二) その構造的な

山口定 84

安定性に関する序論的考察

〔資料〕

ドイツの刑法改正資料(三) 「刑法学者の意見集」

刑法読書会編
佐伯千仞編 139

第26号(1958年9月)

〔論説〕

国際政治の発展における能動的諸要因

前芝確三 1

地租増徴法をめぐる階級対立(一)

前島省三 61

公安条例総合判例研究

大西芳雄 95

〔資料〕

ドイツの刑法改正資料(四) 「刑法学者の意見集」

刑法読書会編
佐伯千仞編 120

〔判例研究〕

強盗傷人罪における傷害の意義

井戸田侃 161

法学会記事

第27号(1958年12月)

〔論説〕

カール・レンナーの法社会学の方法 法の概念について

細野武男 1

地租増徴法をめぐる階級対立(二・完)

前島省三 24

〔資料〕

イギリス労働党「産業と社会」とその批判(一) 所有と経営の分

富山康吉 81

離論とその批判

オーストリア一般行政手続法(訳) 〔判例研究〕	波多野 弘	97
執行吏保管の仮処分執行中の不動産に対する第三者の占有侵害と 本執行移行後における右侵害排除のための債務名義の要否	吉川 大二郎	126
人的会社における社員の解散判決請求権と退社権ならびに除名 法学会記事	松岡 正美	132

第28号(1959年3月)

〔論説〕

蘇我倉山田石川麻呂の事件について(一) 大化改新の研究 第一部	北山 茂夫	1
アメリカ離婚法における互責と比較的潔白の原則 〔資料と紹介〕	村井 衡平	31
「地方」制の区域と組織(一) 地方制度調査会答申の批判	岡崎 長一郎 高木 鉦作	62
シュヴァルツェンバーガー「核兵器の合法性」	山手 治之	87
ドイツの刑法改正資料(五) 「刑法学者の意見集」 〔判例研究〕	刑法読書会 佐伯 千仞 編	115
民法第四六七条第二項の対抗力なき債権の二重譲渡と債務者の弁 済拒否の抗弁権 法学会記事	西村 信雄	175

第29・30号(1959年9月)

園部教授・板木教授還暦記念

〔論説〕

社会変革と法	末川 博	1
海外渡航の自由	大西 芳雄	20
C・シュミットの憲法裁判論 その合理性と非合理性	山下 健次	48
最近の刑事訴訟における当事者主義思想 その否定の根拠につい ての若干の考察	井戸田 侃	71
刑事訴訟における証拠の開示	佐伯 千仞	98
占領軍の法令の効力	山手 治之	135

現在の時点における中立の意義	前 芝 確 三	197
漢城政変 北清事変にいたる日本<帝国>外交の一側面	前 島 省 三	226
広東における革命と反動 国民党改組の諸前提	池 田 誠	270
イギリス労働党における院外統制の諸問題	渡 辺 一	301
ワイマール共和国におけるラジオ放送の政治的中立性	山 口 定	357
ソ同盟最高ソヴェト幹部会令について 社会主義的合法性と関連して	畑 中 和 夫	382
親族法の改正と内縁問題	西 村 信 雄	407
所有と経営の論理的矛盾とその発展 私的所有の発展形態としての株式会社とその法理	富 山 康 吉	428
労働法の解釈について	浅 井 清 信	471
園部敏教授年譜		
板木郁郎教授年譜		

第31号(1959年12月)

〔論 説〕

財産分与契約の取消をめぐる一考察(一) 判例の概観	中 川 淳	1
イギリス労働党における院外統制の諸問題(続)	渡 辺 一	18
社会主義的合法性の諸問題(一) 社会主義的合法性の原理	畑 中 和 夫	38
聴聞に関する序論的考察 合衆国行政法における問題を中心に	小 高 剛	75

〔資 料〕

総合判例研究「日本占領法令の効力」(一)	山 手 治 之	123
ドイツの刑法改正資料(六・完) 「刑法学者の意見集」	刑 法 読 書 会 佐 伯 千 仞 編	148

〔判例研究〕

動物占有者の責任	乾 昭 三	168
法学会記事		

第32号(1960年3月)

〔論 説〕

広東護法政府の成立と軍閥反動(一) 国民党改組の一前提	池 田 誠	1
フランス司法権についての一試論	山 下 健 次	53

既判力の対象と裁判所の選択権(一) 「請求」論争への 一視点 〔資料〕	井上正三	73
総合判例研究「日本占領法令の効力」(二) 〔判例研究〕	山手治之	108
設立中の会社名義の売買契約書の作成と私文書偽造罪の成否 法学会記事	井戸田 侃	131

第33号(1960年6月)

〔論説〕

「法の支配」と行政争訟 イギリスにおける問題点	大西芳雄	1
既判力の対象と裁判所の選択権(二) 「請求」論争への 一視点	井上正三	27
内部規律行為と行政行為(一) 特別権力関係における行為に対する 権利救済	小高 剛	57

〔資料〕

アジア各国の刑事法研究(一)	刑法読書会 佐伯千仞監修	89
総合判例研究「日本占領法令の効力」(三)	山手治之	128
アメリカの離婚法における宥恕	村井 衡平	160
〔判例研究〕		
身元保証契約と公序良俗 身元保証法第五条の法意 法学会記事	西村 信雄	179

第34号(1960年9月)

西村教授還暦記念

〔論説〕

法の適用における難点 事実の認定と法の解釈を中心として	末川 博	1
三池争議における仮処分	吉川大二郎	16
財産分与の相続性をめぐる一考察	中川 淳	35
いわゆる「暴力の行使」について	浅井清信	48
改正刑法準備草案について	佐伯千仞	73

いわゆる刑法と刑事訴訟法との調和理論について	改正刑法準備	井戸田 侃	95
草案に関する一つの問題			
コンセイユ・デタ	その訴訟部の実態	大西 芳雄	115
コンセイユ・デタ	その立法・行政活動	山下 健次	143
植民地体制の崩壊と国際法	民族自決権を中心として	山手 治之	175
階級的視点と人類的視点	いわゆる「中ソ・イデオロギー論争」に ついて	前芝 確三	214
露清密約と加藤外交		前島 省三	239
毛沢東の「論持久戦」について	政治における能動性の問題	池田 誠	282
西独社会民主党の現状		山口 定	301
社会主義と中立		畑中 和夫	338
西村信雄教授年譜			

第35号(1960年12月)

〔論説〕

株式会社における「社会化」の意味		富山 康吉	1
日本商法典成立史序説	商法典論争をめぐる諸問題	松岡 正美	15
聴聞審理官の機能について	適正手続要請の一側面	小高 剛	37
〔資料〕			
アメリカの離婚法における共謀		村井 衡平	68
アジア各国の刑事法研究(二)		刑法読書会 佐伯千仞監修	91
〔判例研究〕			
法令の公布の方法及び時期		園部 敏	127

第36号(1961年3月)

〔論説〕

大都市地域の行政問題	その素描と若干の問題	岡崎 長一郎	1
〔資料〕			
行政犯における期待可能性について	とくに判例を中心とし て	安田 節	36
アジア各国の刑事法研究(三)		刑法読書会 佐伯千仞監修	69

〔紹介〕

マーク・カーソン「アメリカの労働組合と政治(1900-1918)」 渡辺 一 94

〔判例研究〕

共同振出人の肩書地が異なりかつ支払地および振出地の記載が単
に「東京都」である約束手形の効力 塩田親文 135

研究会記事

第37号(1961年6月)

〔論説〕

ソヴィエトの弁護士 大西芳雄 1

わが民法の届出婚主義に対する批判(一) 西村信雄 21

学校処置に対する裁判所の救済 保障の範囲と強度 山本重太 45

〔資料〕

アジア各国の刑事法研究(四) 刑法読書会 79

佐伯千仞監修

〔紹介〕

Arens, Peter ; Streitgegenstand und Rechtskraft im
aktienrechtlichen Anfechtungsverfahren. 1960. 井上正三 90

研究会記事

第38号(1961年9月)

〔論説〕

不確定概念における裁量領域 田村悦一 1

アメリカ労働組合政治の基本的特質(一) 渡辺 一 41

〔資料〕

アジア各国の刑事法研究(五) 刑法読書会 77

佐伯千仞監修

研究会記事

第39・40号(1961年12月)

吉川教授還暦記念

〔論 説〕

占有と所有のあいだ	末 川 博	1
強制民事婚主義における婚姻締結の方式 として	西 村 信 雄	11
西独の婦人労働とその保護立法の動向	浅 井 清 信	43
代諾離縁における代諾権者 実際の解釈を中心として	中 川 淳	67
最高裁判所と証拠開示	佐 伯 千 仞	91
捜査の構造序説	井 戸 田 侃	129
イギリスの弁護士	大 西 芳 雄	150
東西関係の新段階	前 芝 確 三	179
律令体制の成立について	北 山 茂 夫	207
第一次西園寺内閣の毒殺	前 島 省 三	248
内藤湖南の辛亥革命論	池 田 誠	285
社会主義的合法性の保障 権力濫用に対する権利救済の制度	畑 中 和 夫	328
吉川大二郎教授年譜		

第 41 号 (1962年 2 月)

〔論 説〕

所有権の保障と制度保障の理論	山 下 健 次	1
労働組合運動とナチスの権力掌握(一)	山 口 定	42
〔資 料〕		
グリゴリ・I・トゥンキン「共存と国際法」(一)	山 手 治 之	82
アジア各国の刑事法研究(六)	刑 法 読 書 会 佐 伯 千 仞 監 修	105
〔判例研究〕		
民法第八一四条第一項第三号の法意と適用の有無	中 川 淳	115
行政庁の作為義務存在確認訴訟の適否 農地法八〇条一項にもと づく農林大臣の認定について	田 村 悦 一	127
研究会記事		

第42号(1962年4月)

〔論説〕

要件裁量の検討(一) 田村悦一 1

〔資料〕

李維漢「新民主主義革命の時期におけるプロレタリアートの指導
権を獲得する闘争」(上) 池田誠 41アジア各国の刑事法研究(七) フィリピン共和国の刑事法 大韓
民国の刑事法 刑法読書会
佐伯千仞監修 69チェコスロヴァキヤ社会主義共和国一九六〇年憲法の所有に關す
る規定について 浅井幸男 98

〔判例研究〕

不法原因給付と国家賠償 乾昭三 116
研究会記事

第43号(1962年6月)

〔論説〕

ジョン・オブ・ソールズベリの抵抗権論 天野和夫 1

アメリカ労働組合政治の基本的特質(二) 渡辺一 28

〔資料〕

東ドイツの新労働法典と労働者保護 浅井清信 78

李維漢「新民主主義革命の時期におけるプロレタリアートの指導
権を獲得する闘争」(下) 池田誠(訳) 97アジア各国の刑事法研究(八) 中華人民共和国の刑事法 刑法読書会
佐伯千仞監修 133
研究会記事

第44号(1963年2月)

前芝教授還暦記念特集

〔論説〕

条約と憲法 大西芳雄 3

平城上皇の変についての一試論	「日本の古代政治史の研究」続篇	北山茂夫	22
その二			
内藤湖南の袁世凱論		池田誠	71
アメリカ政治の「全国化」について	アメリカ労働組合政治の基	渡辺一	104
本的特質(三)			
圧力団体としてのドイツ労働組合総同盟		山口定	138
前芝確三教授年譜			

第45号(1963年3月)

浅井教授還暦記念特集

〔論説〕

西独行政判例よりみた自由裁量論の推移	要件裁量の検討	田村悦一	3
(二)			
就業妨害禁止仮処分の執行	最近の東京地裁決定を中心として	吉川大二郎	31
相続制度の底辺にあるもの		末川博	43
親権者と未成年の子との間における利益相反行為	その要件と具	中川淳	51
体的事例			
わが民法の届出婚主義の成立	わが民法の届出婚主義に対する批判	西村信雄	85
(二)			
第三者の新株引受権と有利発行		富山康吉	156
取締役の第三者に対する責任	その一 判例にあらわれた具体例	塩田親文	170
浅井清信教授年譜			

第46号(1963年3月)

〔論説〕

基本権規定の法的性格の展開(一)		山下健次	1
アメリカ労働組合政治の基本的特質(四・完)		渡辺一	29
〔資料〕			
アジア各国の刑事法研究(九)	中華人民共和国の刑事法	刑法読書会 佐伯千仞監修	59
〔書評〕			
池田誠著「中国現代政治史」		松野昭二	87

研究会記事

第47号(1963年6月)

〔論説〕

等族国家における抵抗権 天野和夫 1

〔資料〕

グリゴリ・I・トゥンキン「共存と国際法」(二) 山手治之 19

アジア各国の刑事法研究(十) 中華人民共和国の刑事法(二) 刑法読書会 29

〔紹介〕

Glenn G. Morgan, Soviet Administrative Legality The Role of the Attorney General's Office, 1962 畑中和夫 68

〔判例研究〕

検察官のなす起訴不起訴決定に対する不作為の違法確認の訴えの適否 田村悦一 75

母と非嫡出子間の親子関係と認知の要否 中川淳 90

研究会記事

第48号(1963年12月)

〔論説〕

条約の解釈 山手治之 1

刑事訴訟法の解釈 井戸田侃 14

〔資料〕

フリードリッヒ・ナウマンの基本権草案 山下健次 34

アジア各国の刑事法研究(十一) 中華人民共和国の刑事法 刑法読書会 42

〔紹介〕

エドワード・W・ベネット「一九三一年の金融恐慌に際してのドイツ外交」 山口定 71

〔判例研究〕

取締役の持ち廻り決議によって支配人に選出された者の地位 塩田親文 100

研究会記事

第49号(1964年1月)

〔論説〕

裁量限界に関する若干の考察(一) 田村悦一 1

〔資料〕

『地方』制の区域と組織(二) 地方制度調査会答申の批判 岡崎長一郎 26
高木鉦作

〔紹介〕

James MacGregor Burns, *The Deadlock of Democracy:* 渡辺一 63
Four-Party Politics in America

研究会記事

第50号(1964年2月)

〔論説〕

核兵器と人類意識 前芝確三 1

被告人の悪性格の立証についての一考察 松岡正章 23

〔資料〕

グリゴリ・I・トゥンキン「共存と国際法」(三・完) 山手治之 49

アジア各国の刑事法研究(十二) 中華民国の刑事法(一) 刑法読書会 78
佐伯千仞監修

〔判例研究〕

教師の授業中の事故と国家賠償 乾昭三 97

研究会記事

第51・52号(1964年3月)

〔論説〕

違憲判決の効力 大西芳雄 1

裁量限界に関する若干の考察(二) 田村悦一 19

〔資料〕

イヴォ・ラペナ「ソビエト共存概念の法的側面と政治的意義」 山手治之 43

東独における労働争訟調整の原則と機関について 浅井清信 85

アジア各国の刑事法研究(十三) 中華民国の刑事法(二) 刑法読書会 102
佐伯千仞監修

〔判例研究〕

原爆訴訟判決	山手治之	121
借地法第一〇条の建物買取請求権と建物賃借人の代位行使の許否	板木郁郎	155
医療法人の職務代行者と商法二七一条非訟事件手続法一三二条ノ五の準用の有無	吉川大二郎	167

第53号(1964年8月)

〔論説〕

迷惑防止条例	佐伯千仞	1
現代における身元保証の実態(一)	西村信雄	28
財産分与契約の取消をめぐる一考察(二・完) 判例の概観	中川淳	61

〔資料〕

中国公民の基本的権利と義務について(一)	池田誠	68
アジア各国の刑事法研究(十四) 中華民国の刑事法(三)	刑法読書会	114
研究会記事	佐伯千仞監修	

+

+

第54号(1964年11月)

〔論説〕

現代における身元保証の実態(二)	西村信雄	1
英米行政過程における手続的適正について(三) 自然的正義原則の適用とその限界	小高剛	33

〔資料〕

エス・エリ・ジーヴス「比較法の方法について」	畑中和夫	59
中国公民の基本的権利と義務について(二)	池田誠	73
アジア各国の刑事法研究(十五) 中華民国の刑事法(四)	刑法読書会	100
研究会記事	佐伯千仞監修	

第55号(1964年12月)

〔論説〕

鉄道公安職員と労働争議(一)	浅井清信	1
----------------	------	---

判例からみた労使慣行(一)	窪田隼人	23
〔資料〕		
イムレ・サボー「法解釈の理論的諸問題」	天野和夫	43
中国公民の基本的権利と義務について(三・完)	池田誠	52
アジア各国の刑事法研究(十六) 中華民国の刑事法(五)	刑法読書会 佐伯千仞監修	77
〔判例研究〕		
差戻後の第一審における訴の取下と再訴禁止	井上正三	97

第56号(1965年1月)

〔論説〕

手形の表面になした単なる署名 判例を中心として	塩田親文	1
ドイツにおける権利侵害予防制度の一考察	中井美雄	28

〔資料〕

トンキン湾事件と安保条約 国会の討議にみるその国際法的諸問題	山手治之	53
--------------------------------	------	----

アジア各国の刑事法研究(一七) 沖縄の刑事法(一)	刑法読書会 佐伯千仞監修	83
---------------------------	-----------------	----

〔判例研究〕

自動車運転免許取消し処分が違法でない認められた事例研究会記事	田村悦一	125
--------------------------------	------	-----

第57・58号(1965年3月)

〔論説〕

比例原則 裁量限界に関する若干の考察(三)	田村悦一	1
鉄道公安職員と労働争議(二・完)	浅井清信	25

米国行政過程と機能分離について 英米行政過程における手続的適正(四)	小高剛	52
------------------------------------	-----	----

〔資料〕

エーベルス「団体行政憲法」	山下健次	77
社会主義法学と社会学的方法	外国法読書会 天野和夫編	93

アジア各国の刑事法研究(一八) 沖縄の刑事法(二)	刑法読書会 佐伯千仞監修	112
---------------------------	-----------------	-----

〔判例研究〕

起訴命令の管轄裁判所
研究会記事

吉川大二郎 135

第59号(1965年6月)

〔論説〕

少数者の憲法上の権利

大西芳雄 1

不動産賃借権にもとづく妨害排除(一) 財産権体系と権利保護制
度についての一つの視点

中井美雄 29

〔資料〕

キューバにおける法的諸問題

外国法読書会
天野和夫編 71

アジア各国の刑事法研究(一九) 韓国の司法制度

刑法読書会
佐伯千仞監修 94

〔紹介〕

デトレフ・クラウス「不法における結果反価値と行為反価値」

中村義孝 109

第60号(1965年8月)

〔論説〕

「北爆」の論理と非論理

前芝確三 1

〔資料〕

O・J・リジッチン「分裂した世界の国際法」(一)

山手治之 22

社会主義諸国における大衆的な紛争処理制度

外国法読書会
天野和夫編 49

アジア各国の刑事法研究(二〇) 沖縄の刑事法(三)

刑法読書会
佐伯千仞監修 85

〔紹介〕

ア・イ・コサレフ「比較法史の方法について」

畑中和夫 102

〔判例研究〕

幼児の引渡

中川淳 115

第61号(1965年10月)

〔論説〕

ドライバー報告と公共労働立法

浅井清信 1

一部請求と残部請求(一)	井上正三	24
〔資料〕		
○・J・リジッチン「分裂した世界の国際法」(二・完)	山手治之	37
チェコスロバキアの新民法典	外国法読書会 天野和夫編	63
アジア各国の刑事法研究(二一) 沖縄の刑事法(四・完)	刑法読書会 佐伯千仞監修	82
〔紹介〕		
ア・ア・ピオントコフスキー「法学, その性質と方法」	畑中和夫	112
〔判例研究〕		
仮処分取消判決の仮執行後に債務者のした工事と収去命令の許否 研究会記事	吉川大二郎	124

第62号(1965年12月)

〔論説〕

訴訟条件の機能と内容	井戸田侃	1
裁量限界に関する若干の考察(四)	田村悦一	29
不動産賃借権にもとづく妨害排除(二)	中井美雄	55
〔資料〕		
ソ連法学における具体的・社会学的方法	外国法読書会 天野和夫編	73
アジア各国の刑事法研究(二二) 中華民国の刑事法(六)	刑法読書会 佐伯千仞監修	94
研究会記事		

第63・64号(1966年3月)

〔論説〕

憲法の欠缺	大西芳雄	1
行政過程における正式手続の制限及び排除について 英米行政 過程における手続の適正(五)	小高剛	23
子の引渡について(一) 判例の概観	中川淳	74
〔資料〕		
アジア各国の刑事法研究(二三) 中華民国の刑事法(七・完)	刑法読書会 佐伯千仞監修	88
〔紹介〕		
ニッパードイ「社会的市場経済と基本法」	松岡正美	106

〔判例研究〕

保安設備を欠いた鉄道の踏切と工作物の瑕疵	末川博	124
債務不履行に基く債権に対する相殺の禁止	乾昭三	130
満期以後の日を振出日として記載した約束手形の効力 研究会記事	塩田親文	140

第65号(1966年6月)

〔論説〕

刑法学の黎明	佐伯千仞	1
現代における身元保証の実態(三)	西村信雄	25

〔資料〕

R・W・M・ディーアス「国際法に適用した定義のメカニズム」 (一)	山手治之雄 曾我英之雄	51
ユーゴスラビア新憲法をめぐって	外国法読書会編 天野和夫	64

第66号(1966年12月)

〔論説〕

イギリスの政党政治と圧力団体 比較政治論としての一考察	清水慶三	1
現代における身元保証の実態(四・完)	西村信雄	16

〔資料〕

R・W・M・ディーアス「国際法に適用した定義のメカニズム」 (二・完)	山手治之雄 曾我英之雄	63
ソビエト法の性格をめぐる米・ソ学者の論争	外国法読書会編 天野和夫	74

〔判例研究〕

年次有給休暇請求権の性格 研究会記事	窪田隼人	96
-----------------------	------	----

第67号(1967年1月)

〔論説〕

行政法における適正手続の理論(その一)	小高剛	1
---------------------	-----	---

十八世紀イギリスの地方政治と中央政治 安判事を中心として(一)	その統合媒介者たる治	福井英雄	28
〔資料〕			
楊欣・陳健「国家主権問題にかんする帝国主義者の誤った理論を 暴露し批判する」		池田誠	56
ユーゴスラビア憲法理論の諸問題 〔判例研究〕		外国法読書会 天野和夫編	69
誤記により裏書の連続を欠く手形		塩田親文	102

第68号(1967年2月)

〔論説〕			
旧憲法下の国家緊急権		大西芳雄	1
〔資料〕			
西ドイツにおける非常事態法の問題点(一)		山口定	36
社会主義諸国における経済計画の法的諸問題 〔判例研究〕		外国法読書会 天野和夫編	49
バス路線の免許申請却下処分と行政訴訟		小高村悦一	86

第69・70号(1967年3月)

〔論説〕			
「現代」憲法における国家機構論の一つの視角 制度に関連して	委員会・審議会	山下健次	1
労使慣行論(一)		浅井清信	18
十八世紀イギリスの地方政治と中央政治 安判事を中心として(二)	その統合媒介者たる治	福井英雄	32
〔資料〕			
西ドイツにおける非常事態法の問題点(二・完)		山口定	56
ソ連における権利の理論 〔判例研究〕		外国法読書会 天野和夫編	70
借地法十条の建物買取請求権の消滅時効		乾昭三	99
無断増改築禁止の特約の効力と信頼関係		中井美雄	107

内縁関係と民法第七七二条の嫡出推定
研究会記事 中 川 淳 117

第71号(1967年6月)

〔論 説〕

秘密再軍備とドイツ社会民主党(一) ワイマル体制崩壊原因論の
一視角 山 口 定 1

労使慣行論(二) 浅 井 清 信 37

十八世紀イギリスの地方政治と中央政治 その統合媒介者たる治
安判事を中心として (三・完) 福 井 英 雄 55

〔判例研究〕

自動車事故と道路管理の瑕疵に基づく賠償責任 同乗者の過失相
殺と慰謝料請求権の相続性に関連して 三 島 宗 彦 81

第72号(1967年8月)

〔論 説〕

行政法における適正手続の理論(その二) 小 高 剛 1

秘密再軍備とドイツ社会民主党(二) ワイマル体制崩壊原因論の
一視角 山 口 定 27

フランス法における仮登記原因について 安 武 敏 夫 58

〔総合判例研究〕

権利概念の変遷と行政事件訴訟(一) 田 村 悦 一 86

〔資 料〕

ヴァッテル『国際法、すなわち諸国民と諸主権者の行動および事
務に適用される自然法の諸原則』(一) ヴァッテル研究会訳
山手治之監修 103

研究会記事

第73号(1968年1月)

〔論 説〕

労使慣行論(三・完) 浅 井 清 信 1

秘密再軍備とドイツ社会民主党(三)　ワイマル体制崩壊原因論の 一視角	山　口　定	36
メソポタミアにおけるオリエンタル・デスポティズムの成立(一) アジア的形態の一試論	神　崎　要	67
〔資　料〕		
ヴァッテル『国際法，すなわち諸国民と諸主権者の行動および事 務に適用される自然法の諸原則』(二)	ヴァッテル研究会訳 山手治之監修	84
学位論文審査要旨		

第74号(1968年3月)

〔論　説〕		
公安条例再論	大　西　芳　雄	1
行政法における適正手続の理論(その三)	小　高　剛	49
〔資　料〕		
ヴァッテル『国際法，すなわち諸国民と諸主権者の行動および事 務に適用される自然法の諸原則』(三)	ヴァッテル研究会訳 山手治之監修	80
研究会記事		

第75・76号(1968年3月)

〔論　説〕		
元老院の不応為律廃止論　明治初年における罪刑法定主義	佐　伯　千　仍	1
非財産的損害の賠償(一)	三　島　宗　彦	14
秘密再軍備とドイツ社会民主党(四)　ワイマル体制崩壊原因論の 一視角	山　口　定	39
〔資　料〕		
社会主義法の研究について	外国法読書会 天野和夫編	65
ヴァッテル『国際法，すなわち諸国民と諸主権者の行動および事 務に適用される自然法の諸原則』(四)	ヴァッテル研究会訳 山手治之監修	86
〔紹　介〕		
ツォイナー「不作為の訴および消極的確認の訴に関する考察」	中　井　美　雄	124

〔判例研究〕

定款に記載のない財産引受の無効の主張と権利濫用
研究会記事 志村治美 140

第77号(1969年5月)

〔論説〕

アメリカの新左翼と社会主義 とくに「エスニック」要因との関連
において 渡辺 一 1

〔研究ノート〕

フランスの司法制度史について レポアント・G「1789年から1914
年迄の司法制度」を中心に 中村義孝 43
研究会記事

第78・79号(1969年6月)

法学部教育特集号

『立命館法学』の教学問題特集号編集にあたって 池田 誠 1
昭和41年度法学部調査委員会報告 立命館大学法学部調査委員会 1
昭和42年度法学部教育に関する学生実態報告 立命館大学法学部調査委員会 112
二部教学の総括 改革以来のまとめ 立命館大学二部協議会 152
いわゆる立命館方式の現状と課題 立命館大学法学部調査委員会の
討議から 田村悦一 211
法学教育と司法試験対策 天野和夫 222
「法学教育論」の現代的特徴 畑中和夫 226

第80号(1969年8月)

〔論説〕

秘密再軍備とドイツ社会民主党(五・完) ワイマル体制崩壊原因
論の一視角 山口 定 1
行政法における適正手続の理論(四) 小高 剛 29

〔研究ノート〕

新カント法哲学についての序論的検討	堀江一晃	54
アメリカにおける会社解散・工場閉鎖	小室豊允	61
〔資料〕		
ヴァッテル『国際法，すなわち諸国民と諸主権者の行動および事務に適用される自然法の諸原則』(五)	ヴァッテル研究会訳 山手治之監修	86
〔判例研究〕		
労働者の同意なき就業規則改正の効力	窪田隼人	116

第81・82号(1969年11月)

前芝確三先生追悼特集

〔論説〕

<遺稿> ロシア革命50年 社会主義とはなにか	前芝確三	3
ワイマル共和国後半期におけるドイツ社会民主党内の国防論争	山口定	32
イギリス社会主義思想の一典型 ハロルド・ラスキの場合	福井英雄	84
日本社会党と森戸・稲村論争	太田雅夫	137
故前芝確三先生年譜		

第83号(1970年2月)

〔論説〕

法思想史序論	天野和夫	1
社会主義憲法における「所有」 ユーゴスラビア憲法を中心に	浅井幸男	18
〔資料〕		
エム・エヌ・アンドリュューヒン「ジェノサイド」	外国法読書会編 天野和夫	45
〔紹介〕		
C. F. アメラシング「国家契約」	曾我英雄	88

第84号(1970年6月)

法学部教育特集号 2

法学部教育の課題	三島宗彦	1
----------	------	---

昭和43年度法学部基礎演習に関する実態調査報告	志村治美	6
昭和43年度2回生英書講読に関する調査報告	山下健次	47
報告 討論方式講義(実験教室)の実際 「行政法総論B」の1年 をふりかえって	田村悦一	70

第85号(1970年7月)

〔論説〕

古代の法思想	天野和夫	5
「自己金融」の法的考察 西ドイツ新株式法における規制を中心と して	田平紀男	27

〔資料〕

アジア各国の刑事法研究(二四) インド共和国の刑事法(一) 学位論文審査要旨	刑法読書会 佐伯千仞監修	79
---	-----------------	----

第86号(1970年8月)

〔論説〕

過払賃金の控除と全額払の原則	窪田隼人	8
〔総合判例研究〕		
権利概念の変遷と行政事件訴訟(二)	田村悦一	25
〔紹介〕		
ガルラース「可罰性の根拠と限界」	久岡康成	54
〔判例研究〕		
約束手形の振出人欄になされた数個の署名の効力等 研究会記事	塩田親文	67

第87・88号(1970年9月)

〔論説〕

西ドイツの刑事手続とイギリスの刑事手続	井戸田侃	5
護法から革命への孫文理論の展開 孫文理論の展開とロシア 革命	池田誠	69

第89号(1970年10月)

〔論説〕

アメリカ交渉単位制度の機能 前川正仁 5

〔判例研究〕

銀行預金の差押と相殺との関係 中井美雄 41

全共闘の暴力行為および寮問題に関する大学側の訴え・声明等(昭和44年度)

第90号(1970年11月)

〔論説〕

国際私法における相続人の不存在 木棚照一 7

〔資料〕

孫文とロシア革命(上) 池田誠 39

法学部白書(昭和44年7月) その一

第91号(1970年12月)

〔論説〕

イデオロギーの意味についての試論 渡辺一 5

〔資料〕

孫文とロシア革命(下) 池田誠 60

法学部白書(昭和44年7月) その二

第92号(1971年1月)

〔論説〕

啓蒙時代と犯罪類型 アンシャン・レジームから1791年刑法典 中村義孝 6

へ

〔資料〕

社会的相当性 塩見久喜 46

法学部白書(昭和44年7月) その三

第93・94号(1971年3月)

〔論説〕

議会主義再編成の史的背景 イギリス議会政治の構造変化 福井英雄 6
 (その一)

〔総合判例研究〕

権利概念の変遷と行政事件訴訟(三) 田村悦一 36

〔紹介〕

フランツ・フォン・リストへの追憶(一) ドイツ全刑法学雑誌第 刑法読書会編 76
 81巻(1969年)3号(死後50周年記念号)から
 佐伯千仞

〔判例研究〕

農地を目的物とする現物出資契約の効力 志村治美 98

第95号(1971年5月)

〔論説〕

中世の法思想 天野和夫 5

国際法におけるコンセッションと既得権の法理 国家契約と国際 曾我英雄 25
 法(その一)

犯罪の嫌疑と刑の量定 久岡康成 67

全共闘の暴力行為および寮問題に関する大学側の訴え・声明等(昭和45年度)

第96号(1971年10月)

〔論説〕

基本権の第三者効力(一) 三並敏克 8

〔資料〕

フランス1791年刑法典 内田博文 44
 中村義孝

ヴァッテル『国際法、すなわち諸国民と諸主権者の行動および事 ヴァッテル研究会訳 74
 務に適用される自然法の諸原則』(六) 山手治之監修

第97号(1971年12月)

〔論説〕

近代初期の自然法思想 天野和夫 6

〔紹介〕

J. F. ジムーマン「合衆国における大都市改革 その概観」 岡崎長一郎 46

ペーター・ノル「刑罰の倫理的基礎づけ」 比嘉康光 66

フランツ・フォン・リストへの追憶(二) ドイツ全刑法学雑誌第
81巻(1969年)3号(死後50周年記念号)から
刑法読書会編 佐伯千仞 74

第98号(1972年2月)

〔論説〕

ドイツ国際相続法の改正試案について 木棚照一 4

労働法における「使用者」概念の展開 小室豊允 29

〔資料〕

ヴァッテル『国際法, すなわち諸国民と諸主権者の行動および事
務に適用される自然法の諸原則』(七) ヴァッテル研究会訳
山手治之監修 47

〔判例研究〕

土地収用法133条の訴えの性格 安本典夫 72

第99・100号(1972年3月)

〔論説〕

臨時総統の《讓位》における孫文の立場 池田誠 5

〔総合判例研究〕

権利概念の変遷と行政事件訴訟(四・完) 田村悦一 31

〔紹介〕

フランツ・フォン・リストへの追憶(三) ドイツ全刑法学雑誌第
81巻(1969年)3号(死後50周年記念号)から
刑法読書会編 佐伯千仞 65

〔資料〕

在日朝鮮人国籍問題その後 出入国管理令に関連して 中橋貞造 98

〔判例研究〕

表見支配人による約束手形の振出等 塩田親文 121

第101号(1972年7月)

〔論説〕

現物出資の比較法制度史的考察(一) 志村治美 7

政党地方組織の発展 イギリス議会政治の構造変化(其二) 福井英雄 60

〔判例研究〕

婚姻費用分担債権と債権者取消権の被保全債権 中井美雄 106

第102号(1972年9月)

〔論説〕

フォエルバッハと法定証拠主義の運命(一) 1813年のバイエルン
 刑法法の証拠法を中心として 佐伯千仞 4

準起訴手続の構造 井戸田侃 39

〔研究ノート〕

ニューディール期の政治(一) David Horowitz, ed., "The
 Corporations and the Cold War," New York, 1969, をめぐって 安藤次男 58

〔資料〕

ソ連における母と子の権利の保護(一) 外国法読書会
 天野和夫編 72

第103号(1973年1月)

〔論説〕

フォエルバッハと法定証拠主義の運命(二) 1813年のバイエルン
 刑法法の証拠法を中心として 佐伯千仞 7

ドイツにおける確信犯人の立法史 比嘉康光 47

〔資料〕

ソ連における母と子の権利の保護(二・完) 外国法読書会
 天野和夫編 72

第104号(1973年3月)

〔論説〕

現物出資の比較法制度史的考察(二) 志村治美 7

〔研究ノート〕

株主平等の原則 「商法=企業法」論の検討(一) 斉藤武 35

〔紹介〕

フランツ・フォン・リストへの追憶(四・完) ドイツ全刑法学雑誌第81巻(1969年)3号(死後50周年記念号)から
刑法読書会編 佐伯千仞 48

〔判例研究〕

婚姻届受理時の意識喪失と届出の効力 中川淳 70

建物賃貸借契約解除後の不法占有と民法295条2項の類推適用 荒川重勝 78

第105・106号(1973年3月)

佐伯千仞教授退職記念論文集

〔論説〕

「憲法に適合する解釈」について 大西芳雄 3

確信犯人論史序説 比嘉康光 26

軽微なピラ貼りに関する判例の検討 田中肇 90

捜査手続の違法と公訴提起の効力 井戸田侃 121

情状事実とその証明手続 松岡正章 146

フランス革命初期における刑事裁判の変遷 中村義孝 193

法廷等秩序維持法による制裁手続について 久岡康成 223

損害賠償と抑制的機能 三島宗彦 244

佐伯千仞教授の略歴・業績

第107号(1973年10月)

〔論説〕

現代法と法の解釈 天野和夫 4

〔研究ノート〕

沖縄協定と刑事裁判権 いわゆる教公二法反対闘争事件を中心に 生田 勝 義 16

〔資料〕

国立学校設置法等の一部を改正する法律案及び国立学校設置法の一部を改正する法律案について 天 野 和 夫 41

ポーランドにおける法社会学的調査(一) 外国法読書会 46
天 野 和 夫 編
学位論文審査要旨
法学会記事
学会会議報告

第108・109号(1973年12月)

〔論説〕

損害賠償と抑制的機能(続) 三 島 宗 彦 8

〔資料〕

法学部教学の現状と課題 40
第1部 学生の実態と教学 42
第2部 法学部教育の現状と課題 99
学会会議報告

第110号(1974年1月)

〔論説〕

国際相続法における準拠法選択(一) 木 棚 照 一 7

英国不法行為法における損害賠償の法的理論構成 予見可能性 加 納 裕 久 38
論を中心として

〔資料〕

ジークフリート・ペッツオルト「ドイツ民主共和国における社会主義立法の原理」 渡 辺 久 丸 77

ポーランドの法社会学的調査(二) 外国法読書会 93
研究会記事 天 野 和 夫 編

第 111・112 号 (1974年 3月)

〔論 説〕

第二次国共合作と孫文理論の《復権》 中国共産党における孫文 池 田 誠 13
理論の再評価

〔研究ノート〕

判決効の相対性理論序説(一) ドイツ民事訴訟法理論の歴史的素描 水 谷 暢 72
のうえにたつて

〔紹 介〕

I. M. シンクレア「国家免除に関するヨーロッパ条約」 曾 我 英 雄 113
I. M. Sinclair, The European Convention on State Immunity,
I.C.L.Q., Vol.22, Part 2, pp.254-283.

〔資 料〕

最初の社会主義憲法について 外国法読書会 133
天野和夫編

〔判例研究〕

日光太郎杉事件控訴審判決 田 村 悦 一 156
芝 池 義 一

第 113 号 (1974年 6月)

〔論 説〕

行政の自由とその統制(一) ドイツにおける裁量統制の一考察 田 村 悦 一 6

〔研究ノート〕

判決効の相対性理論序説(二・完) ドイツ民事訴訟法理論の歴史的 水 谷 暢 38
素描のうえにたつて

〔紹 介〕

エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(一) 刑 法 読 書 会 75
井戸田 侃 編

〔資 料〕

フェルフェ「『福祉国家論』批判」 渡 辺 久 丸 99
ポーランドの法社会学的調査(三) 外 国 法 読 書 会 119
天野和夫編

学位論文審査要旨

研究会記事

第114号(1974年12月)

〔論説〕

国民主権の概念	大西芳雄	5
冀南における初期抗日態勢にかんする若干の資料について	池田誠	32
行政の自由とその統制(二) ドイツにおける裁量統制の一考察	田村悦一	78
〔紹介〕		
エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(二)	刑法読書会編 井戸田侃	99
〔資料〕		
フォエルバッハ「バイエルン刑事訴訟法」(一)	中村義孝 久岡康成	120
法学会記事		
研究会記事		

第115号(1975年1月)

〔論説〕

スイス憲法訴訟(Verfassungsbeschwerde)における原告適格 第三者の原告適格を中心にして	小林武	1
国際相続法における準拠法選択(二)	木棚照一	40
〔紹介〕		
ライナー・アールト/ゲルハルト・シュティラー「発展した社会 主義社会における法創造」	渡辺久丸	77
エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(三)	刑法読書会編 井戸田侃	98
〔資料〕		
フォエルバッハ「バイエルン刑事訴訟法」(二)	中村義孝 久岡康成	125
〔判例研究〕		
手形偽造と手形法八条の類推適用	塩田親文	146
研究会記事		
法学会記事		

第116 - 118号 (1975年3月)

大西芳雄教授追悼論文集(一)

〔論 説〕

生存権規定の「自由権的效果」	山下 健 次	1
基本権の第三者効力　西ドイツにおける直接的効力説の検討と デュリッヒ学説に対する批判的検討を中心にして	三 並 敏 克	29
戦後日本の立法過程論をめぐって	渡 辺 久 丸	61
公訴権濫用論に関する若干の問題	井 戸 田 侃	97
不動産の処分禁止仮処分と民法501条1号　最高裁昭和48.10.30判 決を契機にした仮処分登記の実体法的機能の一側面の検討	中 井 美 雄	115
「条件付救済命令」の適否	窪 田 隼 人	138
銀行取引と消費者保護	塩 田 親 文	160
量刑手続とデュープロセス　アメリカ合衆国における判例の展開の 概観から	久 岡 康 成	180

第119・120号 (1975年12月)

大西芳雄教授追悼論文集(二)

〔論 説〕

憲法訴訟における自治体の地位　スイスの制度を素材にして	小 林 武	1
地域住民及び地域団体の法的地位とその保障　判例に対する若干 の疑問	田 村 悦 一	32
戦後生産管理闘争と生産管理論の現代的意義	吉 田 美 喜 夫	58
孫文の革命論における軍閥観　孫文における1919年の意義	池 田 誠	102
アレクシス・ド・トクヴィルの自由論　19世紀政治思想史におけ るその位置づけを中心に	中 谷 猛	139
冷戦と1948年大統領選挙　アメリカ進歩党をめぐって	安 藤 次 男	166
〔追 悼〕		
大西先生を偲ぶ	覚 道 豊 治	193
大西先生を偲ぶ	山 下 健 次	206
大西芳雄先生の追悼に寄せて	北 野 弘 久 小 高 剛	209

故大西芳雄先生年譜・著作目録

第 121 - 124 号 (1976年 2 月)

三島宗彦教授追悼論文集

〔論 説〕

旧利息制限法成立史序説	大河 純 夫	1
製造物責任における損害論(一)	中井 美 雄	71
尊属殺重罰規定と家族法	中川 淳	93
「並行特許」に関する一考察 EC 裁判所の判決を中心に	木 棚 照 一	108
親会社の不当労働行為責任と契約責任	小 室 豊 允	145
犯罪被害者補償制度をめぐる若干の基本問題	井 戸 田 侃	167
私立学校振興助成法の立法過程と問題点	渡 辺 久 丸	197
《工兵》的裁兵と《平民》的裁兵 孫文の護法運動と裁兵問題	池 田 誠	235
フランス第二帝政の統治集団・国事院と知事団体について 集権的独裁制の一側面	中 谷 猛	271
ボーリング場建築確認処分の取消を求める地域住民団体の原告適格	小 林 武	308
有限会社の法実態 京都市を中心として 〔追 悼〕	志 村 治 美	319
現代損害賠償法と人格権	西 原 道 雄	411
三島宗彦先生の思い出	木 棚 照 一	428
三島宗彦君をしのぶ	西 井 龍 生	431
兄弟子三島宗彦の「うちなるもの」	佐 藤 進	434
故三島宗彦教授年譜・著作目録		

第 125・126 号 (1976年 9 月)

〔論 説〕

欧州共同体法の直接的適用性(一)	山 手 治 之	10
イギリスの土地収用における収用命令を争う訴訟 〔紹 介〕	安 本 典 夫	72
E・W・ナサレンコ『社会主義法意識と法創造』	渡 辺 久 丸	105

エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(四)	刑法読書会編	120
〔資料〕		
ドイツ民主共和国科学アカデミー国家と法の理論研究所『マルクス＝レーニン主義国家・法理論』(一)	渡辺久丸訳	141
フォエルバツハ「バイエルン刑事訴訟法」(三・完)	中村義孝 久岡康成	191
学位論文審査要旨		
法学会記事		
研究会記事		

第127号(1976年12月)

〔論説〕		
戦後アメリカの対外政策とヘンリー・A・ウォーレスの外交論	安藤次男	5
欧州共同体法の直接的適用性(三)	山手治之	49
〔判例研究〕		
手形金請求訴訟の提起と原因債権の時効中断	斉藤武	108
〔紹介〕		
イングランド・ウェルズ法律委員会, スコットランド法律委員会 免除条項第二報告書(一)	長尾治助	115
〔資料〕		
ドイツ民主共和国科学アカデミー国家と法の理論研究所『マルクス＝レーニン主義国家・法理論』(二・完)	渡辺久丸訳	149
法学会記事		
研究会記事		

第128号(1977年1月)

〔論説〕		
わが国における不真正不作為犯論について(一)	生田勝義	8
パンジャマン・コンスタンの政治思想 自由論の形成過程を中心 に	中谷猛	43
従属労働論に関する一考察 「従属性」の法的構成問題を検討視角 として	吉田美喜夫	78

〔紹介〕

イングランド・ウェルズ法律委員会，スコットランド法律委員会 長尾治助 130
免除条項第二報告書(二・完)

第129・130号(1977年2月)

〔論説〕

量刑事情の実質的挙証責任について 久岡康成 10

〔研究報告〕

ソ連法学・憲法学の現状 ベ・エヌ・トボルニン 39

〔判例研究〕

地代家賃統制令の適用ある借地と裁判等による地代の確定 中井美雄 58

〔紹介〕

エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(五) 刑法読書会 71
井戸田侃編

〔資料〕

合衆国政府公務員の政治活動に関する報告 第一巻「勧告」 大久保史郎 95

昭和50年度の法学部二部学生の生活・勉学実態 志村治美夫 122

大講義改善の一施策 討論方式併用の経験の報告 田村悦一 147

法学会記事

研究会記事

第131号(1977年7月)

〔論説〕

ヴェーバー主義批判(一) 世良晃志郎氏の「社会科学方法論」の批判的検討 荒川重勝 11

製造物責任における損害論(二) 中井美雄 34

わが国における不真正不作為犯論について(二・完) 生田勝義 50

〔資料〕

社会主義法学の現実的諸課題 社会主義法読書会 87
天野和夫監修

〔判例研究〕

公正証書遺言の要件 中川淳 109

法学会記事

研究会記事

第 132 号 (1977年12月)

〔論 説〕

農村革命期における労農紅軍の建設 中国共産党の軍事方針の展開を中心として 池 田 誠 1

ケルゼン「純粋法学」における「存在」と「当為」について 兼 子 義 人 81

〔研究報告〕

現代ポーランドで検討されている法的諸問題 R. ビエジャネク 124
松本祥志 訳

〔研究ノート〕

貸金業者ローンと消費者保護 長 尾 治 助 147

武力干渉をめぐる国際法理論の再検討 一九世紀から二〇世紀初頭にかけて 松 本 祥 志 164

〔紹 介〕

Richard J. Walton, "Henry Wallace, Harry Truman and the Cold War" 安 藤 次 男 186

大学における単位の認定, 専攻科終了の認定の争いと司法審査 田 村 悦 一 200
上 杉 信 敬

法学会記事

研究会記事

第 133 - 136 号 (1978年 2 月)

末川先生追悼論文集

I 民事法

採用に際する思想差別をめぐる法律問題 浅 井 清 信 1

独禁法改正の批判 手続的側面を中心として 吉 川 大 二 郎 22

地代家賃統制令と適正賃料 中 井 美 雄 52

法定契約条件の拡大傾向 イギリスにおける動産供給契約を中心として 長 尾 治 助 73

EC 独禁法違反行為に対する過料の併科 斉 藤 武 89

「第三者制限連合部判決」における「正当ノ利益」概念について 大 河 純 夫 118

「第三者制限連合部判決」研究ノート(一)

II 法学一般・公法・刑事法

法規範の存在的性格と当為的性格	天 野 和 夫	137
行政過程における住民参加	田 村 悦 一	153
沖縄位置境界明確化法の問題点 「成立」にもかかわって	いわゆる新・沖縄土地強奪法の 渡 辺 久 丸	176
アメリカ合衆国における連邦人身保護令状制度の展開 違法な 量刑に基づく刑の執行からの直接的救済の問題から出発して	久 岡 康 成	228
「幕藩制国家」と「土地所有」についての覚書 修, 安良城盛昭氏の見解をめぐって	石井紫郎, 脇田 大 平 祐 一	259

III 政治学・他

孫文における反帝国主義路線の確立 展開	孫文の民族主義論の 池 田 誠	281
トクヴィルの政治思想 人間の自由と連帯感を求めて	中 谷 猛	306
民衆意識と健康観 貝原益軒と安藤昌益	三 浦 正 行	349
未川博先生追悼講演		
未川博先生と立命館学園	西 村 信 雄	379
未川博先生の民法学	甲 斐 道 太 郎	388
未川博先生年譜・著作目録		

第137号(1978年5月)

〔論 説〕

イギリスの土地収用における損失補償理論の展開	安 本 典 夫	1
外国離婚判決の承認に関する一考察 承認規則と抵触規則の関係 について	木 棚 照 一	31

〔紹 介〕

パウロ・シュボルケン「生死の援助という枠内におけるオイタナ ジー」	生 田 勝 義	66
研究会記事		

第138号(1978年10月)

〔論説〕

- 「ソビエト犯罪学」前史 国立犯罪学研究所の解体をめぐって 上田 寛 1
 民衆意識の高揚にみる近代的健康観の萌芽 民衆意識と健康観 三浦 正行 29

(二)

〔研究報告〕

- 「権利の章典」(Bill of Rights)について デニス・ロイド卿 59
 松本 祥志 訳

〔紹介〕

- エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(六) 刑法読書会 71
 井戸田 侃 編
 法律委員会ワーキング・ペーパー「無能力本人と委任状の関係に
 ついて」 横田 貴一 87
 研究会記事

第139号(1978年12月)

〔論説〕

- 立法過程への国民参加 請願権による場合を中心として 渡辺 久丸 1

〔資料〕

- 宝暦十年代替り御料巡見使任務心得書 大平 祐一 114

〔紹介〕

- 代理商に関する EC 指令案とイギリス法律委員会報告書について 西尾 幸夫 132

第140号(1979年1月)

〔論説〕

- E・カベと平等的共同社会論 1830~40年代の空想的 Kommunismus 中谷 猛 1
 の特徴について

- 冷戦と政党政治 1952年アメリカ大統領選挙をめぐって 安藤 次男 52

〔資料〕

- ヴァルター・オッツ『法実証主義』(一) 法学的プラグマティズム 兼子義人(訳) 93
 中井勝巳

ムにもとづく批判的評価
研究会記事

第141・142号(1979年3月)

吉川大二郎先生追悼論集

〔論説〕

(遺稿)独占禁止法違反と損害賠償請求 京高裁判決を中心として	松下電器事件に関する東	吉川大二郎	3
戦後日本親子法の改革について		西村信雄	23
経営権という法概念について	業務命令権・施設管理権	浅井清信	40
小口金融業法案と民事制裁規定 を意図して	民事制裁規定の消費者法への導入	長尾治助	68
ネズミ講訴訟の諸問題(一)		荒川重勝	103
戦後貸金業法制の成立とその動揺(一)		大河純夫	191
戦後日本における安保・軍事法の歩み 題を中心にして	いわゆる「有事立法」問	渡辺久丸	226
故吉川大二郎名誉教授略歴・著作目録			

第143号(1979年7月)

〔論説〕

広告媒体業者の民事責任(一)	新聞社の場合	長尾治助	1
生産物責任における説明義務(一)		横田貫一	18
〔資料〕			
ソ連における「勤労集団法」の立案をめぐって		社会主義法読書会 畑中和夫編	77
ヴァルター・オッツ『法実証主義』(二)		兼子義人(訳) 中井勝巳	94
法学会記事			
研究会記事			

第144号(1979年9月)

〔論説〕

トクヴィルにおける政治と宗教の問題 デモクラシー(平等)社会 中谷 猛 1
とキリスト教との関連を中心に

医療過誤訴訟における契約責任構造と帰責要件(一) 不完全履 山本隆司 35
行・積極的債権侵害についての一考察

〔紹介〕

ヴェ・エム・サヴィツキー『刑事裁判手続における検事監督の理 上田 寛 84
論・概説』

〔資料〕

ヴァルター・オッツ『法実証主義』(三・完) 法学的プラグマ 兼子義人共訳 93
ティズムにもとづく批判的評価
中井勝巳

ビーレフェルト大学法学部の教育システム 佐藤延子 128

第145号(1979年11月)

〔論説〕

広告媒体業者の民事責任(二) 新聞社の場合 長尾治助 1

医療過誤訴訟における契約責任構造と帰責要件(二・完) 不完 山本隆司 15
全履行・積極的債権侵害についての一考察

〔研究ノート〕

ニューディール期の政治(二) メアリー・S・マコーリフの 安藤次男 96
ニュー・リベラリズム規定をめぐって

〔紹介〕

エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(七) 刑法読書会編 112
井戸田侃

第146号(1980年1月)

〔論説〕

犯罪学の課題と方法 ソビエト犯罪学の動向 上田 寛 1

生産物責任における説明義務(二) 横田 貫一 23

〔資料〕

社会主義的比較法と法の継承性

社会主義法読書会
畑中和夫編 99

〔判例研究〕

外国為替判例研究(一)

立命館大学商法懇談会
塩田親文監修 128

研究会記事

第147号(1980年3月)

〔論説〕

参加利益の法的保障 住民参加の法的保障(二)

田村悦一 1

生産物責任における説明義務(三)

横田貫一 20

医学の革新運動とその啓蒙性 民衆意識と健康観(三)

三浦正行 74

〔特別寄稿〕

「経済的・社会的発展の要因としての行政」

ヤヌス・レントフスキー
鳥居喜代和・中井勝巳共訳 96

〔紹介〕

エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(八)

刑法読書会
井戸田侃監修 107

〔判例研究〕

外国為替判例研究(二)

立命館大学商法懇談会
塩田親文監修 115

第148号(1980年3月)

〔論説〕

無体財産権に関する国際私法上の諸問題 いわゆるウルマー草案
を中心に

木棚照一 1

西ドイツにおける国家計画の議会統制 B. Dobiey の論述を手が
かりにして

中井勝巳 67

〔判例研究〕

外国為替判例研究(三)

立命館大学商法懇談会
塩田親文監修 103

法学会記事

研究会記事

第 149 号 (1980年 9 月)

〔論 説〕

レーニンにおけるアジア民主主義革命論 レーニンの孫文論を中 池 田 誠 1
心として

内戦干渉規範の実践可能性(一) 「戦術的支援禁止規範」への“退 松 本 祥 志 24
却”

フーゴ・プロイスの憲法構想 ワイマール憲法制定期における法 鳥 居 喜 代 和 84
思想の一側面

生産物責任における説明義務(四・完) 横 田 貴 一 142

〔研究ノート〕

ニューディール期の政治(三) ヘンリー・A・ウォーレスの 安 藤 次 男 213
ニュー・フロンティア論

〔特別寄稿〕

「フンボルト大学 その今日と未来」 ヘルムート・クライン 227
辻 善 夫 訳

〔紹 介〕

ポーランドの人権論(一) 社会主義法読書会 234
畑 中 和 夫 編

エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介(九) 刑法読書会 266
井 戸 田 侃 監 修

〔判例研究〕

外国為替判例研究(四) 立命館大学商法懇談会 275
塩 田 親 文 監 修

法学会記事

研究会記事

第 150 - 154 号 (1981年 2 月)

立命館大学, 立命館大学法学部 創立八十周年記念論文集

〔論 説〕

増改築許可非訟事件手続における正当な当事者 その若干の 荒 川 重 勝 1
考察

ニューディール連合の危機 トルーマンとウォーレス 安 藤 次 男 34

孫文の「以党治国」論について 「権」と「能」の均衡による「全 池 田 誠 62
民政治」への期待

公訴権濫用論雑感 若干の批判に答えて	井戸田 侃	86
ソビエト刑法における墮胎罪について	上田 寛	102
利息制限法の性格・機能について	大河 純夫	125
幕末における旗本領主権 財政問題を手がかりにして	大平 祐一	141
純粹法学とマルクス主義法理論 シンポジウム「純粹法学とマルクス主義法理論」(ハンス・ケルゼン研究所主催)の紹介を中心に	兼子 義人	179
EC 独禁法上の届出の効力	斉藤 武	204
当事者確定理論再編の試み 紛争主体特定責任に関連して	佐上 善和	231
欧州共同体と西ドイツ行政裁判所 西ドイツ行政判例の動向から	田村 悦一	254
経済法と行政法	丹宗 昭信	275
環境保護訴訟の動向 民事差止請求訴訟における権利論を中心に	中井 美雄	308
虚偽広告の掲載と損害との事実的因果関係	長尾 治助	326
トクヴィルとフランス・ナショナリズム 奴隷制・植民地問題を中心に	中谷 猛	347
フランス革命期の憲法における人権保障	中村 義孝	371
命令的委任について	畑中 和夫	406
後藤新平小論 名古屋医官時代から衛生局長までの若干の検討	三浦 正行	423
公共組合の国家に対する地位について 土地区画整理組合および土地改良区の例に即して	安本 典夫	458
制度的保障論覚書 政教分離, 大学の自治原則への適用とその問題点	山下 健次	479
ドイツ法における財産的損害概念	吉村 良一	494
アメリカ公務員制度改革小論	大久保 史郎	533
学位論文審査要旨		
法学会記事		
研究会記事		

第155号(1981年5月)

〔論説〕

人身損害をめぐる理論状況と課題	吉村 良一	1
-----------------	-------	---

内戦干渉規範の実践可能性(二) 「戦術的支援禁止規範」への“退却”	松本祥志	34
〔紹介〕		
ポーランドの人権論(二)	社会主義法読書会 畑中和夫編	94
〔判例研究〕		
外国為替判例研究(五)	立命館大学商法懇談会 塩田親文監修	127

第156号(1981年7月)

〔論説〕		
「社会主義共同体」の概念をめぐって ソ連における理論状況と問題点	菊井禮次	1
内戦干渉規範の実践可能性(三) 「戦術的支援禁止規範」への“退却”	松本祥志	32
〔資料〕		
ウクライナ共和国における犯罪学研究の成立	上田寛	83
座談会「金融110番」について	立命館大学金融法研究会 (代表塩田親文)	93
〔判例研究〕		
外国為替判例研究(六)	立命館大学商法懇談会 塩田親文監修	136
法学会記事		
研究会記事		

第157号(1982年1月)

〔論説〕		
組合間の昇給・昇格差別と不当労働行為	窪田隼人	1
内戦干渉規範の実践可能性(四・完) 「戦術的支援禁止規範」への“退却”	松本祥志	30
〔資料〕		
ドイツ「責任法総論」(一)	損害賠償法読書会 乾昭三監修	81
〔紹介〕		
P.レーマー「法の強制的性格」 シンポジウム『純粋法学とマルクス主義法理論』(H.ケルゼン研究所主催Ⅹ一)	兼子義人	111

〔書評〕

- 自由民主主義のジレンマ 中谷猛『フランス市民社会の政治思想
アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想を中心に』(1981年4
月刊・法律文化社) 小野紀明 119

〔判例研究〕

- 電話番号簿掲載広告料債権の消滅時効期間 長尾治助 129
外国為替判例研究(七) 立命館大学商法懇談会 140
法学会記事 塩田親文監修
研究会記事

第158号(1982年2月)

〔論説〕

- イギリス1980年会社法における資本充実をめぐる 志村治美 1
近世における債権の訴訟法上の保護について(一) 学説整理を中 大平祐一 20
心にして

〔資料〕

- 胡福明「わが国の社会主義発展の特徴について」(上海社会科学院
編『社会科学』1980年第2・3期所収) 中国現代史研究会 45
池田誠監訳

〔紹介〕

- Ch. ミュラー「国家論について」 シンポジウム『純粹法学とマル 兼子義人 98
クス主義法理論』(H.ケルゼン研究所主催Ⅱ)

〔判例研究〕

- 外国為替判例研究(八) 立命館大学商法懇談会 111
塩田親文監修

第159・160号(1982年3月)

〔論説〕

- ドイツ法における人身損害の賠償 吉村良一 1
後藤新平小論(二) 公衆衛生論の展開 三浦正行 39
年金訴訟における憲法25条論の動向 憲法25条1項2項峻別論の形 鳥居喜代和 100
成と展開

〔資料〕

ドイツ「責任法総論」(二)
研究会記事

損害賠償法読書会
乾 昭三 監修 149

第161号(1982年6月)

〔論説〕

消費者信用における与信業者の義務 長尾治助 1
名誉革命体制期における「出版の自由」の歴史的構造(一) 藤田達朗 20
イギリスにおける近代的「出版の自由」の史的展開

〔紹介〕

J. J. ハーゲン「オーストリア史における純粋法学」 シンポジウム 兼子義人 79
『純粋法学とマルクス主義法理論』(H. ケルゼン研究所主催Ⅲ)

第162号(1982年6月)

〔論説〕

後藤新平小論(二) 公衆衛生論の展開(その2) 三浦正行 1
名誉革命体制期における「出版の自由」の歴史的構造(二・完) 藤田達朗 33
イギリスにおける近代的「出版の自由」の史的展開
西ドイツ国土計画法と地方自治体の計画参加手続条項 中井勝巳 83

〔資料〕

ドイツ「責任法総論」(三)

損害賠償法読書会
乾 昭三 監修 112

〔紹介〕

O. K. フレヒトハイム「法の人道主義化 マルクス, ケルゼン, フロイト」 シンポジウム『純粋法学とマルクス主義法理論』(H. ケルゼン研究所主催Ⅳ) 兼子義人 133

学位論文審査要旨

第163号(1983年1月)

〔論説〕

後藤新平小論(二) 公衆衛生論の展開(その3) 三浦正行 1

〔研究ノート〕

- 損害論の動向 最近の判決を素材として 吉村良一 42
- 〔資料〕
- 呉大英・劉瀚「人民民主主義独裁の理論と実践」(『法学研究』一九八一年第五期 1981年10月 所収) 中国現代史研究会 池田誠 監訳 86
- 呉承明「中国における資本主義発展略述」(『中華學術論文集』(中華書局1981年11月 所収)) 中国現代史研究会 池田誠 監訳 101
- 〔紹介〕
- N. ライヒ「H. ケルゼンと E. パシュカーニス」 シンポジウム 兼子義人 143
『純粋法学とマルクス主義法理論』(H. ケルゼン研究所主催Ⅴ)
- 〔判例研究〕
- 外国為替判例研究(九) 立命館大学商法懇談会 塩田親文 監修 155

第164号(1983年2月)

〔論説〕

- サン・シモン派の平和主義 その思想的特徴と問題 中谷猛 1
- M. デュヴェルジェの「代表民主制」と「直接民主制」について 清田雄治 43
その「首長直接選挙制」論を中心に

〔資料〕

- ソ連邦における市民の諸権利の保護にむけられた刑法改正の諸提案 上田寛 97

〔紹介〕

- N. レーザー「H. ケルゼンと K. レンナー」 シンポジウム『純粋法学とマルクス主義法理論』(H. ケルゼン研究所主催Ⅵ) 兼子義人 108

第165・166号(1983年3月)

〔論説〕

- ニューディール改革路線の転換と対外政策 1944年大統領選挙をめぐって 安藤次男 1
- 立証責任論における行為責任の台頭と客観的立証責任概念の意義 佐藤彰一 36
再構成のための序説

〔研究報告〕

ドイツ民主共和国の農業における協同組合民主主義	ギンター・ローデ 荒川重勝訳	87
〔資料〕		
李良志「抗日民族統一戦線の形成とその特徴」(中国人民大学編『教学与研究』一九八一年第一・二期所収)	中国現代史研究会 池田誠監訳	99
社会主義と人民主権	社会主義法読書会 畑中和夫編	131
法学会記事		
研究会記事		

第167号(1983年7月)

〔論説〕

消費者信用のメカニズムと規制法の性格	消費者保護との関連に おいて	長尾治助	1
幕末の「御手伝」・「上納金」		大平祐一	18
〔特別寄稿〕			
ソビエト法史の一断面		W.E. バトラー	67
〔資料〕			
ドイツ「責任法総論」(四)	損害賠償法読書会 乾昭三監修		72
社会主義国における法の継承について	社会主義法読書会 畑中和夫監修		113
姜鏞(蒋立) 長春洋務運動学術討論会にかんする個人的見解『吉林大学社会科学学報』(1981年第3期1981年6月)所収	中国現代史研究会 池田誠監訳		130
学位論文審査要旨			

第168号(1983年11月)

〔論説〕

欧州共同体と基本権保護の展開	共同裁判所の動向から	田村悦一	1
西ドイツにおける障害者雇用の法理		木下秀雄	34
〔資料〕			
パウムゲルテル＝ヴァーレンドルフ「証明責任と信義則」		吉野正三郎	67
〔紹介〕			
ソ連における「政治学」の形成と「政治改革」の関連について		菊井禮次	83

Ronald J. Hill : Soviet Politics, Political Science and Reform

(Oxford / New York, 1980) 221pp.

- A. ブファビガン「H. ケルゼンと M. アードラー」 シンポジウム『純粋法学とマルクス主義法理論』(H. ケルゼン研究所主催Ⅻ・完)
 法学会記事
 研究会記事
- 兼子義人 98

第169号(1983年12月)

〔論説〕

- ソ連邦における犯罪学の再生(1954-1963) 上田 寛 1
 ボン基本法における基本権保障の構造 中島 茂樹 45
 〔判例研究〕
 あて所を誤って記載し郵送した審判請求書と特許法19条による書類提出の効力 木棚 照一 73

〔資料〕

- 大規模有限会社の法的実態 志村 治美 83
 竹 濱 修
 ユ・バトゥリン、ヴェ・エンティン「社会主義国の政治システムにおける意思決定過程」(ソヴェト=ユーゴスラヴィア・シンポジウム, モスクワ, 1980年10月) 菊井 禮次 111
 肖一平・郭徳宏「抗日戦争期の減租減息」(『近代史研究』1981年第4期(1981年11月)所収) 中国現代史研究会 池田 誠 監訳 133

第170号(1984年1月)

〔論説〕

- 日本における犯罪学研究 クズネツォーヴァ教授への補足説明 上田 寛 1
 保険事故招致免責規定の法的性質と第三者の保険事故招致(一) 竹 濱 修 43
 〔資料〕
 西ドイツ弁護士制度の問題点 吉野 正三郎 89
 呂偉俊・李運武「新民主主義革命の時期の中国民主同盟」『青魯学刊』1981年第3期所収 中国現代史研究会 池田 誠 監訳 109

第171号(1984年2月)

〔論説〕

- 不作為による作為犯についての一考察(一) 生田勝義 1
- 安全配慮義務論序説 不完全履行・積極的債権侵害に関する
一考察 山本隆司 16
- 保険事故招致免責規定の法的性質と第三者の保険事故招致(二・
完) 竹瀆修 49

〔特別寄稿〕

- 司法審査とアメリカ憲法 ロバート・J・グレノン 108
大久保史郎・藤田達朗訳

〔研究ノート〕

- 「現代日本の政治的危機」概念をめぐる若干の問題 菊井禮次 122

第172号(1984年3月)

〔論説〕

- 売主信用法の成立過程 割賦販売法の制定と昭和四七年の改正を中
心として 長尾治助 1
- 現代フランスにおける議会復権論(一) P.ピルンボウムらの制
度改革論を中心に 清田雄治 48
- 「議会報道の自由」の形成過程(一) イギリスにおける近代的
「出版の自由」の史的展開 藤田達朗 73

〔研究ノート〕

- ニューディール改革と共和党革新派 ロナルド・L・ファインマ
ン著『革新主義の黄昏』をめぐって 安藤次男 106
- 法学会記事
- 研究会記事

第173号(1984年6月)

〔論説〕

- 中国近現代史における断代と分期問題再論 池田誠 1

アメリカ合衆国における生存権の権利の生成と構造(上)	大久保史郎	39
公法上の団体訴訟 西ドイツにおける団体訴訟の展開	木藤伸一郎	66
現代フランスにおける議会の復権論(二・完) P.ビルンボウムら の制度改革論を中心に	清田雄治	108
「議会報道の自由」の形成過程(二) イギリスにおける近代的 「出版の自由」の史的展開	藤田達朗	127

第174号(1984年11月)

〔論説〕

建物区分所有法の改正と建替え制度	荒川重勝	1
サン・シモン派の政治観 政治と宗教との関連性を中心にして	中谷猛	41

〔資料〕

J. クリンカート=E. オェール=G. ローデ「所有権および土地・ 建物の利用(民法概説第二冊)」(一)	荒川重勝訳	82
ゲ・ハ・シャフナザロフ, エフ・エム・ブルラツキー「マルク ス・レーニン主義政治学の発展について」	菊井禮次訳	99
丁日初・杜尚誠「一九世紀中国・日本における資本主義的近代化 の成否の原因に関する初歩的分析」『歴史研究』1983年第1期(総第 161期1983年2月)所収	中国現代史研究会 池田誠監訳	120

第175号(1984年12月)

〔論説〕

最近のソビエト刑事立法の動向をめぐって	上田寛	1
社会主義世界体制の内部矛盾をめぐる若干の問題 ソ連における 理論展開の検討を通じて	菊井禮次	34
西ドイツにおける地方自治体の計画参加権の裁判的保障 連邦 行政裁判所の判例から	中井勝巳	71

〔紹介〕

ハッセマー, リューダーセン, ナウケ『社会科学による刑法の進 歩?』(一)	刑法読書会 生田勝義監修	104
---	-----------------	-----

第176号(1985年2月)

〔論説〕

- 欧州共同体と適正手続保障(一) 欧州行政法研究・覚え書き 田村悦一 1
 「議会報道の自由」の形成過程(三) イギリスにおける近代的 藤田達朗 21
 「出版の自由」の史的展開

〔資料〕

- J. クリンカート=E. オェール=G. ローデ「所有権および土地・ 荒川重勝訳 73
 建物の利用(民法概説第二冊)」(二)

〔紹介〕

- ハッセマー, リューダーセン, ナウケ『社会科学による刑法の進 刑法読書会
 歩?』(二) 生田勝義監修 89

第177・178号(1985年3月)

〔論説〕

- 一九世紀ドイツ憲法理論における法律と基本権(一) 中島茂樹 1
 欧州共同体と適正手続保障(二) 欧州行政法研究・覚え書き 田村悦一 47
 「議会報道の自由」の形成過程(四・完) イギリスにおける近代 藤田達朗 68
 的「出版の自由」の史的展開

〔研究ノート〕

- フランス第二帝政におけるデモクラシーの問題 ボナパルト的デ 中谷 猛 112
 モクラシーの理念と現実

〔資料〕

- J. クリンカート=E. オェール=G. ローデ「所有権および土地・ 荒川重勝訳 155
 建物の利用(民法概説第二冊)」(三)

- 呉承明「近代中国における半植民地・半封建的国内市場」(「我国 中国現代史研究会
 半植民地半封建的国内市場」)『歴史研究』1984年第2期(総第168期 池田誠監訳 173
 1984年4月)所収

〔判例研究〕

- リースの物件供給者が負担する瑕疵による損害賠償額と滅失によ 長尾治助 193
 る損失負担

外国為替判例研究(十)

法学会記事

研究会記事

立命館大学商法懇談会 205
塩田親文監修

第179号(1985年9月)

〔論説〕

手続保障における裁判官の役割

吉野正三郎 1

〔資料〕

J. クリンカート=E. オェール=G. ローデ「所有権および土地・
建物の利用(民法概説第二冊)」(四)

荒川重勝訳 53

R. ライナー=ミュラー「中国に於けるプロレタリア世界観と
国民革命」

中国現代史研究会
池田誠監訳 70

〔判例研究〕

外国為替判例研究(十一)

立命館大学商法懇談会 81
塩田親文監修

法学会記事

研究会記事

第180号(1986年1月)

〔論説〕

我国における人身損害賠償論の史的展開(一)

吉村良一 1

〔資料〕

ベトナム社会主義共和国刑法典(一)

比較刑法研究会
上田寛監修 77

J. クリンカート=E. オェール=G. ローデ「所有権および土地・
建物の利用(民法概説第二冊)」(五)

荒川重勝訳 96

李良志「抗日戦争勝利の偉大な意義」

中国現代史研究会
池田誠監訳 114

〔判例研究〕

外国為替判例研究(一二)

立命館大学商法懇談会 133
塩田親文監修

第 181 号 (1986年 2 月)

〔論 説〕

瀬戸内海における自然景観及び自然海浜の保全 法制度と施策の 二 宮 周 平 1
検討

〔資 料〕

郭大鈞 「九・一八」から「八・一三」に至る国民党政府の対日 中国現代史研究会 56
政策の変遷 池田 誠 監訳

〔判例研究〕

外国為替判例研究(一三) 立命館大学商法懇談会 93
学位論文審査要旨 塩田 親文 監修

第 182 号 (1986年 2 月)

〔論 説〕

営利広告の法規制と広告事業者責任(一) その比較法的考察 長 尾 治 助 1

反トラスト法におけるジョイント・ベンチャー規制(一) 違法 瀬 領 真 悟 19
判断基準の検討を中心にして

環境行政訴訟における団体の原告適格論 西ドイツにおける展開 木 藤 伸 一 朗 86
の一考察

〔研究ノート〕

近年におけるトクヴィル研究の動向 中 谷 猛 109

〔資 料〕

ベトナム社会主義共和国刑法典(二) 比較刑法研究会 126
上田 寛 監修

J. クリムカート=E. オェール=G. ローデ「所有権および土地・ 荒川 重 勝 訳 150
建物の利用(民法概説第二冊)」(六)

魏宏運「華北抗日根拠地における経済繁栄への道」(論華北抗日 中国現代史研究会 168
根拠地繁栄経済的道路) 池田 誠 監訳

〔紹 介〕

リベラリズムとその挑戦者 F・Dルーズヴェルトからレーガンま 安 藤 次 男 183
で

法学会記事

研究会記事

第183・184号(1986年3月)

岡崎長一郎・清水慶三教授退職記念論文集

〔論説〕

「国民的統合」と「民族的統合」 抗日戦争における中国ナショナリズム試論	池田 誠	3
孫中山・親日派軍閥関係の検討	婁 向 哲	24
国家の類型と国家形態 天皇制国家論争によせて	福井 英雄	32
自由主義的反帝政派の体制批判と政体構想 トクヴィルを手掛りにして	ギゾ, ティエール, 中谷 猛	55
アメリカ・リベラル派の一断面 ADAの創設にかかわって	安藤 次 男	102
モンタニャール独裁と刑事裁判	中村 義 孝	125
近世の非合法的「訴訟」(一) 駕籠訴・駈込訴を素材として	大平 祐 一	158
京都市古都保存協力税条例の違憲性	山下 潔	175
欧州行政法の生成について 欧州行政法研究・覚え書き	田村 悦 一	206
フランスにおける分権化	パトリス・ジェラルド 亘理 格 詠	226
フランスにおける法規命令の通達法理の形成	亘理 格	242
イギリスのインナーシティ政策と土地収用 土地収用の要件を中 心に	安本 典 夫	286
中華人民共和国の刑事裁判制度	井戸田 侃 何 恩 涛	307
現行刑事訴訟法の性格論 制定施行時の論議の再検討から	久岡 康 成	352
クーリング・オフ権の法理	長尾 治 助	382
裁判の正当性についての一試論 ルーマンの『手続による正当性』 をめぐって	佐上 善 和	405
新しいオランダ国籍法について	ジェラルド・デ・フロート 木 棚 照 一 詠	431
アメリカの国際理論研究にかんする一考察 最近の「モーゲン ソー批判」	大 畠 英 樹	476
岡崎長一郎教授略歴・業績		
清水慶三教授略歴・業績		

第185号(1986年9月)

〔論説〕

我国における人身損害賠償論の史的展開(二)	吉村良一	1
ドイツ土地債務の担保的機能(一) 抵当権の流通性に関連して 〔研究ノート〕	中山知己	40
中国における北洋軍閥研究の動向と今後の課題 〔紹介〕	妻向哲	57
ハンス・ハインリッヒ・イエシェック記念論文集の紹介(一) 〔資料〕	刑法読書会 井戸田侃編	70
ベトナム社会主義共和国刑法典(三)	比較刑法研究会 上田寛監修	89
李良志「第二次国共合作の形成・分裂およびその歴史的経験について 併せて『中国のなかのソ連』を評す」	中国現代史研究会 池田誠監訳	110
ウルフ・ベルニツ＝ジョン・ドラパー「スウェーデンにおける広告規制と消費者保護」	中田邦博訳	139

第186号(1986年12月)

〔論説〕

今治織田が浜埋立て差止め訴訟と自然海浜の保全(一)	二宮周平	1
ドイツ土地債務の担保的機能(二) 抵当権の流通性に関連して 〔紹介〕	中山知己	52
ハンス・ハインリッヒ・イエシェック記念論文集の紹介(二) 〔資料〕	刑法読書会 井戸田侃編	83
J. クリンカート＝E. オェール＝G. ローデ「所有権および土地・建物の利用(民法概説第二冊)」(七・完)	荒川重勝訳	101
ヨーロッパ共同体の誤認惹起広告に関するディレクティブ(一九八四年)	藤田達朗訳	128
フランスにおける広告規制と消費者保護	中山知己訳	140

第187号(1986年12月)

〔論説〕

我国における人身損害賠償論の史的展開(三・完)	吉村良一	1
反トラスト法におけるジョイント・ベンチャー規制(二・完)	瀬領真悟	47
違法判断基準の検討を中心にして		
〔紹介〕		
ハンス・ハインリッヒ・イエシェック記念論文集の紹介(三)	刑法読書会 井戸田侃編	93
〔資料〕		
ベトナム社会主義共和国刑法典(四・完)	比較刑法研究会 上田寛監修	106
学位論文審査要旨		

第188-190号(1987年3月)

池田誠教授退職記念論文集

〔論説〕

「新冷戦」現象の要因と性格規定	F・ハリディの「第二次冷戦」	菊井禮次	1
論をめぐって			
「ブルジョワ社会の総括」と国家の機能		福井英雄	43
アレクシス・ド・トクヴィルの『貧窮についての覚え書』について		中谷猛	66
アメリカ進歩党と朝鮮戦争	ヘンリー・A・ウォーレスの	安藤次男	80
「転換」			
西ドイツの都市計画と政治行政構造	伝統と近年の発展	村上弘	115
福沢における相対主義・道徳・宗教		渡辺一	144
冀魯豫辺区抗日根拠地の創出		郭傅璽	171
日本と直隸派軍閥集団		婁向哲	185
世紀末から大戦へ	マックス・アドラー小伝(一)	兼子義人	192
欧州共同体と法治行政の原理	共同体における法治国思想の展開	田村悦一	223
公判手続の法的性格		井戸田侃	247
具体的指定書持参要求方式と接見交通権		久岡康成	258
「犯罪者人格」の研究をめぐって		上田寛	282

広告規制の比較法的考察 規制対象と方法を中心に	長尾治助	312
重婚の内縁に関する判例法理の展開	二宮周平	341
最近の「ナショナル・インタレスト論争」について この概念	大畠英樹	392
の「精査化」を求めて		
池田誠教授略歴・業績		

第191号(1987年7月)

〔論説〕

「唯一の証拠」理論の形成過程	佐上善和	1
我が国の行政訴訟における団体の原告適格論 判例を手がかりと	木藤伸一朗	27
して		

〔紹介〕

ハンス・ハインリッヒ・イエシェック記念論文集の紹介(四)	刑法読書会 井戸田侃編	77
------------------------------	----------------	----

〔資料〕

ドイツ「責任法総論」(五)	損害賠償法読書会 乾昭三監修	101
ノルベルト・ライヒ＝ハンス・W・ミクリッツ「ドイツ連邦共和	中田邦博訳	110
国における広告規制と消費者保護」		
中国企業破産法, 中国外資企業法	上羽光男 宇野木洋共訳	144

第192号(1987年9月)

〔論説〕

西ドイツ簡素化法における失権制度の構造と問題点	吉野正三郎	1
ドイツ土地債務の担保的機能(三・完) 抵当権の流通性に関連し	中山知己	32
て		

〔紹介〕

ハンス・ハインリッヒ・イエシェック記念論文集の紹介(五)	刑法読書会 井戸田侃編	71
------------------------------	----------------	----

〔資料〕

ア・ペ・ブーテンコ「ブルジョア宣伝の『イデオロギー戦争』と	菊井禮次訳	91
社会主義世界の否定的現象」		
イヴ・メニイ著『フランスの政治的論議における集権化と分権化	中谷猛・巨理格 岡村茂訳	122
1945～1969』(抄訳・上)		

ドイッチュ「責任法総論」(六)

法学会記事

研究会記事

損害賠償法読書会 152
乾 昭三 監修

第193号(1987年11月)

〔論説〕

刑法230条ノ2 試論

井戸田 侃 1

イギリスの都市農村計画法の動向と二つの改革案

安本 典夫 12

西ドイツにおける裁判官の法形成の訴訟的局面

ハンス・ブリュッティング
佐上 善和 訳 38

〔資料〕

フレッド・ハリディ著『第二次冷戦の形成』第二版(1986年)の第
9章「1980年代の『大競争』 1985年までの第二次冷戦」

菊井 禮次 訳 62

クレシミール・サイコ「国際実施許諾契約についての国際私法上
の諸問題 ユーゴスラビアの視点からの考察」

木棚 照一 監訳 100

クリストフ・ミュラー著「ヘルマン・ヘラーとハンス・ケルゼン
の間の論争についての批判的注解」

兼子 義人 訳 114

ベエルゲ・ダール「デンマークにおける広告規制と消費者保護」

中田 邦博 訳 152

〔事例研究〕

二人妻の争い(社会保険審査会昭和61年7月31日裁決)

二宮 周平 159

第194号(1987年12月)

〔論説〕

近世の非合法的「訴訟」(二) 駕籠訴・駈込訴を素材として

大平 祐一 1

ラムネと自由主義的カトリシズム 『未来』新聞を手掛りにして

中谷 猛 25

ドイツ民法典における意思表示法の形成過程(一) 第一草案に対
する諸批判を中心に

中田 邦博 51

〔紹介〕

ハンス・ハインリッヒ・イエシェック記念論文集の紹介(六)

刑法読書会
井戸田 侃 編 103

〔資料〕

ヨーロッパにおける広告規制立法試訳(一)

藤田 達朗 訳 119

第195号(1988年1月)

〔論説〕

刑法におけるペレストロイカ ソ連邦における刑法改正問題の 上 田 寛 1
始動

ドイツ民法典における意思表示法の形成過程(二) 第一草案に対 中 田 邦 博 26
する諸批判を中心に

〔特別寄稿〕

モンテスキューの拒絶? 『憲法的正義』の拡大と正当性 マウロ・カベレッティ 73
藤田達朗 訳

〔判例研究〕

未登記代表取締役により振出された約束手形に対する責任 塩 田 親 文 119
商業登記判例総合研究(一)

第196号(1988年3月)

故木村慎哉教授追悼号

〔論説〕

対外的危機と国内改革 1940年大統領選挙をめぐって 安 藤 次 男 1

ドイツ民法典における意思表示法の形成過程(三・完) 第一草 中 田 邦 博 40
案に対する諸批判を中心に

〔紹介〕

ヴォルフガング・ナウケ『刑罰目標と犯罪概念との相互作用』 生 田 勝 義 100

〔資料〕

ドイッチュ「責任法総論」(七) 損害賠償法読書会 111
乾 昭 三 監修

ヨーロッパにおける広告規制立法試訳(二) 藤 田 達 朗 訳 155

〔判例研究〕

商業登記における登記義務者 商業登記判例総合研究(二) 竹 濱 修 179

第197号(1988年6月)

〔論説〕

訴訟審理における裁判官の権限と責任(一) 吉 野 正 三 郎 1

立証趣旨の拘束力 〔紹介〕	塩見久喜	43
エルヴィン・ドイッチュ「1987年ドイツにおける遺伝子工学法」 〔資料〕	山本隆司 和田真一	63
ミヒヤエル・フィンカップ「イギリスにおける広告規制と消費者 保護」 〔判例研究〕	中田邦博 訳	82
共同代表取締役の一人が単独の代表名義で約束手形を振り出した 場合と商法262条の類推適用 商業登記判例総合研究(三)	川島いづみ	129

第198号(1988年8月)

〔論説〕

モンタニャール独裁期の特別重罪裁判 オート・ガロンヌ県革命 重罪裁判所について	中村義孝	1
錯誤無効の追認可能性と民法119条の解釈論的意義について 錯誤無効の『取消への接近』とその限界に関する一考察	林幸司	29

〔特別寄稿〕

判決効と法形成 〔資料〕	ディーター・ライボルト 吉野正三郎・水野五郎共訳	102
-----------------	-----------------------------	-----

エドゥアルト・ラボフスキー、ゲルハルト・オーバーコフラー 「オーストリアにおけるナチス司法と刑法」(一)	兼子義人 訳	134
---	--------	-----

〔書評〕

政治思想史の課題、総合・関係・比較 中谷猛著『近代フランス の思想と行動』法律文化社、1988年、を読んで	高木勇夫	156
--	------	-----

第199号(1988年10月)

〔論説〕

英国における能力外原則の行方 〔紹介〕	斉藤武	1
ハンス・ハインリッヒ・イエシエック記念論文集の紹介(七)	刑法読書会 井戸田侃 編	54

〔資料〕

蒋相炎・徐有礼「抗日戦争時期の河南戦場」	中国現代史研究会 池田 誠 監訳	75
イタリー，ベルギー，ルクセンブルグの広告規制	中山 知己	105

第200号（1988年12月）

〔論説〕

1929年憲法改正〔オーストリア第一共和制〕とハンス・ケルゼン ケルゼンの「民主主義論」研究・序説（一）	兼 子 義 人	1
特許プールに関するアメリカ判例法の研究（一）	宮 井 雅 明	33

〔資料〕

ドイツ「責任法総論」（八）	損害賠償法読書会 乾 昭三 監修	72
---------------	---------------------	----

〔判例研究〕

取締役でないのに不実の取締役就任登記に承諾を与えた者と商法 14条の類推適用 商業登記判例総合研究（四）	吉 川 義 春	121
---	---------	-----

法学会記事

研究会記事

第201・202号（1989年3月）

天野和夫・窪田隼人教授退職記念論文集

〔論説〕

「あのケルゼンが去っていく」 ウィーンにおける反ユダヤ主義と 大学の学生規則	兼 子 義 人	1
承認論における「主体」の問題 承認論ノートより	大 橋 智 之 輔	24
帝国憲法の発布と京都府下の動向	後 藤 靖	47
エールリッヒから見た裁判官による法形成	マンフレート・レービンダー 吉野正三郎・水野五郎共訳	60
労働者派遣法の施行とその法理	小 室 豊 允	75
自治体「臨職」に対する任用更新拒否の救済法理 主要判例を素 材とする一考察	吉 田 美 喜 夫	94
トゥルーズのパルルマンについての一考察	中 村 義 孝	117
明治初期の目安箱（一） 京都を中心にして	大 平 祐 一	143
中国における司法の独立をめぐる諸問題	杜 鋼 建	175

裁量のゼロへの収縮論について 判例の展開と課題	田村悦一	206
刑事訴訟における当事者主義概念	井戸田侃	227
中国の証拠法について 中国の刑事訴訟証拠観	何恩濤	242
犯罪学の対象としての犯罪について	上田寛	249
「ピラミッド」組織の違法性 いわゆるベルギーダイヤモンド訴訟 に対する意見書	荒川重勝	270
法上の消費者概念	長尾治助	303
公害における因果関係の証明	吉村良一	327
八〇年代フランスにおける事実婚と私生活の尊重	二宮周平	354
工業所有権に関する国際私法上の原則とパリ条約	木棚照一	388
雫本朗造と日本法律研究所	佐上善和	411
裁判による法形成と裁判官の役割	吉野正三郎	435
フランス革命と祖国の観念 王朝的祖国の観念から市民的祖国の観 念へ	中谷猛	474
太平洋戦争期の青少年不良化問題	赤澤史朗	509
天野和夫教授略歴・業績		
窪田隼人教授略歴・業績		

第203号(1989年6月)

〔論説〕

マルクスの政治過程分析の方法《序説》 「フランス三部作」に おける具体的情勢分析	福井英雄	1
特許プールに関するアメリカ判例法の研究(二)	宮井雅明	27
〔研究ノート〕		
英国の労働者災害における使用者責任法理 初期コモン・ロー 法理の生成をめぐって(一)	米津孝司	56
〔資料〕		
ヨーロッパにおける広告規制立法試訳(三)	藤田達朗訳	80
〔判例研究〕		
商業登記法24条違反の瑕疵ある登記と審査請求が許される事由等 商業登記判例総合研究(五)	国友順市	110

第204号(1989年9月)

〔論説〕

事実婚の新しい展開 当事者の意識と社会的評価	二宮周平	1
ドイツの不法行為法における権利論の発展(一) 判例法上の営業 権を中心として	和田真一	46
特許ブールに関するアメリカ判例法の研究(三・完)	宮井雅明	77
〔資料〕		
エドワルト・ラボフスキー, ゲルハルト・オーバーコフラー 「オーストリアにおけるナチス司法と刑法」(二)	兼子義人 訳	102
畢 万聞「抗日ナショナリズム研究の動向 張学良研究の新動向 」	中国現代史研究会 池田誠 監訳	141

学位論文審査要旨

第205・206号(1989年12月)

西村信雄先生追悼論文集

〔論説〕

動産売買の先取特権の優先弁済力	中井美雄	1
消費者利益の法的保障について	長尾治助	34
不動産譲渡担保と仮登記担保法 不動産譲渡担保の私的実行を中心 として	荒川重勝	60
スイス国際私法における相続準拠法について	木棚照一	105
自己決定権と事実婚保護の中立性	二宮周平	135
明治八年太政官布告第103号「裁判事務心得」の成立と井上毅(一)	大河純夫	188
西村信雄先生年譜・著作目録		

第207号(1990年1月)

〔論説〕

連鎖販売疑似取引事例の批判的考察	長尾治助	1
中国からみた過失犯罪の理論	顧肖荣	33

ドイツの不法行為法における権利論の発展(二)	判例法上の営業権を中心として	和田真一	47
〔研究ノート〕			
英国の労働(者)災害における使用者責任法理	初期コモン・ロー法理の生成をめぐって(二・完)	米津孝司	89
〔判例研究〕			
設立登記の効力と公正証書原本不実記載罪	商業登記判例総合研究(六)	瀬谷ゆり子	116
学位論文審査要旨			
法学会記事			
研究会記事			

第208号(1990年3月)

〔論説〕

ソ連・東欧における「法治国」の展開(一)	「憲法改革」のパラダイム	畑中和夫	1
ドイツの不法行為法における権利論の発展(三・完)	判例法上の営業権を中心として	和田真一	25
〔資料〕			
ベーター・ギレス「欧州共同体(EC)及びドイツ連邦共和国における消費者信用法」		山本隆司訳	56
路風「現代中国社会の編成原理」	「単位社会体制」の形成とそのメカニズム	中国現代史研究会 池田誠監訳	93
〔判例研究〕			
登記期間の計算方法	商業登記判例総合研究(七)	永田均	131

第209号(1990年6月)

〔論説〕

ソビエト社会における社会的逸脱行動		上田寛	1
戦後合衆国政治学研究序説(一)		中谷義和	18

〔資料〕

EC 統合と金融サービスにおける消費者保護

EC消費者保護法制
研究会 長尾治助編 63

第210号(1990年9月)

〔論説〕

人権条約に付された解釈宣言の無効 ヨーロッパ人権裁判所判例
の検討②(プリロ事件) 薬師寺公夫 1

〔資料〕

基本法の下における労働法秩序

マンフレート・レーヴィツシュ
吉田美喜夫訳 57陳克「19世紀末、天津の民間組織と都市行政管理システム」(「19
世紀末天津民間組織と城市控制管理系統」『中国社会科学』1989年第6
期所収)中国現代史研究会
池田 誠 監訳 85

第211号(1990年10月)

〔論説〕

マルクスの政治過程分析の方法 「フランス三部作」を中心に 福井英雄 1

近世の非合法的「訴訟」(三) 駕籠訴・駈込訴を素材として 大平祐一 53

ドイツ連邦共和国における労働契約準拠法 1986年改正国際私法 米津孝司 68

(民事施行法第一編第二章)を中心に

学位論文審査要旨

第212号(1990年12月)

〔論説〕

イギリスにおける開発利益の公共還元制度の生成 アスワット報
告と1947年都市農村計画法 安本典夫 1

業務上過失について 松宮孝明 43

〔資料〕

富山・石川・福井三県市町村長アンケート調査結果報告

佐藤 満
干 藤 辰 夫 81

第213号(1991年1月)

〔論説〕

アドルフ・ティエールとフランス自由主義(一) 政治における実践知の分析 中谷 猛 1

戦後西ドイツ刑法理論における不法概念の形成過程(一) 本田 稔 52

〔特別寄稿〕

統一ドイツの労働法と社会保障法 ベーター・ハナウ 100
吉田美喜夫 訳

持続可能な発展と社会主義の理念 フランク・カニンガム 116
松岡 完 訳

〔資料〕

富山・石川・福井三県市町村長アンケート調査結果報告 佐藤 満 154
干場 辰 夫 訳

アンドレア=L=マクエルダリ「中国の経済改革における保証と保証人」 中国現代史研究会 188
池田 誠 監訳

法学会記事

研究会記事

+

+

第214号(1991年3月)

〔論説〕

フランス行政判例における「費用便益衡量」理論(一) 開発事業の「公益性」に関する裁判審査基準について 亘 理 格 1

〔特別寄稿〕

ドイツ統一への道における憲法上の基本問題 クラウス・シュテルン 79
高田 篤 訳

東欧における国際ジョイントベンチャーをめぐる問題点 クレシモール・サイコ 103
木 棚 照 一 監訳

第215号(1991年6月)

〔論説〕

公正競争規約の規範性 長尾 治 助 1

「変死体」の取り扱いをめぐる諸問題 松宮 孝 明 39

〔特別寄稿〕

ドイツ学術法の現代的諸問題 ベーター・ハナウ 59
米 津 孝 司 訳

〔研究ノート〕

国連海洋法条約における損害賠償責任条項の起草過程 国家の 薬師寺公夫 76
権限行使により外国船舶等に生じた損害の賠償責任

〔資料〕

国連海洋法条約における国家船舶の通航権行使と損害賠償責任 薬師寺公夫 118
学位論文審査要旨

第216号(1991年9月)

〔論説〕

タイの労使関係と法(一) 集团的労使関係法の領域を中心とする予 吉田美喜夫 1
備的考察

戦後西ドイツ刑法理論における不法概念の形成過程(二) 本田稔 33

〔研究ノート〕

国際人権規約起草過程における留保条項の審議 薬師寺公夫 66

〔資料〕

エドワルト・ラボフスキー, ゲルハルト・オーバーコフラー 兼子義人訳 122
「オーストリアにおけるナチス司法と刑法」(三)

第217号(1991年10月)

〔論説〕

保険事故発生の通知・説明義務の再検討(一) 竹濱修 1

タイの労使関係と法(二・完) 集团的労使関係法の領域を中心とす 吉田美喜夫 66
る予備的考察

戦後西ドイツ刑法理論における不法概念の形成過程(三) 本田稔 97

〔資料〕

人権裁判所に対する個人の訴権(ヨーロッパ人権条約第九議定書) 薬師寺公夫 114

エドワルト・ラボフスキー, ゲルハルト・オーバーコフラー 兼子義人訳 122
「オーストリアにおけるナチス司法と刑法」(四)

第218号(1991年12月)

〔論説〕

火災事件と管理・監督過失	松宮孝明	1
民法七二三条に基づく名誉回復「請求権」に関する一考察	和田真一	29

〔資料〕

エドワルト・ラボフスキー，ゲルハルト・オーバーコフラー 「オーストリアにおけるナチス司法と刑法」(五・完)	兼子義人 訳	75
労働者参加に関する EC 委員会提案 ドイツ共同決定制度とのか わりにおいて	ヴァルター・コルベンバッハ 米津孝司 訳	99

第219号(1992年1月)

〔論説〕

共同体裁判所の裁量統制 EC 行政法形成の一考察	田村悦一	1
保険事故発生の通知・説明義務の再検討(二)	竹瀆修	25
サミール・アミンの理論とその構造 民族理論を中心にして	南野泰義	53

〔資料〕

富山・石川・福井三県市町村長アンケート調査結果報告	佐藤満夫 干場辰夫	112
ドイッチュ「責任法総論」(九)	損害賠償法読書会 乾昭三 監修	136

第220号(1992年3月)

〔論説〕

ドイツにおける公害・環境問題と民事責任論の新しい動向	吉村良一	1
保険事故発生の通知・説明義務の再検討(三)	竹瀆修	51
戦後西ドイツ刑法理論における不法概念の形成過程(四)	本田稔	85

〔資料〕

法学部教学の現状と課題 1991年度調査委員会報告(その一)	1991年12月10日 法学部調査委員会	116
--------------------------------	-------------------------	-----

第 221 号 (1992年 6 月)

〔論 説〕

サービス契約と真実開示の原則	長尾治助	1
戦後西ドイツ刑法理論における不法概念の形成過程(五・完)	本田稔	19
〔資 料〕		
ドイツ「責任法総論」(十・完)	損害賠償法読書会 乾 昭三 監修	43
法学部教学の現状と課題 1991年度調査委員会報告(その二・完)	1992年3月26日 法学部調査委員会	67
〔判例研究〕		
広告の掲載拒否と広告契約の成否	長尾治助	132
法学会記事		
研究会記事		

第 222 号 (1992年 9 月)

〔論 説〕

九〇年代国際政治と「ポスト冷戦」論の陥穽	菊井禮次	1
水際での知的財産権執行手続きとGATT(一) 米国における ITC と連邦地裁との管轄権競合問題を手掛かりとして	宮井雅明	50
〔研究ノート〕		
『朝鮮戦争起源論』(一) 学説史的整理と今後の課題	李 慈 卿	77
〔紹 介〕		
中国の人権論(一)	アジア法研究センター編 畑中和夫 監修	97
〔資 料〕		
中国古代の甌函制度についての一考察	楊 一 凡	113
学位論文審査要旨		

第 223・224 号 (1993年 1 月)

兼子義人教授追悼論文集

〔論 説〕

法理論とイデオロギー 兼子教授のケルゼン研究	田中成明	1
------------------------	------	---

根本規範の実質的解釈 エンギッシュのケルゼン批判	竹下 賢	18
明治初期の目安箱(二・完) 京都を中心にして	大平 祐一	39
土地利用規制と補償(一)	安本 典夫	95
社会的法治国家刑法における罪刑法定主義と不法概念に関する一考察 ボン基本法制定と1951年刑法改正を契機とした不法概念の展開	本田 稔	126
取調官の証言・保釈条件	井戸田 侃	164
「公訴権濫用」と「処罰不相当」 「非典型的刑罰消滅事由」について	松宮 孝明	197
契約と企業倫理と自主規制	長尾 治助	237
「非嫡出子」の相続分差別撤廃へ向けて(一)	二宮 周平	267
在日韓国・朝鮮人の相続をめぐる国際私法上の諸問題	木棚 照一	298
近代フランスの地方分権論と立法者の精神 第二帝政期の地方分権法を手掛りにして	中谷 猛	349
スウェーデンにおけるコーポラティズムと労働戦略(一) スウェーデンモデルの形成	宮本 太郎	404
故兼子義人教授略歴・業績		

第225・226号(1993年3月)

乾昭三教授退職記念論文集

〔論説〕

民法における「能力」制度論の動向 「意思能力・行為能力」を中心に	中井 美雄	1
費用の過大さを理由とする妨害排除請求の制限 BGB二五一条二項の適用範囲論をめぐって	和田 真一	27
根抵当権の被担保債権範囲論における設定者の契約意思について 「銀行取引」と保証債権との関連	中山 知己	55
労働者募集等の法規制と自主規制 情報媒体規制を視野に入れて	長尾 治助	80
人身損害賠償額算定に関するいくつかの問題 実務における算定論の批判的検討	吉村 良一	139
ドイツ国際私法における相続準拠法 被相続人による準拠法選択	木棚 照一	172

を中心に

「非嫡出子」の相続分差別撤廃へ向けて(二・完)	二宮周平	212
協同組合の清算所得課税の実態と問題 一つの実証的研究	北野弘久	263
カード破産のオルタナティブ ウィルヘルムソンの社会的不可抗力論	平中貴一	299
人保険における自殺免責条項	竹濱修	312
フランス革命初期の重罪陪審裁判	中村義孝	335
刑法における階級性原理をめぐって 「ソビエト刑法」とは何であったのか	上田寛	372
戦時災害保護法小論	赤澤史朗	400
乾昭三教授略歴・業績		

第227号(1993年7月)

〔論説〕

明治八年太政官布告第一〇三号「裁判事務心得」の成立と井上毅(二)	大河純夫	1
----------------------------------	------	---

水際での知的財産権執行手続とGATT(二・完) 米国におけるITCと連邦地裁との管轄権競合問題を手掛かりとして	宮井雅明	18
---	------	----

〔研究ノート〕

『朝鮮戦争起源論』(二・完) 学説史的整理と今後の課題	李慈卿	40
-----------------------------	-----	----

〔資料〕

マンフレッド・レービッシュ「ドイツにおける法曹養成」	出口雅久訳	73
----------------------------	-------	----

コスタス・E・ベイズ「ギリシア民事訴訟法に及ぼすEC法の影響」	出口雅久訳	83
---------------------------------	-------	----

ギュンター・ヤコブス「刑法上の行為概念」	上田健二 浅田和茂	98
----------------------	--------------	----

法学会記事

研究会記事

第228号(1993年9月)

〔論説〕

都市計画行政の過程における争訟のあり方 計画を争う争訟と建	安本典夫	1
-------------------------------	------	---

築審査会の審査

「被害者の承諾」についての一考察	生田勝義	31
中国の会社代表者と取引の安全保障	王進生	77
〔資料〕		
杜鋼建「反権力の法学運動と天野和夫の抵抗権思想」(「抵抗主義法学運動と天野和夫の抵抗権思想」『法律科学』一九九二年第三期所収)	中国現代史研究会 池田誠監訳	113
「人権ニヒリズムの克服について」(「談克服人権虚無主義」『法律学習與研究』一九九二年第一期所収)		
Ch. ハートマン, P. ヴィラノヴァ編『パラダイムの喪失 ポスト冷戦時代』(一)	法学研究科国際政治論ゼミ 菊井禮次監修	133
取締役の義務と責任に関する外国判例の研究(一) 英国判例(一)	吉川義春	165
(二)		

第229号(1993年10月)

〔論説〕

出演契約と第三者への役務提供	長尾治助	1
ナショナリズム論への視点<序説> ヨーロッパ型民族理論の構造と問題点	南野泰義	51

〔資料〕

王守中「晚清近代化の二つの段階について 洋務運動と清末新政」(「論晚清近代化の両段階 洋務運動和清末新政」『山東師大学報(社会科学版)』一九九一年第五期所収)	中国現代史研究会 池田誠監訳	114
尼崎市自治体警察と市議会	福井英雄	133
Ch. ハートマン, P. ヴィラノヴァ編『パラダイムの喪失 ポスト冷戦時代』(二)	法学研究科国際政治論ゼミ 菊井禮次監修	187
取締役の義務と責任に関する外国判例の研究(二) 英国判例(三)	吉川義春	221

第230号(1993年12月)

〔論説〕

マルクスの政治過程分析と国家論 「フランス三部作」を中心に	福井英雄	1
中央地方関係の「結合」と相互依存モデル 行政エリート調査	村上弘	43

その他のアンケートをもとに

中国の会社立法における取締役会について	王 進 生	75
自由権規約無差別条項の機能(一)	徳 川 信 治	106
〔 紹 介 〕		
中国の人権論(二・完)	アジア法研究センター編 石川元也・畑中和夫監修	139
〔 資 料 〕		
ギュンター・ヤコブス「責任原理」	松 宮 孝 明 訳	159
Ch. ハートマン, P. ヴィラノヴァ編『パラダイムの喪失 ポスト冷戦時代』(三・完)	法学研究科国際政治論ゼミ 菊 井 禮 次 監 修	196
中国国家公務員法暫定条例	戴 波	234
学位論文審査要旨		

第 231・232 号 (1994年 3月)

塩田親文・井戸田侃教授退職記念論文集

〔 論 説 〕

近世日本における雇用法の転換 元禄十一年(1698年)の奉公年季制限撤廃令	大 平 祐 一	1
ナポレオン刑事訴訟法の重罪陪審裁判 行為原理と刑法	中 村 義 孝 生 田 勝 義	61 115
エホバの証人の輸血拒否・被収容者のハンスト その法律問題の 検討	石 原 明	157
「エリツインのロシア」と刑法	上 田 寛	181
刑事訴訟における適正手続とフェア・トライアル	久 岡 康 成	216
非故意行為に対する共犯 「故意への従属性」について	松 宮 孝 明	237
犯罪人引渡し及び退去強制に対する人権条約の制限(一)	薬 師 寺 公 夫	267
ヨーロッパ人権裁判所判例の検討③		
譲渡担保権設定者の「受戻権」と清算金請求権	荒 川 重 勝	292
富井政章と法典編纂論	大 河 純 夫	318
抵当権侵害とその法的保護	中 井 美 雄	344
購入あっせん業者との義務法理	長 尾 治 助	379
法人・団体の名誉毀損とその公共性	和 田 真 一	413
会社設立の際の資本と出資の規制関係 中国公司法立法へよせ	志 村 治 美	435

て

ドイツ自動車保険における事故発生後の義務と詐欺的請求 契約の連鎖としての会社 「法と経済学」における一つの会社 観	竹 濱 修 457 西 尾 幸 夫 484
取締役の第三者に対する責任の理論問題	吉 川 義 春 511
国際相続法における総括準拠法と個別準拠法	木 棚 照 一 575
ドイツにおける管理職員の利益代表法 1988年の「代表者委員会 法」について	吉 田 美 喜 夫 614
現代国際政治史の方法論的考察 現代国際政治史序説Ⅰ 塩田親文教授略歴・業績 井戸田侃教授略歴・業績	菊 井 禮 次 661

第233号(1994年6月)

〔論 説〕

開発利益の概念と、その公共還元の法理	安 本 典 夫 1
現代刑法における法益保護の早期化について(一) 近年のドイツ の議論をもとにして	金 尚 均 41

〔特別寄稿〕

「1993年立命館・フライブルク大学連続講演会」

1990年以降のドイツにおける労働法および社会保障法の展開	マンフレート・レービッシュ 米 津 孝 司 訳 95
-------------------------------	-------------------------------

〔紹 介〕

ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(一)	刑 法 読 書 会 生 田 勝 義 編 109
-------------------------	----------------------------

〔資 料〕

R・メイドナー「スウェーデンモデル：概念・経験・射程」 法学会記事 研究会記事	宮 本 太 郎 訳 132
---	---------------

第234号(1994年9月)

〔論 説〕

ドイツにおける弁護士和解	出 口 雅 久 1
明治八年太政官布告第一 三号「裁判事務心得」の成立と井上毅	大 河 純 夫 18

(三)

自由権規約無差別条項の機能(二・完) 〔特別寄稿〕	徳川信治	52
1993年立命館・ケルン大学国際共同研究会	出口雅久	118

第235号(1994年10月)

〔論説〕

過失犯における正犯概念(一) 火災事件をめぐる議論を素材に 「取得時効と登記」に関する大正期判例理論の一断面 時効取 得登記連合部判決, 大審院判例審査会及び大審院判例集	松宮孝明 大河純夫 大村井祐	1 29
現代刑法における法益保護の早期化について(二・完) 近年の ドイツの議論をもとにして	金尚均	83
知的財産権の国際的保護に関する GATT アプローチの問題点 〔紹介〕	宮井雅明	122
ギュンター・シュトラテンヴェルト「刑法を手段とする未来の 保全」	金尚均	162
ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(二) 〔資料〕	刑法読書会 生田勝義編	174
デーゲンハート・フォン・トヴィツェル「ドイツにおける税務訴訟」	三木義一訳	193
商業登記利用者の実態調査 京都市に於ける	志村治美	206

第236号(1994年12月)

〔論説〕

非常勤消防団員の解散・解職請求権の制限 法規の準用における 読替え等と行政立法の逸脱	安本典夫	1
アドルフ・チエールとフランス自由主義(二) オルレアン主義の 視角から	中谷猛	35
中国憲法における人民代表の免責特権条項 人民主権・人民代表 制原理の視点から	林来梵	79
債権契約の準拠法決定基準に関する「最も密接な関係国法」につ いて イギリス国際私法の視座から	樋爪誠	108

〔特別寄稿〕

「1993年立命館・フライブルク大学連続講演会」	
国際民事訴訟法の問題としての懲罰的損害賠償	ディーター・ライボルト 出口雅久 訳 156
主観的な訴訟手続の集中方法としての第三者参加	ボルフガング・リュケ 出口雅久 訳 185
〔研究ノート〕	
薬物事犯と抽象的事実の錯誤	松宮孝明 211
〔紹介〕	
ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(三)	刑法読書会 生田勝義 編 220
〔資料〕	
明治初期京都の目安箱訴状(一) 『函訴検閲録』	大平祐一 227
取締役の義務と責任に関する外国判例の研究(三)	吉川義春 309
米国判例(一)	

第237号(1995年1月)

〔論説〕

新刑法典への模索 「エリツインのロシア」と刑法・二	上田寛 1	+
クレジットカード契約の名義貸し	長尾治助 25	
「金九の民族路線」についての一考察 朝鮮半島の分断をめぐって	李慈卿 49	
自由権規約と家族概念	徳川信治 83	
ドイツにおける民事責任体系論の展開(一) 危険責任論の検討を中心として	増田栄作 136	
〔特別寄稿〕		
「1993年立命館・フライブルク大学連続講演会」		
環境保護と憲法 国家の統制による予防が民事責任法による予防か	ライナー・ヴァール 小山剛・吉村良一 訳 176	
〔紹介〕		
ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(四)	刑法読書会 生田勝義 編 205	
〔資料〕		
管理職員の代表者委員会に関する法律	吉田美喜夫 訳 228	
取締役の義務と責任に関する外国判例の研究(四)	吉川義春 252	
米国判例(二)		

学位論文審査要旨

第238号(1995年3月)

〔論説〕

契約当事者の確定(一) 他人名義の不動産売買を中心に	鹿野菜穂子	1
過失犯における正犯概念(二) 火災事件をめぐる議論を素材に	松宮孝明	41
〔研究ノート〕		
法秩序の統一性と違法阻却	松宮孝明	75
〔紹介〕		
ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(五)	刑法読書会 生田勝義編	86
中国における市場経済と法体系	アジア法研究センター編 石川元也・畑中和夫監修	95
〔資料〕		
明治初期京都の目安箱訴状(二) 『函訴検閲録』	大平祐一	118
取締役の義務と責任に関する外国判例の研究(五・完) ドイツ判例(一)(二)	吉川義春	211

第239号(1995年6月)

〔論説〕

サービス取引の規制緩和と消費者保護 提携旅客運送業者の契約責任を例として	長尾治助	1
抽象的危険犯の現代的展開とその問題性(一) 近年のドイツの議論を参考にしながら	金尚均	28
自由権規約六条と死刑問題(一)	徳川信治	67
ドイツにおける民事責任体系論の展開(二) 危険責任論の検討を中心として	増田栄作	97
〔研究ノート〕		
校庭への立ち入りと建造物侵入罪	松宮孝明	162
〔紹介〕		
ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(六)	刑法読書会 生田勝義編	170
〔資料〕		
フレッド・ハリディ著「国際関係論再考」(ロンドン, 1994年刊)(一)	菊井禮次	183

法学会記事

研究会記事

第240号(1995年9月)

〔論説〕

明治民法における行為能力の制限 編纂	明治前期法曹法と民法典の	大河純夫	1
中国における選挙権論(一)	日本の場合と比較して	林来梵	31
抽象的危険犯の現代的展開とその問題性(二)	近年のドイツの議論を参考にしながら	金尚均	66
自由権規約六条と死刑問題(二・完)		徳川信治	109
現代代表民主制の生理「の」病理についての一考察(一)		石崎学	152
ドイツにおける民事責任体系論の展開(三・完)	危険責任論の検討を中心として	増田栄作	187
従業員持株制度の研究(一)	ドイツとの比較による制度目的の再検討を中心として	道野真弘	210

〔研究ノート〕

サリン規制法と社会不安	「危険社会」へのプレリユードか?	金尚均	249
〔紹介〕			
ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(七)		刑法読書会 生田勝義編	267
〔資料〕			
アメリカ「多元主義」の系譜	マディソンから行動論まで	ジョン・G・ガネル 中谷義和訳	275
明治初期京都の目安箱訴状(三)	『函訴検閲録』	大平祐一	313
フレッド・ハリディ著「国際関係論再考」(ロンドン,1994年刊Ⅸ二)		菊井禮次訳	362

第241号(1995年10月)

〔論説〕

氏名の自己決定権としての通称使用の権利		二宮周平	1
メリアム政治学の脈絡化	ひとつの解釈	中谷義和	38
中国における選挙権論(二・完)	日本の場合と比較して	林来梵	67
抽象的危険犯の現代的展開とその問題性(三・完)	近年のドイツ	金尚均	88

の議論を参考にしながら

現代代表民主制の生理「の」病理についての一考察(二・完)	石 崎 学	122
アメリカにおける契約準拠法の展開に関する一考察	重心理論 樋 爪 誠	152
の比較的位置付けについて		
従業員持株制度の研究(二)	ドイツとの比較による制度目的の再検討を中心として	道 野 真 弘 198
[研究ノート]		
ウォルフレン『日本ノ権力構造の謎』を読む	大学院政治学ゼミ 福井英敏(編)	241
[資料]		
明治初期京都の目安箱訴状(四)	『函訴検閲録』	大 平 祐 一 276
フレッド・ハリディ著「国際関係論再考」(ロンドン, 1994年刊Ⅸ三)	菊 井 禮 次 記	322
中華人民共和国香港特別行政区基本法(一)	畑中和夫監修 林来梵・祖晞峰・永井美佐子共訳	353

第 242 号 (1995年12月)

[論 説]

戦後国際政治における基軸的対抗関係の形成と「冷戦」戦略の発動(1940年代後半-50年代Ⅸ一)	菊 井 禮 次	1
EU の契約債務準拠法条約上の「強行法規」について	国際海 樋 爪 誠	31
上物品運送契約を中心に		
従業員持株制度の研究(三・完)	ドイツとの比較による制度目的の再検討を中心として	道 野 真 弘 64
[紹 介]		
ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(八)	刑法読書会 生田勝義(編)	103
[資料]		
明治初期京都の目安箱訴状(五)	『函訴検閲録』	大 平 祐 一 111
フレッド・ハリディ著「国際関係論再考」(ロンドン, 1994年刊Ⅸ四)	菊 井 禮 次(訳)	178
学位論文審査要旨		

第 243・244 号 (1996年3月)

畑中和夫教授退職記念論文集

〔論 説〕

フランスの重罪裁判における陪審制	中 村 義 孝	1
近世の非合法的訴訟(四) 駕籠訴・駈込訴を素材として	大 平 祐 一	33
計画許可を争う住民の原告適格をめぐるイギリスの判例の動向	安 本 典 夫	72
沖縄職務執行命令訴訟の憲法論 反戦地主の補助参加にかんする意見書	小 林 武	95
破壊活動防止法にみる団体規制と結社の自由 結社の自由論の側面	鳥 居 喜 代 和	121
日本的集団主義対個人主義から共生・共同へ	堀 江 一 晃	147
科学技術と経済との一体化の発展を促進する法律のメカニズムについて 知的財産権問題への法理学的思考 (要約文)	趙 震 江	170
中国選挙制度の法的構造(一) その人民代表定数不均衡問題を焦点に	林 来 梵	179
ソ連邦の「分裂」に伴う国際法の諸問題	曾 我 英 雄	226
刑事手続における裁判による法創造とデュー・プロセス	久 岡 康 成	253
ラスコーリニコフの周辺 ドストエフスキーの『罪と罰』をめぐって	上 田 寛	279
共犯の「従属性」について	松 宮 孝 明	302
遠隔地へ向けての勧誘およびテレマーケティングと相手方の保護	長 尾 治 助	335
特許製品の並行輸入 国際的消耗論批判 畑中和夫教授略歴・業績	大 瀬 戸 豪 志	366

第 245 号 (1996年 6 月)

福井英雄教授追悼論文集

〔論 説〕

福井英雄先生の学問と人柄	形 野 清 貴	1
東ドイツの崩壊とハーシュマン理論	山 川 雄 巳	11
D・ヘルドのコスモポリタン民主主義論	田 口 富 久 治	34
自由主義論の現在 問題整理のための覚え書	中 谷 猛	70
草創期のアメリカ政治学 F・リーバーの政治論	中 谷 義 和	113
アメリカ孤立主義の転換と1939年中立法	安 藤 次 男	141

現代フランスにおける政治的エコロジー運動の生成と展開 政党化をめぐるディレンマ	國 廣 敏 文	168
石原廣一郎小論(一) その国家主義運動の軌跡	赤 澤 史 朗	215
戦後国際政治における基軸的対抗関係の形成と「冷戦」戦略の発 動(1940年代後半 50年代Ⅱ・完) 現代国際政治史序説Ⅱ	菊 井 禮 次	257
「第三世界」のナショナリズム論 「従属理論」派ナショナリズム 論をめぐって	南 野 泰 義	292
ドイツと日本の市町村議会 選挙制度, 政党化, 社会的代表性	村 上 弘	311
転換期韓国における利益集団政治(一) 1993年薬事法の改正に見 る医薬分業政策を事例として	巖 敞 俊	347
アジェンダ構築とメディア機能 コブとエルダーの理論モデルを軸 に	立 石 芳 夫	370
「契約に関するプロパー・ロー」理論の意義 一九世紀のイギリ スにおける契約準拠法理論の潮流	樋 爪 誠	407
福井英雄教授略歴・業績		

第246号(1996年8月)

〔論 説〕

損害保険サービス法の再整備 火災保険と地震免責条項を中心とし て	長 尾 治 助	1
捜査機関に対する参考人の虚偽供述と証拠隠滅罪	松 宮 孝 明	40
契約準拠法の管轄権規則への影響 最近のイギリスの議論を手がか りに	樋 爪 誠	56
自己危殆化への関与と合意による他者危殆化について(一) 〔研究ノート〕	塩 谷 毅	85
いかなる意味で代表するのか? 代表制・半代表「制」・半代表 の論理 リュシアン・ジョームのホプズ研究の紹介を中心に	石 崎 学	114
フランスにおける「法治国家」論と憲法院 ルイ・ファヴォール とドミニク・ルソーの所論をめぐって	フランス読書会 中 村 義 孝 編	138

〔資 料〕

明治初期京都の目安箱訴状(六) 『函訴検閲録』	大 平 祐 一	157
E. ベルトソン「主権から権威と影響力へ 民主主義理論におけ	中 谷 義 和 訳 岡 林 信 一	206

る権力の系譜学へ向けて」	
中国の仲裁法と仲裁制度(付「中国仲裁法」)	アジア法研究センター編 233
法学会記事	畑中和夫・吉野正三郎監修
研究会記事	

第247号(1996年10月)

〔論説〕

ドイツでの「消費者契約における濫用条項に関するEG指令」	谷本圭子	1
国内法化の実現 約款規制法(AGBG)改正法の成立・施行		
インサイダー取引に対する刑事規制についての一考察	金尚均	44
自己危殆化への関与と合意による他者危殆化について(二)	塩谷毅	75

〔資料〕

明治初期京都の目安箱訴状(七) 『函訴検閲録』	大平祐一	105
ギュンター・ヤコブス「機能主義と古きヨーロッパの原則思考の狭間に立つ刑法 はたまた「古きヨーロッパ」刑法との決別か?	松宮孝明 金尚均訳	156

ドイツの選択的夫婦別氏制度の実態と意識調査	二宮周平 山中美樹	194
F. カニンガム「カナダ/ケベックの難問 三民族型パースペクティブ」	中谷義和 柳原克行	211
中華人民共和国香港特别行政区基本法(二)	畑中和夫監修	247
学位論文審査要旨		

第248号(1996年12月)

〔論説〕

深夜交替制労働の現状と法規制の課題	吉田美喜夫	1
石原廣一郎小論(二・完) その国家主義運動の軌跡	赤澤史朗	32
自己危殆化への関与と合意による他者危殆化について(三)	塩谷毅	80
法的概念としての「損害」の意義(一) ドイツにおける判例の検討を中心に	若林三奈	108
カンボジア紛争を巡る国連の対応(1979-1991)	一柳直子	151
転換期韓国における利益集団政治(二・完) 1993年薬事法の改正	巖敞俊	197

に見る医薬分業政策を事例として

〔研究ノート〕

フランスにおける生命倫理立法と憲法院 1994年7月27日憲法院 判決を素材として フランス読書会 中村義孝編 246

〔紹介〕

フランクフルト大学犯罪科学研究所編『刑法の驚くべき状態について』の紹介(一) 刑法読書会 生田勝義・本田稔編 266

学位論文審査要旨

第249号(1997年3月)

中井美雄・長尾治助教授退職記念論文集

〔論説〕

私法の解釈方法をめぐって 大河純夫 1

根保証再論 特に根保証の被保証債務の範囲を中心として 荒川重勝 25

父とは誰か 嫡出推定および認知制度改革私案 二宮周平 77

契約法における人的適用範囲画定 序論的検討・ドイツ消費者保護法の概観 谷本圭子 108

銀行の債権者侵害責任 ドイツBGH判例の動向から 和田真一 137

高齢者の遺言能力 鹿野菜穂子 157

「契約のコントロール」 比較契約法研究序説 中田邦博 176

Hein Kötz (Europäisches Vertragsrecht 1) の見解の検討

現代ドイツにおける不法行為法理論の動向について 増田栄作 228

Bruggemeier の不法行為法理論を中心に

ポストモダンの製造物責任法 平中貫一 255

イギリス保険者免責条項の制限的解釈 合理的注意条項について 竹瀨修 269

民事訴訟における秘密保護手続 出口雅久 300

朝鮮民主主義人民共和国の対外民事関係法に関する若干の考察 木棚照一 343

タイの国営企業と労使関係法 吉田美喜夫 366

過剰入金と財産犯 松宮孝明 404

中井美雄教授略歴・業績

長尾治助教授略歴・業績

第250号(1997年3月)

松岡正美・菊井禮次教授退職記念論文集

〔論説〕

署名活動と表現の自由・プライバシー と憲法(一)	署名者個人への働きかけ	市川正人	1
国籍法における婚外子の平等処遇		二宮周平	20
包括根保証の責任制限 て	「意思の解釈」という判断基準について	中井美雄	49
銀行の説明義務		長尾治助	70
共同漁業権と沿岸漁業管理		田平紀男	102
反トラスト法と技術革新 て	「技術革新市場」分析をてがかりとして	宮井雅明	112
電気通信事業における相互接続規制の法制度的検討		土佐和生	135
近世の非合法的訴訟(五)	駕籠訴・駆込訴を素材として	大平祐一	155
電話傍受の手続的側面の再検討		久岡康成	186
対人地雷の法規制について		堤功一	207
トクヴィルのデモクラシー論 行方	デモクラシー精神の探求とその	中谷猛	227
占領軍と京都(一)		赤澤史朗	261
ダールのポリアーキー民主政論		中谷義和	275
英国政治における戦後コンセンサスと政治意識(一)	1960年代から90年代にかけての有権者の争点選好の変動を中心に	小堀真裕	295
スイスの住民投票	直接民主制と間接民主制との共鳴?	村上弘	313
イーストンの政治システム理論		田口富久治	331
イギリスのネイション・国民国家・主権国家の形成とその特徴 西欧国際体系との関連において		巢山靖司	359
中国の政治制度とその発展		劉海年(呉成慎訳)	391
松岡正美教授略歴・業績			
菊井禮次教授略歴・業績			

第251号(1997年6月)

〔論説〕

フランス行政賠償責任における HIV 感染血液訴訟 行政判例に 北村和生 1
 対する影響を中心に

Theodor Kipp による「無効と取消の二重効」とその今日的意義 林幸司 28
 法律効果競合論研究序説

自己危殆化への関与と合意による他者危殆化について(四・完) 塩谷毅 67

法的概念としての「損害」の意義(二) ドイツにおける判例の検 若林三奈 105
 討を中心に

ミッテラン政権下における「地域民主主義」の形成 地方制度 中田晋自 157
 改革とグルノーブル市の事例

〔特別寄稿〕

環境法における強みと弱み 日本とドイツを比較して ハルトムート・クリューガー 209
 和田真一訳

〔研究ノート〕

1789年フランス人権宣言の矛盾について 近年のフランスにおけ 石崎学 220
 る「法律中心主義論」の動向

〔資料〕

「焼きいも販売員」の労働者性 労災遺族補償給付請求に関する意 吉田美喜夫 233
 見書

法学会記事

研究会記事

第252号(1997年9月)

〔論説〕

署名活動と請願権・名誉権 署名者個人への働きかけと憲法 市川正人 1
 (二・完)

法律による憲法の具体化と合憲性審査(一) フランスにおける憲 蛭原健介 30
 法院と政治部門の相互作用

法的概念としての「損害」の意義(三・完) ドイツにおける判例 若林三奈 62
 の検討を中心に

国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)活動の評価とその教訓 (一) カンボジア紛争を巡る国連の対応(1991-1993) 〔紹介〕	一 柳直子	123
フランクフルト大学犯罪科学研究所編『刑法の驚くべき状態について』の紹介(二)	刑法読書会 生田勝義・本田稔編	166
中谷猛著『近代フランスの自由とナショナリズム』法律文化社 (1996)	加藤克夫	175

第253号(1997年10月)

〔論説〕

恒藤恭の法哲学と唯物史観 没後三十年に寄せて 外国人の私権と梅謙次郎(一)	天野和夫	1
一九九七年英国総選挙に関する一考察 ニュー・レイバーと戦後 コンセンサスについて	大河純夫	26
法律による憲法の具体化と合憲性審査(二) フランスにおける憲 法院と政治部門の相互作用	小堀眞裕	39
国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)活動の評価とその教訓 (二・完) カンボジア紛争を巡る国連の対応(1991-1993) 〔研究ノート〕	一 柳直子	122
危険引き受けについて 「ダートトライアル同乗者死亡事件」を素 材にして	塩谷毅	167
〔紹介〕		
E・ドイチュ(Erwin Deutsch)「帰責関連・違法性・有責性」	若林三奈(訳)	182
ギュンター・ヤコブス「従属性 共同組織化の前提条件について」	松宮孝明 豊田兼彦	196
ギュンター・ヤコブス「作為および不作為の刑法的帰責」	松宮孝明 平山幹子	218

第254号(1997年12月)

〔論説〕

近世の非合法的訴訟(六) 駕籠訴・駆込訴を素材として カナダにおける法学教育の現状と展望 国際的パースペクティヴ	大平祐一 レオナルド・チアノ 柳原克行(訳)	1 39
---	------------------------------	---------

法律による憲法の具体化と合憲性審査(三) フランスにおける憲 法院と政治部門の相互作用	蛭原健介	67
国際法におけるウティ・ポシデティスの再検討 〔紹介〕	新納摩子	104
フランクフルト大学犯罪科学研究所編『刑法の驚くべき状態につ いて』の紹介(三)	刑法読書会 生田勝義・本田稔編	141
〔資料〕		
現代民事訴訟における口頭主義と書面主義	ディーター・ライボルト 出口雅久(訳)	156
ベルント・シューネマン「現代の刑事手続きにおける警察の地 位」	山名京子(訳)	176

第255号(1998年2月)

〔論説〕

陪審裁判の復活はどのように阻止されてきたか	佐伯千仍	1
定期預金の仮差押 Truth in Savings の観点からみた問題事例	長尾治助	63
外国人の私権と梅謙次郎(二・完)	大河純夫	105
ドイツ流サイバースペース規制 情報・通信サービス大綱法の 検討	米丸恒治	141
法律による憲法の具体化と合憲性審査(四・完) フランスにおけ る憲法院と政治部門の相互作用	蛭原健介	195
自殺関与事例における被害者の自己答責性(一)	塩谷毅	237
〔資料〕		
民事訴訟における国内法と国際法の相互作用	ディーター・ライボルト 出口雅久・水野五敏(共訳)	296
〔判例研究〕		
公職選挙法上の公職の候補者等による寄附罪と寄附を受ける者に おける寄附主体の認識の要否	松宮孝明	315

第256号(1998年3月)

志村治美・堤功一教授退職記念論文集

〔論説〕

今日の環境保護の課題とその手法	安本典夫	1
-----------------	------	---

ドイツ・デジタル署名法と電子認証	サイバースペースの不確定	米丸恒治	31
性克服の制度基盤の検討			
「共犯の処罰根拠」について			
起訴後の勾留の性質	継続的強制処分と処分抗告構造	松宮孝明	74
国際人権法と環境保護	地下核実験に関する自由権規約人権委員会	久岡康成	92
及び欧州人権委員会の判断を手がかりに			
大審院(民事)判例集の編纂と大審院判例審査会		大河純夫	139
家族法と子どもの意見表明権	子どもの権利条約の視点から	二宮周平	178
不正条項規制における問題点(一)	EU加盟各国の最近の動きを	鹿野菜穂子	200
手掛かりに			
商号続用のある営業譲受人の責任	債権者保護の視点から	山下真弘	232
農業協同組合法等による総会決議の取消請求と取消の訴え		竹濱修	249
韓国法上のストック・オプション		李範燦	270
株式会社の組織機構の法実態と立法課題		王祖暁 保峰(訳)	286
企業の社会的責任		梁東錫 徐聖浩・多木誠一(共訳)	319
従業員持株会の問題点		道野真弘	340
建設工事紛争の仲裁と仲裁人の忌避		佐上善和	367
債務不存在確認訴訟の機能と確認の利益に関する若干の考察		出口雅久	398
一九世紀末フランスにおける排他的ナショナリズムの様相		中谷猛	413
反ユダヤ主義の動向を手掛かりにして			
志村治美教授略歴・業績			
堤功一教授略歴・業績			

第257号(1998年6月)

〔論説〕

不正条項規制における問題点(二)	EU加盟各国の最近の動きを	鹿野菜穂子	1
手掛かりに			
合憲性審査と立法的対応に関する一考察(一)	違憲判決と「メッ	蛭原健介	24
セージ」型合憲判決にたいする対応			
自殺関与事例における被害者の自己答責性(二・完)		塩谷毅	65
中国における表見代理の成立要件	本人の帰責要件を中心に	祖暁峰	121

〔紹介〕

フランクフルト大学犯罪科学研究所編『刑法の驚くべき状態について』の紹介(四) 刑法読書会 151
生田勝義・本田稔編

〔資料〕

明治初期京都の目安箱訴状(八) 『函訴検閲録』 大平祐一 163
97年度修士号取得者名及び提出論文名一覧
法学会記事
研究会記事

第258号(1998年9月)

〔論説〕

保護者選任審判手続の問題点 成年後見における手続法の整備のために 佐上善和 1

合憲性審査と立法的対応に関する一考察(二・完) 違憲判決と「メッセージ」型合憲判決にたいする対応 蛭原健介 26

〔特別講演〕

学問の自由と責任 ヨアヒム・フマイスター 73
中島茂樹(訳)

〔紹介〕

ギュンター・ヤコブス「故意なき道具を利用した間接正犯における客観的帰属」 松宮孝明 87

第259号(1998年12月)

〔論説〕

契約法における「消費者保護」の意義(一) 適用範囲限定に着目して 谷本圭子 1

憲法院判例における合憲解釈と政治部門の対応(一) 憲法院と政治部門の相互作用の視点から 蛭原健介 40

〔紹介〕

フランクフルト大学犯罪科学研究所編『刑法の驚くべき状態について』の紹介(五) 刑法読書会 88
生田勝義・本田稔編

〔資料〕

韓国司法制度概要と最近の立法動向(一)	金 洪 奎	101
世話事件および収容事件の手續(一) ドイツ非訟事件手続法第65 条ないし第70条nの仮訳とコメント	佐 上 善 和	136
葉秋華「中国の法学教育体制」	出口雅久 永井美佐子(共訳)	163

第260号(1998年12月)

〔論説〕

契約法における「消費者保護」の意義(二) 適用範囲限定に着目 して	谷 本 圭 子	1
ドイツ労働法における平等取扱原則(一)	蛭 原 典 子	42
憲法院判例における合憲解釈と政治部門の対応(二・完) 憲法 院と政治部門の相互作用の視点から	蛭 原 健 介	75

〔研究ノート〕

「自己決定権」論の現代的意義・覚書	吉 村 良 一	119
-------------------	---------	-----

〔資料〕

韓国司法制度概要と最近の立法動向(二)	金 洪 奎	143
世話事件および収容事件の手續(二) ドイツ非訟事件手続法第65 条ないし第70条nの仮訳とコメント	佐 上 善 和	178

第261号(1999年2月)

〔論説〕

韓半島の統一と日本の役割	大 久 保 史 郎	1
ドイツ公共調達法と司法審査の保障 委託発注法改正法による 判的統制の展開	米 丸 恒 治	22
公害・環境私法史研究序説(一)	吉 村 良 一	68
消滅時効・除斥期間と権利行使可能性	松 本 克 美	98
ドイツ労働法における平等取扱原則(二)	蛭 原 典 子	160
〔紹介〕		
ヨアヒム・ルシュカ「遡及禁止, 教唆概念とその帰結」	安 達 光 治	217

〔資料〕

韓国司法制度概要と最近の立法動向(三) 学位論文審査要旨	金 洪 奎 243
---------------------------------	-----------

第262号(1999年3月)

〔論説〕

フランスにおける行政の自然災害防止義務と損害賠償責任	北 村 和 生 1
日本刑法37条の緊急避難規定について	松 宮 孝 明 40
公害・環境私法史研究序説(二)	吉 村 良 一 71
旧ユーゴスラヴィア内戦の要因をめぐる諸論争	一 柳 直 子 111
ドイツ労働法における平等取扱原則(三・完)	蛭 原 典 子 143

〔研究ノート〕

織田萬年譜・著作目録	織田萬研究会 (代表 赤澤史朗) 199
フランス地方政治研究の動向 地域システム理論の発展と新しい地方名望家像	中 田 晋 自 250

〔資料〕

公共委託発注のための法根拠改正法(ドイツ) 公共調達法制の競争制限禁止法への組み込みと裁判的統制の展開	米 丸 恒 治(訳) 287
明治初期京都の目宝箱訴状(九) 『函訴検閲録』	大 平 祐 一 302
世話事件および収容事件の手續(三・完) ドイツ非訟事件手続法第65条ないし第70条の仮訳とコメント	佐 上 善 和 335
韓国司法制度概要と最近の立法動向(四・完)	金 洪 奎 354

第263号(1999年6月)

〔論説〕

公害・環境私法史研究序説(三・完)	吉 村 良 一 1
英国政治における戦後コンセンサスと政治意識(二) 1960年代から90年代にかけての有権者の争点選好の変動を中心に	小 堀 眞 裕 60
ピッツバーグ・ルネサンスと官民パートナーシップ 発と近隣住区の関係に照らして	都 市 再 開 立 石 芳 夫 108
フランス行政裁判における憲法院判例の影響(一)	蛭 原 健 介 148

必要的共犯についての一考察(一)	豊田兼彦	185
不真正不作為犯について(一) 「保障人説」の展開と限界 〔資料〕	平山幹子	218
ルイ14世1670年刑事王令	中村義孝	251
デーゲンハート・フライヘル・フォン・トビッケル「日本における 税務争訟 ドイツ裁判官からみた日本の税務争訟の特徴」	三木義一 奥谷健	(共訳) 323
98年度修士号取得者名及び提出論文名一覧		
法学会記事		
研究会記事		

第264号(1999年9月)

〔論説〕

文書偽造罪における作成者と名義人について	松宮孝明	1
フランス行政裁判における憲法院判例の影響(二・完)	蛭原健介	22
必要的共犯についての一考察(二)	豊田兼彦	80
不真正不作為犯について(二) 「保障人説」の展開と限界 〔資料〕	平山幹子	120
ポルフガング・リュケ「公法と倒産法の交錯 破産における環境 責任を事例として」	出口雅久(訳)	159
韓国の政治変動と民主化以後の課題	金基成	174

第265号(1999年10月)

〔論説〕

近世の非合法的訴訟(七) 駕籠訴・駆込訴を素材として	大平祐一	1
フランス憲法院による審署後の法律の「事後審査」 その可能性と限界	蛭原健介	23
必要的共犯についての一考察(三)	豊田兼彦	61
不真正不作為犯について(三・完) 「保障人説」の展開と限界	平山幹子	103
英米からみた日本の朝鮮支配(一) 戦間期領事報告を中心に	梶居佳広	140
税理士試験免除に係る一考察 ドイツの判例を参考にして	浪花健三	169

〔資料〕

- トーマス・ヴェルテンベルガー「専門教育(Ausbildung), 教育 出口雅久(共訳) 197
(Bildung)及び研究(Forschung)の改革に関する10のテーゼ」野田将人
- 立命館大学法学部所蔵 岡村司文書目録および解説「岡村司文書 鈴木 良 207
について」

第266号(1999年12月)

〔論説〕

- T・ウルズィの政治論 中谷義和 1
「団体の慰謝料請求権」再考(一) 和田真一 24
必要的共犯についての一考察(四・完) 豊田兼彦 46
韓国の住宅政策の変遷と公共の役割 崔 鉉一 69
秩序論の系譜 冷戦秩序との対比 池尾靖志 105

〔資料〕

- タイの国営企業職員関係法 吉田美喜夫(訳) 137
韓国の民主化過程における憲法裁判所と基本権の実現 1988年 鄭 宗 燮 152
から1998年まで

第267号(2000年2月)

〔論説〕

- 「韓日新時代」論考 金大中政権の対日政策 徐 勝 1
「団体の慰謝料請求権」再考(二・完) 和田真一 17
契約法における「消費者保護」の意義(三) 適用範囲限定に着目 谷本圭子 38
して
英米からみた日本の朝鮮支配(二・完) 戦間期領事報告を中心に 梶居佳広 99
に
日・韓ニュータウン開発の政策過程分析 千里・盆唐(ブンドン) 崔 鉉一 132
の建設背景と執行過程を中心に

〔研究ノート〕

- 憲法院と政治部門の相互作用に関する議論の現況 オリビエ・ 蛭原健介 190
シュラメックとアレック・ストーンの所論を中心に

〔資料〕

ヴォルフ・クレフェルト「世話手続における鑑定」	佐上善和(訳) 225
ベルリン州情報自由法	米丸恒治(訳) 250
韓国労働法の形成と展開 政治および労働運動に関連して	朴 洪 圭 260

第268号(2000年3月)

〔論説〕

再審請求審における総合評価 マルヨ無線強盗殺人放火事件再審特別抗告審決定について	松 宮 孝 明 1
消滅時効と損害論 じん肺訴訟を中心に	松 本 克 美 19
ゲリマンダリングと合衆国の投票権法制(上) 代表を選出する機会の平等	倉 田 玲 53
客観的帰属論の展開とその課題(一)	安 達 光 治 112
フランス地方分権改革の源流(上) 1970年代の都市コミュニティにおける分権化要求運動	中 田 晋 自 191

〔資料〕

ギュンター・ヤコブス「刑法における作為と不作為」	松宮孝明 平山幹子 共訳) 256
EU電子署名指令	米丸恒治(訳) 276
タイの新労働保護法	吉田美喜夫 293
ポルフガング・リュケ「国際倒産法『グローバル経済における変遷と変革』」	出口雅久 本間 学 共訳) 341
権威主義の体制下の司法部と刑事裁判 抑圧と抵抗のドラマ(1972~1987)	韓 寅 燮 364

第269号(2000年6月)

〔論説〕

米国会社法における資産譲渡と総会決議 再改正される模範会社法からの示唆	山 下 眞 弘 1
ゲリマンダリングと合衆国の投票権法制(下) 代表を選出する機会の平等	倉 田 玲 24
フランス地方分権改革の源流(下) 1970年代の都市コミュニティにお	中 田 晋 自 87

ける分権化要求運動

雇用差別禁止法理に関する一考察	労働法における平等取扱原則を 中心に	蛭原典子	159
客観的帰属論の展開とその課題(二)		安達光治	252
[紹介]			
ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ古稀祝賀論文集の紹介(一)		刑法読書会 松宮孝明編	297
[資料]			
市民の司法参加		朴元淳	317
韓国の司法制度改革の動向と展望		沈羲基	334
学位論文審査要旨			
99年度修士号取得者名及び提出論文名一覧			
法学会記事			
研究会記事			

第270号(2000年9月)

[論説]

強制連行・強制労働と安全配慮義務(一)	合意なき労働関係にお ける債務不履行責任成立の可否	松本克美	1
客観的帰属論の展開とその課題(三)		安達光治	19
ドイツ処罰妨害罪に関する一考察(一)	ドイツ刑法二五八条五項 について	豊田兼彦	85
「義務犯」について(一)	不作為と共犯に関する前提的考察	平山幹子	112
[紹介]			
ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ古稀祝賀論文集の紹介(二)		刑法読書会 松宮孝明編	138
A. ウォルターズ = M. デーヴィス・ホワイト『取締役の資格剥奪 ：法と実務』		中村康江	153
[資料]			
アレクサンダー・ロスナゲル「データ保護の新たな構想	インターネットの挑戦	イン 米丸恒治(訳)	186
D・ビルク「ドイツの企業税制改革について」		奥谷健(訳)	209
国家人権機構に関する韓国の立法論争	主要争点を中心とし て	郭魯炫	232

第271・272号(2001年2月)

創立百周年記念論文集

〔上巻〕

「農民兵士論争」再論	赤澤史朗	1
正当防衛に関する一考察	生田勝義	28
憲法論のあり方についての覚え書き 憲法の趣旨・精神の援用をめぐって	市川正人	57
自白と補強証拠	井戸田侃	80
検事監督制度からの離脱 ロシア連邦における公判前手続の改革	上田寛	88
明治前期連帯債務法の構造分析によせて	大河純夫	112
日本企業社会と現代人権論 就業時間中の組合腕章・バッジ着用をめぐって	大久保史郎	148
特許権の同一的侵害について	大瀬戸豪志	182
近世日本の訴状 訴願手続の考察に向けて	大平祐一	206
家族と政治	岡野八代	234
消費者信用取引における提携貸主の責任 英国消費者信用法をめぐる議論の展開	鹿野菜穂子	270
フランス行政判例における医療事故と無過失責任の展開	北村和生	297
犯罪報道の公共性と少年事件報道	葛野尋之	317
建築請負人の留置権についての若干の考察	工藤祐巖	347
ドイツにおける政治活動を理由とする解雇と基本権・覚書	倉田原志	373
成年後見事件の審理手続	佐上善和	395
福利厚生を受給権保護に向けて	佐藤敬二	423
台湾「戒厳時期判乱暨匪謀不當審判案件補償條例」の研究 その成立と改正をめぐって	徐勝	444
英国保険契約法と消費者保護 保険約款の解釈方法との関係	竹濱修	500
消費者契約法の人的適用範囲について	谷本圭子	522
グローバル化時代のアジアの人権	堤功一	550
EU 消費者保護とドイツ団体訴訟の新展開	出口雅久	570
欧州人権条約第一二議定書の成立	徳川信治	589

〔下巻〕

成年後見制度と私的自治	中井美雄	623
憲法問題としての政治献金 「目的の範囲」条項と会社の政治 献金	中島茂樹	647
「ナショナル・アイデンティティ」の概念に関する問題整理 国民国家論研究のためのノート	中谷猛	681
ジョン・W・バージェスの政治論 民族主義的国民国家の原理	中谷義和	713
内縁の死亡解消と財産の分配 判例の検討と財産分与準用論 再論	二宮周平	733
起訴後勾留中の被告人に対する余罪の取調べについて	久岡康成	762
渉外的な子の奪取における返還の否定	樋爪誠	783
陳述書提出事件の実態分析 陳述書の利用状況把握に向けた準備的 考察	藤本利一	802
世紀転換期の現代行政学 現代アメリカ行政学の自画像をてがかり に	堀雅晴	833
「行為」概念と犯罪体系	松宮孝明	874
欠陥住宅と建築士の責任 建築確認申請に名義貸しをした場合	松本克美	900
税務調査における第三者立会と守秘義務	三木義一	928
日本の都市政策 発展の特徴と政治行政過程	村上弘	943
自由権規約選択議定書に付した留保の無効 規約人権委員会ロウ ル・ケネディー事件見解	薬師寺公夫	980
会社分割法制の創設と営業譲渡	山下真弘	1009
障害者の参政権保障と関連諸サービスの提供 障害者の参政権保 障のための投票所調査の結果から	山本忠	1037
タイの新「国営企業労働関係法」の意義と課題	吉田美喜夫	1058
公害における過失責任・無過失責任	吉村良一	1083
公共調達に関する権利救済とその実効性 ドイツ委託発注法改正 法後の状況	米丸恒治	1115
人格権としての私道通行権について	和田真一	1145
医療過誤訴訟と医学的知識 因果関係の専門性を手がかりに	渡辺千原	1172

第273号(2001年2月)

〔論説〕

経験科学と刑事立法 「国民の期待」への応答をめぐって	葛野 尋之	1
強制連行・強制労働と安全配慮義務(二・完) 合意なき労働関係 における債務不履行責任成立の可否	松本 克美	33
客観的帰属論の展開とその課題(四・完)	安達 光治	87
ドイツ処罰妨害罪に関する一考察(二・完) ドイツ刑法二五八条 五項について	豊田 兼彦	151
「義務犯」について(二・完) 不作為と共犯に関する前提的 考察	平山 幹子	207
イギリス旧裁判官準則期におけるホールディング・チャージにつ いて	和田 進士	272
カナダ連邦システムと地域主義, 国民統合 西部カナダ地域主義 と連邦制度改革論を中心に	柳原 克行	336
英国における取締役の資格剥奪(一)	中村 康江	416
「国家の国際犯罪」としての侵略 法典化の歴史のおよび理論的検 討	木原 正樹	474
〔特別講演〕		
ウルリッヒ・アイゼンハルト「ドイツ民法典の不完全性と法曹の 力量 サヴィニーは正しいことを述べてはいなかったか? 」	谷本 圭子(訳)	549
〔紹介〕		
フランクフルト大学犯罪科学研究所編『刑法の驚くべき状態につ いて』の紹介(六)	刑法読書会 生田勝義・本田稔編	564
ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ古稀祝賀論文集の紹介(三)	刑法読書会 松宮孝明編	572
〔資料〕		
鄭宗燮「韓国の民主化における憲法裁判所と権力統制 1988年 から1998年まで 」	徐 勝(訳)	590
学位論文審査要旨		

第274号(2001年3月)

中谷猛教授退職記念論文集

〔論説〕

アンリ・クーユとその時代	第四共和制とフランス急進党	土倉 莞 爾	1
初期蘇峰と「平民主義」の挫折		米原 謙	30
市民概念に関する一考察		小野 紀 明	53
アイデンティティへの道	サルトル『自由への道』を手がかり に	川上 勉	83
バージェスのアメリカ国家論		中谷 義 和	114
戦後日本の戦争責任論の動向		赤澤 史 朗	137
「道州制」は連邦制の夢を見うるか？	ドイツ連邦制を支える細 部設計について	村上 弘	164
英国におけるクワンゴ問題に関する一考察	非選出・任命諸団体 のアカウントビリティーと労働党のクワンゴ改革	小堀 眞 裕	186
1998年北アイルランド地方議会選挙の構造		南野 泰 義	266
人間の条件と物語論の接点	アーレントの 아우グスティヌス理解を 中心に	岡野 八 代	298
旧ユーゴ内戦と国際社会	クロアチア内戦・EC・国連	一柳 直 子	326
ドゴール体制下における地域システム改革の特質	参加・包摂構 造と地域政治構造の政権戦略的改革	中田 晋 自	371
カナダにおける連邦政党システムと国民統合	構造と変容	柳原 克 行	394
中谷猛教授略歴・主な業績			